

十六年十一月報第
十五號達(本類ニ
編入)ヲ以テ小包
郵便稅及書留ニ係
ル廉改正セラレ宜
ク該送參看スヘシ

小包郵便ハ一方ニ於テハ左ノ日本ノ諸局即チ東京大坂京都橫濱神戸長崎函館及
ヒ新潟又一方ニ於テハ香港(澳門ヲ籠メ)在清國ノ各英郵便局(海口、廣東、仙頭、
廈門、福州、寧波、上海、漢江)並ニバコイ「シンガポール」「ペナン」及「マラッカ」ノ
郵便局ノ間ニ郵便ニテ交換スヘシ而シテ小包ノ大サハ長サ二尺(二フイート)幅
厚サ各一尺(一フイート)重量ハ六百目(五ポンド)ニ過クヘカラス郵便稅ハ書留
手數料ヲ籠メ百二十目(一ポンド)若シクハ其端數毎ニ二十錢(二十セント)トス
且小包ノ表記ニ「信書封入無之」ト記載スルトキハ其全躰ヲ密包スルヲ得ルト雖
モ差立局ノ郵便局長ハ之レヲ開キ視檢スルヲアルヘシ
一左ノ物品ハ運送ヲ許サス即チ充分安全ニ上包セサルカ或ハ破壊シ易キ小包(紙
匣類、玻璃、流動物、爆發質物、早附木、藍靛、染質物、氷、魚類、菓物、野菜)其他
何品ニ限ラス郵便物ヲ損害スヘキ物或ハ運送途中危難ヲ醸シ易キ品物
一 小包郵便ハ英國並ニ佛國ノ郵便船ヲ除クノ外郵便局ニ於テ適當ノ便船ヲ選ヒ遞
送スルモノトス且ツ小包ノ數多分ニシテ他ノ郵便物ノ遞送ニ差支ヲ生スル場合
ニ於テハ其遞送ヲ延引スルヲアルヘシ但シ郵便局ハ何等ノ小包ニテモ其危難ヲ
請合ハサルモノトス
此條約書ニ通ニ認メ手記スルモノナリ

日本東京ニ於テ
明治十二年十二月二十六日 驛遞局長 前 島 密

香港ニ於テ
一千八百七十九年十二月十日 驛遞總長 アルフレッド、リストル

○報第拾五號驛遞局達 明治十六年十一月一日 驛遞出張局 郵便局 郵便受取所

本邦ト香港ノ間小包郵便取扱方左之通改正候條此旨相達候事
一 小包郵便稅ハ重量五拾「グラム」毎ニ貳錢トス
一 書留手數ヲナサス
但差出人ニ於テ書留ヲ望ム時ハ手數料拾錢ヲ課ス

第貳類 加那太ト小包郵便交換條約

○勅令 明治二十三年九月九日
朕帝國遞信大臣ト英領加那太郵政長官トノ間ニ小包郵便交換約定ヲ締結セシメタ
ルニ依リ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

日本遞信省ト加那太郵政廳ノ間ニ郵便ヲ以テ閉塞小包ノ交換ニ關スル約定書
日本帝國ト英領加那太國ノ間ニ郵便事務ノ擴張ヲ計リ冊後ニ記名スル日本遞信大
臣伯爵後藤藤象二郎及加那太郵政長官「ジオン、グラーム、ハツガート」ハ各成法ヲ以
テ保持スル所ノ權限ニ依リ左ノ條々ヲ約定ス

第一條

日本ト加那太ノ間ニ郵便ヲ以テ閉囊小包ノ交換ヲ執行スヘシ

第二條

小包ハ加那太「ヴァンクローザア」ト日本横濱間ニ往復スル加那太平洋洋汽車及瀛船會社ノ汽船ヲ以テ遞送スヘシ

第三條

小包一個ノ重量ハ七封度迄トシ其大サハ長サ二「フヒート」廣サ若クハ厚サ共一「フヒート」迄トス

第四條

郵便稅ノ割合ハ一封度若クハ其分數ニ付二十五仙トス

第五條

郵便稅ハ左ノ通り分配スヘシ
日本へ陸運賃トシテ一封度ニ付八仙ヲ拂セ加那太へ海運賃トシテ九仙及陸運賃トシテ八仙ヲ拂フヘシ

第六條

加那太郵政廳ニ於テ兩國間ニ發著スル小包ノ海運ヲ負擔スヘシ

第七條

交換スヘキ小包中ニハ兩國間郵便ニ依リ往復スル他ノ物品ニ關スル規則ヲ以テ其

遞送ヲ禁シタル物品ヲ封入スヘカラス

第八條

小包ハ封入物ノ價格ヲ公記セル稅關告知書ヲ貼付スヘシ且ツ兩國ニ於テ受取タル小包ハ稅關ノ法律規則ニ從フヘシ

第九條

横濱郵便局ヲ以テ日本ニ於ケル小包郵便ノ交換局トシ「ヴァンクローザア」郵便局ヲ以テ加那太ニ於ケル交換局トス

第十條

小包郵便ハ小包目錄書ヲ添フヘシ此ノ目錄ハ差立局ニ於テ小包ノ番號差出地名受取人ノ宛名封入物ノ公記價額及前拂セル小包一個分ノ數而シテ其下部ニ差立タル小包ノ數及其重量ノ概計並ニ正味ヲ記入スヘシ

第十一條

小包ハ適當ニ包裝シ甲國ヨリ乙國へ送ルトキハ柳條ヲ以テ編ミタル堅固ノ籃ニ入レ發送スヘシ此ノ籃ハ加那太郵政廳ヨリ供給スヘシト雖モ日本遞信省ハ其費用ノ一半ヲ仕拂フヘシ

第十二條

配達シ難キ小包ハ差出國ニ於ケル差出人ニ返還スルコトヲ得ヘシ而シテ當初之ニ賦課シタルト同額ノ遞送料ヲ賦課スヘシ其遞送料ハ返還國ニ於テ前拂シ若クハ該

廿六年一月勅令ヲ以テ第三條中修正ノ追加約定ヲ公布セラルル依テ本文ノ如ク訂正セシニ付該追加約定書ハ茲ニ編入セス

小包目錄中ニ記入シ配達ノトキニ際シ徵收スルコトヲ得ヘシ然レトモ返還國ニ於テ遞送料ヲ前拂セス差出國ニ於テ該小包ヲ差出人ニ配達シ難キトキハ差出國ハ其事由ヲ返還國ニ通報シ之ニ賦課スヘキ遞送料ノ仕拂勘定ヲ爲スヘシ

第十三條

名宛人ニ配達シ難キ小包ニシテ其差出人ノ發見セサルトキハ特別ノ定約アル場合ニ非レハ兩郵政廳ノ間ニ照會ヲ經タル上差出國ニ返還シ配達シ難キ小包トシテ取扱フヘシ

第十四條

小包ヘ賦課スル遞送料ノ計算書ハ三箇月毎ニ加那太郵政廳ニ於テ二通ヲ調製シ審查及決算ノ爲メ日本遞信省ヘ送付スヘシ

第十五條

此約定ハ千八百九十年十月一日ヨリ實施シ甲應ヨリ乙應ヘ廢止ノ報知ヲナシタル日ヨリ六ヶ月間ヲ經過スル迄其効力ヲ有スヘシ
本書二通ヲ調製シ一通千八百九十年六月 日加那太「オッタワ」ニ於テ記名シ一通ハ明治二十三年九月三日日本東京ニ於テ記名ス

日本遞信大臣 伯爵 後藤象二郎

加那太郵政長官 シオンハッガート

第三類 加那太ト小包郵便交換諸規則

小包郵便規則

○省令第十九號遞信省 明治二十三年九月十一日
日本加那太間ニ交換スル小包郵便規則左ノ通相定ム

日本加那太間ニ交換スル小包郵便規則

第一條 加那太ヘ宛テ差出スヘキ小包郵便物ハ左ノ各局ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 東京郵便電信局 | 京都郵便電信局 | 大坂郵便電信局 |
| 横濱郵便電信局 | 神戸郵便電信局 | 長崎郵便電信局 |
| 函館郵便電信局 | 新潟郵便電信局 | 仙臺郵便電信局 |
| 札幌郵便電信局 | 静岡郵便電信局 | 名古屋郵便電信局 |
| 金澤郵便電信局 | 廣島郵便電信局 | 赤間關郵便電信局 |
| 熊本郵便電信局 | | |

第二條 小包郵便物ハ郵便切手ヲ以テ郵便稅ヲ前拂シタルモノニ限ルヘシ

第三條 小包郵便物ハ左ノ各項ニ適合シタルモノニアラサレハ遞送セサルヘシ

一 受取人ノ名宛ヲ明瞭ニ記載シタルモノ

一 凡テ包裝ノ内部ヘ封入物品ノ性質形狀ニ應シ相當ノ手當ヲ施シ其外部ハ遞送ノ途中損傷ヲ防クニ足ルヘキ手當ヲ爲シタルモノ

一 封緘ハ封蠟又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ施シ且之ニ印影若クハ記號ヲ押捺シタルモノ

第四條 左ニ記載シタル物品ハ小包郵便物ト爲スヲ許サス

一 信書又ハ通信文ノ性質ヲ具フル書類若クハ他ノ法律規則ニ依リ遞送ヲ禁シタル物品

一 爆發性若クハ發火シ易キモノ其他總テ危險ナル物品

一 流動物腐敗融解シ易キモノ脆弱ノモノ其他性質又ハ形狀ニ依リ他ノ郵便物ヲ毀損スヘキ物品

一 風俗ヲ害スヘキ文書圖書寫真及物品

第五條 小包郵便物差立者ハ引受郵便電信局ヨリ税關告知書用紙ヲ受取り之ニ其指定ノ要件ヲ記載シ其小包ニ貼付シテ差出スヘシ

第六條 小包郵便物中遞送ヲ禁シタル物品封入アリト思量シタルトキ又ハ封入ノ物品税關告知書ニ記載ノ物品ト相違アリト思量シタルトキハ之カ開示ヲ命スルコトアルヘシ其命ニ應セサルモノハ遞送ヲ拒絶スヘシ

又包裝方充分ナラスト認メタルトキハ之カ改装ヲ命スルコトアルヘシ其命ニ應セサルモノ亦前項ニ同シ

第七條 小包郵便物ノ差出人ニハ引受郵便電信局ヨリ受取證書ヲ交付スヘシ

第八條 小包郵便物到着シタルトキハ其受取人居住地ヲ管轄スル郡市役所在地ノ郵便電信局又ハ郵便局ヨリ到着報知書ヲ發スヘシ受取人ハ其局ニ就テ之ヲ受取ヘシ

第九條 到着小包郵便物ニシテ輸入税ヲ課スヘキ物品ナルトキハ受取人其税金ヲ

納付スルニアラサレハ其郵便物ヲ受取ルコトヲ得ス

○公達第三百四十五號遞信省 明治二十三年九月十九日

郵便電信局 郵便局

日本加那太間ニ交換スル小包郵便取扱手續左ノ通り相定ム

日本加那太間ニ交換スル小包郵便取扱手續

第一款 通常局取扱方

第一條 小包ヲ郵便ニ差出サントスルモノアルトキハ税關告知書用紙(式紙第一號)ヲ交付シ之レニ其指定ノ要件ヲ記載セシメ小包ニ貼付シテ差出サシムヘシ

第二條 前條ノ小包ヲ差出シタルトキハ小包郵便規則第三條第四條ニ抵觸ノ有無、封入ノ物品、税關告知書ニ記載ノ物品ト相違ノ有無、重量、寸尺ノ適否及貼付郵便切手等精密ニ検査ヲ爲スヘシ

第三條 小包ヲ受付ケタルトキハ之ヲ差立小包原簿(式紙第二號)ニ記入シ差出人ニハ小包領收證(式紙第三號)ヲ交付スヘシ

第四條 受付ケタル小包ハ小包目録(式紙第四號)ヲ作り左ノ區別ニ依リ交換局ニ向ケ遞送スヘシ

一 鐵道又ハ水路郵便線路ニ在リテハ鐵道又ハ水路郵便線路便ニ由リ遞送スヘシ
一 通常道路郵便線路ニ在テハ内國通運會社其他確實ノ運送營業者ニ附托シテ遞送スヘシ

但通常道路ノ遞送里程遠カラサルノ地ニ送達スヘキモノニシテ小包ノ重量寸尺等車送又ハ人夫送ニ適シ且通常ノ郵便物ト合送爲サシムルモ過人夫ヲ要セサル場合ニ於テハ通常郵便物ト合送スヘシ

一鐵道若クハ水路郵便線路ト通常道路郵便線路ト相連通シテ遞送スヘキ場合ニ在リテハ通常道路ヲ以テ始マルモノハ鐵道若クハ水路郵便線路最初ノ郵便電信局又ハ郵便局迄送達シ鐵道若クハ水路郵便線路ヲ以テ始マルモノハ鐵道若クハ水路郵便線路最終ノ郵便電信局又ハ郵便局迄送達シ更ニ其局ヨリノ差立方ヲ囑托スヘシ

前項ノ鐵道若クハ水路郵便線路ニ差立ツルトキハ鐵道郵便係員若クハ船長ヨリ交付證ヲ取置キ又内國通運會社其他確實ノ運送營業者ニ附托スルトキハ受取證ヲ取置クヘシ

第五條 輸入小包到着シタルトキハ小包目録ニ照合シテ受取リ到着小包原簿(式紙第五號)ニ記入スヘシ

第六條 到着小包ハ到着報知書(式紙第六號)ヲ作り受取人ニ送付シ受取人出頭ノトキ之ヲ交付シ受取證(第七號)ヲ取置クヘシ

但シ輸入稅徵收書添付シアルモノハ受取人輸入稅ヲ納付セサレハ交付スヘカラス

第七條 名宛人ノ所在分明ナラス又ハ輸入稅ノ納付ヲ拒ム等事故ノ爲メ交付シ能

ハサル輸入小包ハ第三條及第四條ノ手續ニ從ヒ交換局ニ返送スヘシ此場合ニ於テハ小包目録及差立小包原簿到着小包原簿ノ附注欄内ニ其事由ヲ記載スヘシ又第十四條ノ輸出小包ヲ交換局ヨリ返送シ來リタルトキハ第五條及第六條ノ手續ニ從ヒ差出人ニ還付スヘシ若シ差出人ノ所在分明ナラサルカ爲メ還付シ能ハサルトキハ差出人受取人ノ住所氏名及交付又ハ還付シ能ハサル旨ヲ記載シ十五日間局前ニ揭示シ尙差出人分明ナラサルトキハ其顛末ヲ具シ處分方遞信省ニ伺出ヘシ

第八條 差立小包目録ハ其寫ヲ作り每一ヶ月分取纏メ遞信省ニ送達スヘシ

第二款 交換局取扱方

第九條 通常局ヨリ輸出小包ヲ送達シ來リタルトキハ小包目録ニ照合シテ之ヲ受取リ到着小包原簿(式紙第五號)ニ記入スヘシ

第十條 輸出小包ハ之ヲ取纏メ丁寧ニ詰込ミ「ヴァンクローヴァー」郵便局宛締切ト爲シ加那太平洋瀛船會社ノ瀛船船長若クハ其代理員ニ交付シ受取證(式紙第八號)ヲ取置クヘシ

第十一條 輸出小包ヲ差立タルトキハ其都度別ニ小包目録(式紙第九號)ヲ作り書留郵便ヲ以テ「ヴァンクローヴァー」郵便局ニ送付スヘシ

第十二條 輸入小包到着シタルトキハ小包目録ニ照合シテ其箇數ヲ檢シ且稅關告知書ニ據リ之レニ課スヘキ輸入稅ノ評定ヲ稅關ニ請求スヘシ

第十三條 前條ノ手續ヲ了リタルトキハ小包目録ニ據リ到着小包原簿(式紙第十號)ニ記入シ受取人自局最寄ニ住居セサルモノハ差立小包原簿(式紙第二號)ニ記入シ小包目録(式紙第四號)ヲ作り輸入稅徵收書ト共ニ第四條ノ手續ニ從ヒ受取人居住地ヲ管轄スル郡市役所所在地ノ郵便電信局又ハ郵便局ニ遞送スヘシ

第十四條 一旦輸出シタル小包ニシテ名宛人ノ所在分明ナラサル等事故ノ爲メ交付シ能ハサル小包ノ處分方ヲ「ヴァンクローヴァー」郵便局ヨリ照會ヲ受ケタルトキハ問合狀(式紙第十一號)ヲ以テ其處分方差出人ニ問合スヘシ

又前項ノ小包返送シ來リタルトキノ取扱方ハ第十二條第十三條ニ據ルヘシ

但輸入稅評定ノ請求及徵稅書送達ノ手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條 第七條ニ記載シタル輸入小包ノ返送ヲ受ケタルトキハ該小包ヲ其局ニ留置キ問合狀(式紙第十二號)ヲ以テ「ヴァンクローヴァー」郵便局ニ照會スヘシ

第十六條 輸入小包目録ニシテ到着小包ト符合セサル廉アルトキハ點檢狀(式紙第十三號)ヲ以テ「ヴァンクローヴァー」郵便局ニ通知シテ取調ヲ求ムヘシ

第十七條 輸出小包ニシテ和文ヲ以テ差出人受取人ノ宿所氏名及稅關告知書ヲ記載シタルモノハ英文ニ翻譯シ又輸入小包受取人ノ宿所氏名等ハ和文ニ翻譯スヘシ

第十八條 第十一條ノ輸出小包目録及第十二條ノ輸入小包目録ハ差立及到着ノ都度寫ヲ作り遞信省ニ送達スヘシ

又第十三條ノ小包目録ハ其寫ヲ作り每一ヶ月分取纏メ遞信省ニ送達スヘシ

第十九條 交換局ニ於テ自局ニ受付又ハ自局ヨリ直ニ到着報知書ヲ發スヘキ小包ノ取扱方ハ第一條乃至第八條ノ例ニ據ルヘシ

(式紙第一號 和英兩種)

小包郵便稅關告知書			
日付印	小包名宛地	封入品表記	差出人
小包目録第 號	小包ノ概略重量 (郵便局ニテ記ス ヘシ)	封入品正味重量 (差出人記スヘシ)	差出人 氏名
封度 オンス	封度 オンス	價額 圓 錢	小包目録第 號
記入第 號	小包ノ概略重量 (郵便局ニテ記ス ヘシ)	價額 圓 錢	小包目録第 號

(式紙第八號 英文)

	籃ノ箇數	宛	局	附	注
前記之小包郵便物正ニ受取候也 、、、、、、、、、、 瀛船乗込員記名 年月日 横濱郵便電信局長殿					

印付日局立差

(式紙第九號 英文)
 小包目録
 日本ヨリ加那太へ差立タル小包
 小包目録第、、、、號、、年、、月、、日

印付日局取受

小包 番號	差 地名	出 人名	宛 地名	宛 封入品表	記 價	記 類	加那太 加那太へ 再達先拂 小包	注

、、郵便ヲ以テ遞送セル小包ノ總數、、、、返還セル空函及行囊ヲ除キ
 小包郵便ノ概畧重量、、、、封度小包ノ正味重量、、、、封
 度返還セル空函及行囊ノ重量、、、、封度

差立官吏ノ記名、、、、
 到達ノ上受取官吏ノ記名、、、、

名古屋郵便電信局照會 明治二十三年九月二十五日

本邦加那太間小包郵便取扱手續中質議ノ廉々左ニ (一)式紙第一號稅關告知書用紙ハ小包一個ニ付壹葉ヲ要スルカ或ハ數個ヲ併記シ得ルカ (二)各式紙中小包壹個分ノ數トアルハ如何前項初段見解ノ如クナルニ於テハ小包壹個ノ數ト異ナルナシ右ハ數個併記セサレハ其項ノ必要ヲ見サルヲ以テナリ (三)第四條二項內國通運會社其他運送營業者ニ附托遞送ノ方法ハ其時々適宜締約遞送セシムルヤ或ハ內國通運會社等へ豫テ命令可相成哉 (四)右遞送賃ハ其時々支拂フヘキヤ然ラハ遞信事業費遞送費ノ目中何レノ節ヨリ支出スルカ (五)同條三項小包ヲ差立ツルハ鐵道郵便掛員若クハ船長ヨリ交付證ヲ取置キ運送業者ニ付托スルキハ受取證ヲ取置クヘシトアリ右ハ孰レモ受取ノ證ニシテ名稱ノ如ク異ナルハ意味有之候哉 (六)第六條但書ニ依リ徵收スヘキ輸入稅ヲ納付シタルトキハ交換局(橫濱)へ送付スヘキ義カ (七)右金額ハ出納官吏一時金庫へ義務委託トシ引出切符ヲ以テ拂出シ振替爲替ヲ以テ送付シ可然哉其三等局ニ於テハ直チニ振替爲替ヲ以テ交換局へ送付スル義カ (八)名宛人遠隔ノ地へ轉住シタル等ノ場合ニハ第七條所在不明ノモノト異ナリ郵便ノ性質上固ヨリ其轉住地へ追送スヘキカ將タ宛名住所ニ止ムル義カ (九)右前段見解ノ通りニ候ハ、轉住地マテノ遞送賃ハ別段徵收セサル義カ或ハ受取人ヨリ徵收スヘキ哉

郵務局回答 明治二十三年十月二日

(一)式紙第一號稅關告知書用紙ハ小包壹個ニ付壹葉ヲ要スヘキ義有之候 (二)諸式紙中小包壹個分ノ數トアル欄へハ小包一封度毎ヲ以テ一個分ノ數トナスカ故例令へハ小包ノ重量ニ封度ナル時ハ貳ト又ハ二封度ニ「チンス」ナル時ハ三ト記入スルカ如クニ有之候 (三)前段御見解ノ通り (四)遞送費ノ中遞送受負料ヨリ臨時支出相成可然候 (五)交付證トハ通常帳簿又ハ送致證ヲ以テ交付シ又受取證トハ適宜書記シタル受取ノ證ヲ取置クモノニ有之候 (六)(七)御見解ノ通り (八)(九)前段御見解ノ通り

○公達第三百五十一號遞信省 明治二十三年九月三十日

郡市役所々在地

郵便電信局及郵便局 (省令第十九號小包郵便規則第二條ニ掲載スル郵便電信局ヲ除ク)

本月十九日公達第三百四十五號日本加那太間ニ交換スル小包郵便取扱手續ニ掲載シアル關係式紙類ハ追テ印刷配付スヘキニ依リ當分ノ内右式紙類ニ準シ便宜ニ製シテ使用ス可シ

○小包郵便取扱手續中第二號式紙省署方ノ件

鳥取郵便電信局真申 明治二十三年十月七日

日本加那太間ニ交換スル小包郵便取扱手續ニ掲載スル關係式紙類御配付相成候迄便宜調製方客月三十日第三百五十一號公達ノ趣モ有之就テハ該郵便物取扱御指定外ノ當局等ト雖モ客月十九日公達第三百四十五號中第二第四第五第六第七號式紙類調製スヘキ等ト存候處當局ノ如キハ單ニ輸入小包郵便物及ヒ其交付シ能ハサル

郵便物返送方ノ取扱ニ止マリ新ナル郵便物ノ差立ヲ取扱ハサルカ故式紙第二第四號ハ全ク返信ノ外用ニヘキナク然ルニ右返送ノ場合ニ於テハ一面第四號小包目錄式紙附註欄内ヘ其由ヲ記載シ返送スヘキ小包郵便物ト其ニ送付シ一面第五號到着原簿附註欄内ヘ返送ノ事由ヲ記載シ置候ヘハ右ニテ郵便物ノ處分方一目井然タルヲ以テ右式紙中第二號ニ限リ省零シ不苦哉

(遞信省)指令 明治二十三年十月二十九日

小包返還ノ爲メ發送ノ際ハ必ス一旦第二號式紙ハ登記スヘキ儀ト心得ヘシ

○鐵道又ハ水路郵便線路ニ差立ル小包郵便交付證ノ件

東京郵便電信局照會 明治二十三年十月十六日

本年九月公達第三百四十六號ヲ以テ同第三百四十五號小包郵便取扱手續第四條第三項ニ據リ鐵道若クハ水路郵便線路ニ差立ルトキハ鐵道郵便係員若クハ船長ヨリ交付ノ證ヲ取置クヘシトアリ之レヲ受領シタル該當鐵道係員ハ其宛局ヘ送付スルニ當リ鐵道郵便取扱手續ニ準據シ普通締切行囊ト見做シ引渡證相當欄内ヘ合記シ差支無之トハ思考候得共小包郵便ニ限リ最初受領ノ際特ニ差立局ニ向ヒ交付證ヘ調印スヘキニ依リ鐵道係員ヨリ其宛局ヘ送付ノ片ニ於テモ鐵道郵便引渡證ノ外特ニ送付證ヲ添付シ到着局ヨリ證印取置候方可然哉

回答 明治二十三年十一月二十一日

公達第三百四十六號ニ交付證云々トアルハ特別ノ交付證ヲ用フルノ意ニ無之鐵道

郵便送致證等ヲ以テ適宜受渡ヲ證明セシムヘキ趣意ニ有之候從而鐵道掛員ヨリ宛局ヘ送付ノ節モ單ニ鐵道郵便引渡證ヲ使用シ特ニ送付證ヲ添付シ到着局ノ證印ヲ受クルニ不及義ニ有之候但右送致證及引渡證適宜ノ欄内ニハ小包行囊箇數ヲ記入シ受渡方證明相成可然

○公達第四百八號遞信省 明治二十三年十一月十日

郵便電信局 郵便局

本年公達第三百四十五號日本加那太間ト交換スル小包郵便取扱手續第十三條ニ據リ橫濱郵便電信局ヨリ小包郵便ヲ差立ル片ハ輸入願書ニ必要ノ條件ヲ記入シ輸入稅徵收書ト共ニ小包ニ添ヘテ發送シ到達局ニ於テハ其小包ヲ受取人ニ交付スル際本人ヲシテ右輸入願書ニ記名調印セシメタル上橫濱郵便電信局ヘ之ヲ返送スヘシ

○公達第四百四十三號遞信省 明治二十三年十二月六日

一二等郵便電信局 一等郵便局

本年當省令第十九號第八條ニ據リ加那太ヨリ日本ヘ到着シタル小包郵便物ヲ其受取人ヘ交付ノ際受取人ヨリ該輸入稅金ヲ納付シタルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

小包郵便物輸入稅金整理手續

第一項 小包郵便物ノ輸入稅金ノ受拂ハ雜部金ノ名稱ヲ以テ整理シ爲替貯金出納官吏ニ於テ該現金ヲ取扱フモノトス

小包郵便物輸入稅金整理手續

第二項 爲替貯金出納官吏ハ現金出納簿ニ於テ別ニ雜部金ノ口坐ヲ設ケ其受拂ヲ登記スヘシ

第三項 前項雜部金ノ受拂ハ收支傳票ヲ發シ當該局長ノ決判ヲ得テ執行スヘシ但收支傳票ハ小包郵便物受取人ノ輸入願書ニ依リ調査スルモノトス

第四項 小包郵便物取扱局ニ於テ小包郵便物受取人ヨリ輸入税金ヲ徵收シタルトキハ其當日若クハ翌日之ヲ郵便振替爲替證書トナシ該證書ニ輸入願書ヲ添ヘ横濱郵便電信局ヘ送付スヘシ

但徵收シタル輸入税金ノ領收證書ハ出納官吏ニ於テ之ヲ其納人ヘ交付スヘシ
第五項 横濱郵便電信局ニ於テハ前項ノ送金ヲ受ケタルトキハ之ニ添付ノ輸入願書ト照查ノ上送金先ノ出納官吏ヘ該金ノ領收證書ヲ交付スヘシ

第六項 横濱郵便電信局ニ於テハ既ニ稅關ヘ交付シタル小包郵便物納稅保證書ニ對スル金額ノ取纏マリタルトキハ速ニ之ヲ横濱稅關ニ拂込ノ手續ヲナスヘシ
第七項 各配達局ハ其徵收シタル輸入税金ヲ第四項ノ期日内ニ横濱郵便電信局ヘ送金スル場合ニ於テハ該現金ヲ金庫ヘ義務委託ヲ要セス若シ其期日内ニ送金シ難キトキハ一旦雜部金ノ名稱トシ義務委託ヲナスヘシ

○公達第四百四十四號遞信省 明治二十三年十二月六日
三等郵便電信局 小包郵便物交付
三等郵便局 同
本年當省令第十九號第八條ニ據リ加那太ヨリ日本ヘ到着シタル小包郵便物ヲ其受

取人ヘ交付ノ際受取人ヨリ輸入税金ヲ納付シタルトキハ直ニ該税金ヲ振替爲替證書トナシ其爲替證書ニ小包受取人ノ輸入願書ヲ添ヘ之ヲ横濱郵便電信局ニ送付スヘシ
但輸入税金ハ爲替貯金出納官吏ノ資格ヲ以テ取扱ヒ且其受拂ノ成績ヲ適宜記載シ置クヘシ

第四類 加那太ト交換小包郵便料

○告示第三十號遞信省 明治二十六年一月二十八日
本邦發加那太宛小包郵便料重量一封度若クハ其端數ニ付三十五錢ト改定ス

第五類 小包郵便輸出關稅免除

○法律第八十二號 明治二十三年九月十二日
除小包郵便ヲ以テ外國ヘ輸出スル物品關稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
小包郵便ヲ以テ外國ヘ輸出スル物品ハ凡テ關稅ヲ免除ス

第三編 外國郵便爲替

內國郵便爲替外國郵便爲替何レニモ通用ユヘキ事項ハ内國郵便爲替第六卷ニ編入シ在ルヲ以テ宜ク參看スヘシ

第壹類 萬國郵便爲替條約

○勅令 明治二十五年六月二十二日

朕明治十九年二月第三號布告郵便爲替交換約定及ヒ郵便爲替交換約定里斯本追加改正ノ郵便爲替事務約定ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

(別冊)

萬國郵便聯合

獨逸國保羅東阿非利加領ハ萬國郵便爲替約定ニ加入ス(廿四年十月告示第百三十七號參看)
萬國郵便條約(本條)參看

日耳曼、亞然的、音共和國、奧地利、洪島利、白耳義、伯西兒、勃爾瓦利、智利、古西多利加共和國、丁抹及其殖民地、埃及、佛蘭西及其殖民地、伊太利、日本、「リベリア」共和國、歷山堡、那威、和蘭及其殖民地、葡萄牙及其殖民地、羅馬尼、薩瓦多、暹羅王國、瑞典、瑞西、突尼斯、挪威國、土耳其及「ウルゲ」ノ間ニ締結セル郵便爲替事務約定下ニ氏名ヲ連署セル前掲各國政府ノ全權委員ハ郵便本條約第十九條ニ據リ更ニ各國ノ批准ヲ受クヘキモノトシテ協議決定セシ條款左ノ如シ

第一條

郵便爲替締結盟國中其郵政廳ニ於テ互ニ郵便爲替業務ノ開設ヲ承諾シタル諸國ノ間

ニ郵便爲替ノ方法ニ依リ金錢ヲ交換スルハ本約定ノ諸條款ニ準據スヘシ

第二條

- 一 爲替金額ハ正金ニテ差出人ヨリ受領シ受取人ニ拂渡ヲ通則トス然レトモ各郵政廳ハ其國內ニ通用スル紙幣ヲ以テ爲替金受拂ニ充用スルヲ得但シ市場上差額ヲ生スルトキハ其差額ヲ算入スヘキモノトス
- 二 爲替一口ノ金額ハ五百「フランク」若クハ其他ノ貨幣ナルトキハ之ニ最近ノ額ヲ超過スヘカラス
- 三 關係郵政廳ノ間ニ特殊ノ約定アルモノヲ除キ其他ハ拂渡國ノ正貨ヲ以テ爲替券面ニ其金額ヲ記載スヘシ振出國郵政廳ハ時宜ニ依リ自國ノ貨幣ヲ拂渡國ノ正貨ニ換算スヘキ割合ヲ定ムヘシ
- 四 振出國及拂渡國ニ於テ其貨幣ノ制度ヲ同フスルトキハ振出國ノ郵政廳ハ時宜ニ依リ前段ト同シク差出人ヨリ受領スヘキ相場額ヲ定ムヘシ
- 四 締盟各國ハ其領地内ニ於テ締盟ノ他國ヨリ到達セル郵便爲替ノ所有權ヲ裏書ノ方法ニ依リ讓渡ヲ許可スルノ權利ヲ有ス

第三條

一 前條ニ據リ送付スル各爲替ニ對シ差出人ヨリ徵收スヘキ爲替料ニ二十五「フランク」或ハ其端數ニ付二十五「サンナム」又他ノ貨幣ニシテ端數ヲ生スルトキハ全數ニ切上ケ之ト相當ナル金額トス

廿五年七月告示第百五十七號(本編第拾四類ニ編入)ヲ以テ第三條第壹項ノ爲替料ハ佛貨

二十五「サンチー」
ムニ對スル相當
額金六錢ト定メラ

第三條第五項及第
六項ハ現時實施セ
ラレヌハ廿五年六
月告示第百五十二
號本類ニ編入「參
看」

- 一 郵便事務ニ關シ諸郵政廳ノ間ニ互ニ送付スル事務用爲替ハ都テ其爲替料ヲ免除スヘシ
- 二 振出國郵政廳ハ事務用爲替ヲ除キ拂渡國郵政廳ニ對シ手数料トシテ其拂渡シタル爲替金ノ全額ニ百分ノ一ヲ支拂フヘシ
- 三 郵便爲替券及券面ニ記載スヘキ受取書並ニ差出人ニ交付スル領收證ニ付テハ本條第一項ニ依リ徵收スル爲替料ノ外何等ノ税金或ハ料金ヲ差出人又ハ受取人ヨリ徵收スルヲ得ス但シ時宜ニ依リ受取人ノ住所ニ就キ拂渡ヲナス爲メ配達料ヲ徵收スルハ此限ニアラス
- 四 郵便爲替差出人振出國ニ於テ書留郵便物ノ到達證ニ課スル手数料ト同額ナル料金ヲ預メ仕拂フトキハ爲替金拂渡ノ通知書ヲ受クルコトヲ得但シ此料金ハ振出國郵政廳ノ所得ニ歸スルモノトス
- 五 郵便爲替差出人ハ郵便本條約第九條ニ依リ通常郵便物ニ關シ定ムル規則及特別ニ準據シ未タ受取人ニ爲替ヲ配達セサル間ハ其取戻若クハ其名宛ヲ變更スルヲ得
- 六 又差出人ハ前記條約第十三條ニ定ムル規則ニ準據シ爲替到著ノ後直チニ特別ノ配達人ヲ以テ受取人ノ住所ニ就キ金錢拂渡ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 七 然レトモ到達國郵政廳ハ其内地ノ規則ニ依リ金錢ノ代リニ爲替到著ノ報知書若クハ爲替券ヲ別配達コトヲ送付スルヲ得

第四條

- 一 郵便爲替ハ官設電線ニ依リ連通スル諸國郵政廳又ハ該爲替ノ爲メ私設電線ノ使用ヲ承諾スル郵政廳ノ間ニ於テハ電信ヲ以テ之ヲ交換スルヲ得此場合ニ在テハ電信爲替ト稱ス
- 二 電信爲替ハ通常電報ト均シク且ツ之ト同一ナル取扱ヲ以テ至急、返信料濟、照校、受信報知、郵便配達若クハ別配達ノ手續ヲ經ルコトヲ得ヘク又郵便ニ依リ送付シ差出人ニ交付スヘキ拂渡通知書ヲ請求スルヲ得
- 三 電信爲替ノ差出人ハ左ノ料金ヲ拂フヘシ
 - 甲 郵便爲替料又拂渡通知書ヲ請求スルトキハ其手数料
 - 乙 電信料
- 四 電信爲替ハ本條ニ定ムル料金若クハ萬國電信規則ニ準據シテ徵收スルモノ、外何等ノ料金等ヲ課セサルヘシ

第五條

受取人其住居ヲ移轉セシトキ通常爲替ハ本約定ニ加盟セル甲國ヨリ乙國ヘ宛テ再發スルヲ得新名宛國ニ於テ最初ノ名宛國ト貨幣ノ制度ヲ異ニスルトキハ該爲替金額ハ最初ノ名宛國ヨリ新名宛國ニ振宛ツル爲替ニ對シ定メタル割合ニ從ヒ再發郵便局ニ於テ新名宛國ノ貨幣ニ換算スヘシ右再發ノ爲メ特ニ爲替料ヲ徵收セス但シ新名宛國ハ假令振出國ト最初ノ名宛國トノ間ニ締結セル特殊ノ約定ニ依リ徵收ス

ル爲替料ニシテ本約定第三條ニ定ムル料金額ヨリ低下ナルトキト雖モ直達ノ爲替ニ對シ受收スヘキ爲替料ノ分前ヲ其所得トシテ收入スヘシ

第六條

一 締盟各國郵政廳ハ實施細目規則ニ定ムル時期ニ至リ計算書ヲ調製シ郵便局ニ於テ拂渡シタル金額ヲ集記シ互ニ調査審定ノ上特別ノ約定アルモノヲ除キ其他ハ同規則ニ定ムル期限中ニ借越郵政廳ヨリ貸越國ノ金貨ヲ以テ其差額ヲ仕拂フヘシ

二 爲替金拂渡ニ用ヒタル貨幣其種類ヲ異ニスルトキハ少額ノ貸高ヲ多額ノ貸高ト同一ノ貨幣ニ換算スヘシ但シ計算期限中借越國ノ都府ニ於ケル兩換平均相場ヲ以テ換算ノ基礎トス

三 定期間ニ計算上ノ差額ヲ仕拂ハサルトキハ期限經過ノ日ヨリ起算シ其仕拂ノ日迄利子ヲ付ス此利子ノ割合ハ一箇年五分ト定メ仕拂ヲ延滞シタル郵政廳ノ借高トシテ次期ノ計算書中ニ記入スヘシ

第七條

一 郵便爲替金額ハ受取人又ハ其代理人ニ正ニ之ヲ拂渡ストキ迄差出人ニ對シ保證スヘキモノトス

二 各郵政廳ニ拂込ミタル郵便爲替金ハ振出國ノ法律規則ヲ以テ定メタル期限内ニ其權利者ヨリ請求ナキトキハ之ヲ振出シタル郵政廳ノ所得ニ歸スヘシ

第八條

本約定ハ締盟各國カ萬國郵便爲替事務ヲ改良スルノ目的ヲ以テ特殊ノ約定ヲ締結又ハ保持シ或ハ更ニ親密ナル聯合ヲ開設又ハ保持スルノ權利ヲ箝束スルコトナシ

第九條

各郵政廳ハ萬國郵便爲替事務ヲ中止セサルヲ得サル非常ノ事故アリテ其理由ヲ證明シ得ル場合ニ於テハ其全部或ハ其一部ヲ一時停止スルヲ得但シ此場合ニ於テハ其旨ヲ速ニ又必要ナルトキハ電報ヲ以テ關係郵政廳ヘ報知スヘシ

第十條

此約定ニ未タ加盟セサル聯合諸國ハ其請求ニ依リ及郵便本條約第二十四條ニ掲載スル萬國郵便聯合ニ加盟ノ手續ニ從ヒ加入スルヲ得

第十一條

締盟各國郵政廳ハ前記ノ諸條項ニ據リ發行スル爲替ノ受拂局ヲ指定シ爲替遞送ノ方法並ニ第六條ニ掲載スル計算ノ手續其他此約定實施ニ必要ナル細目規則ヲ定ムヘシ

第十二條

一 締盟各國郵政廳ハ郵便本條約第二十五條ニ記載スル會議ノ時期ニ至ラサルモ萬國郵便聯合總理局ヲ經テ郵便爲替事務ニ關スル發議ヲ他廳ニ提出發送スルノ權利ヲ有ス

二 凡テ發議ハ郵便本條約第二十六條第二項ニ定ムル方法ニ準據スヘシ

三 此發議ハ左ノ同意ヲ得サレハ實施スルヲ得ス

第一 本約定ニ新條ヲ追加シ又ハ本條及第一條、第二條、第三條、第四條、第六條並ニ第十三條ノ諸條款ヲ變更セント欲スルトキハ締盟諸國全體ノ同意

第二 前記ノ諸條款ヲ除キ其他ノ條款ヲ變更セント欲スルトキハ締盟諸國三分ノ二以上ノ同意

第三 本約定ノ解釋ニ關スルトキハ單ニ過半数ノ同意但シ郵便本條約第二十三條ニ記載スル異見ヲ生スル場合ハ此限ニアラス

四 有效ノ決議ハ第一及第二ノ場合ニ於テハ郵便本條約第二十六條ニ記載スル方式ニ從ヒ外交上ノ宣言書第三ノ場合ニ於テハ同條ニ據リ郵政廳ヘノ通知書ヲ以テ確認スヘシ

五 凡テ可決セシ決議又ハ修正ハ報知ノ後少クモ二箇月ヲ經過セサレハ之ヲ實施セス

第十三條

一 此約定ハ千八百九十二年七月一日ヨリ實施スヘシ

二 此約定ハ郵便本條約ト同一ノ効力期限ヲ有スヘシ然レトモ各國ハ其政府ヨリ瑞西聯邦政府ヘ一箇年前ニ通知スルトキハ此約定ヨリ退盟スルノ權利ヲ有ス

三 締盟諸國ノ政府若クハ郵政廳ノ間ニ曩ニ締結シタル約束ニシテ第八條ニ記載

スル權利ヲ除キ本約定ノ條款ニ牴觸スルモノハ都テ本約定實施ノ日ヨリ廢止スヘシ

四 本約定ハ可成速ニ各國ノ批准ヲ受クヘシ而シテ批准書ハ維也納ニ於テ互ニ交換スヘシ

前掲諸國ノ全權委員ハ此約定ヲ確證セシ爲メ千八百九十一年七月四日維也納

ニ於テ此約定ニ姓名ヲ連署スルモノナリ

日耳曼
ドクトル、ベ、スタフアン
ザクセ
フリッシュ

亞然的音共和國
カルロス、カルボー

オーベントラウト

ドクトル、ホフマン

ドクトル、リ、エナウ

ハッベルゲル

ペ、ハイム

エス、シユリンプ

リヒテルフェルド

リユイズ、ベタン、パエス、レーム

智利

古西多利加共和國

丁抹及其殖民地
埃及

ロンドン
イグレットク、サバー

佛蘭西

モンマラン
ヂー、ド、セルブ
アンソール

佛蘭西殖民地

ゼー、ガブリエー

伊太利

エミヂオ、シヤラヂア
フヘリース、サリベト

日本

因藤成光
藤田四郎

リベリア共和國

ペー、エヌ、ド、スタイン
マールベ、コエンツェル
ゼ、ゴエデルト

歷山堡

モンゼナスト

那威

ヂアシユベ、ハイエルゾール

和蘭

ホフステード
バロン、ハン、デル、フヘルツ

和蘭殖民地

シヨス、シー、ベルク

葡萄牙及其殖民地

グレルミノ、オウギユスト、ド、バロス

羅馬尼

大佐ア、ゴルヂアン
エス、ヂミトレスク

薩瓦多

ルイー、ケルマン

暹羅王國

リュアング、シユリア、ニウバートル
アシユ、クシーシユニユース

瑞典

エ、ボン、クリユサンスト、セルナ

瑞西

エド、ヘエーン
セ、デレセル

突尼斯攝政國

モンマラン

土耳其

エ、ペタシー
ア、フアラー

ウルゲー

フヘデリコー、シユスビエラ、ガルク
ジヨス、ゼー、ビユスト

○告示第二百三十七號遞信省 明治二十四年十月二十二日

千八百七十八年十月一日以降獨逸帝國政府ノ保護ニ屬スル東阿非利加領ハ萬國郵便爲替約定ニ加入セリ

○告示第二百五十二號遞信省 明治二十五年六月二十七日

郵便爲替事務約定第三條第五項郵便爲替取戻並ニ其名宛變更ノ件及同條第六項爲替金別配達ノ件ハ現時實施セラレス

第貳類 萬國郵便爲替條約細目規則

○告示第四百四十九號遞信省 明治二十五年六月二十五日

本年六月二十三日勅令ヲ以テ公布セラレタル郵便爲替事務約定ニ關スル實施細目規則左ノ通り定ム

萬國郵便聯合

日耳曼、亞然的音共和國、埃地利、洪曷利、白耳義、伯西兒、勃爾瓦利、智利、古西多利加共和國、丁抹及其殖民地、埃及、佛蘭西及其殖民地、伊太利、日本、「リベリア」共和國、歷山堡、那威、和蘭及其殖民地、葡萄牙及其殖民地、羅馬尼、薩瓦多、暹羅王國、瑞典、瑞西、突尼斯攝政國、土耳其及「ウルゲ」ノ間ニ締結セル郵便爲替事務約定實施細目規則

獨逸國保護東阿非利加領ハ英國郵便爲替約定ニ加入ス
(廿四年十月廿九日第百五十二號參看)
萬國郵便條約(本條約細目規則)ニ同條約細目規則(同上第貳類ニ編入)參看

下ニ氏名ヲ連署スル諸員ハ郵便本條約第十九條及郵便爲替事務約定第十一條ニ據リ各々其郵政廳ニ代リ本約定實施ノ爲メ協議決定セシ條款左ノ如シ

第一條

萬國郵便爲替振出ニ對スル金額ノ領收證預證若クハ拂込證ハ各郵政廳ニ於テ定ムル方式ニ依リ無手数料ニテ差出人へ交付スヘシ

第二條

一 萬國郵便爲替券ハ本細目規則甲號雛形ニ適合シ又ハ類似セル式紙ヲ以テ調製スヘシ

二 佛語ヲ以テ印刷セサル爲替式紙ハ其中間ニ佛語ノ譯文ヲ附スヘシ又式紙ノ文言中數字ハ亞刺比亞字及文字ハ羅馬字ヲ用フヘシ但シ塗抹或ハ重書ハ證明ス

ルト雖モ之ヲ許サス

三 爲替券ニハ其式紙ニ關係アル事項ノ外他ノ事柄ヲ記載スルヲ禁ス但シ差出人ハ其通知券へ受取人ニ宛タル通信文ヲ加記スルノ權利ヲ有ス

第三條

一 電信爲替ハ金員ヲ受取リタル郵便局ニ於テ認メ其拂渡郵便局ニ宛テ之ヲ送付スルモノトス

二 電信爲替ニハ差出人ヨリ受取人ニ宛テタル特別ノ通信文ヲ記載スルコトヲ得

三 電信爲替ハ左ノ如ク認ムヘシ

文字又ハ電信事務	至急	返信料濟
臨時符合ニ使用スル零語ヲ	照校	受信報知
以テ記スヘシ	書留郵便	配達料前納
	(PR)	(XP)
	(TC)	(CR)
	(D)	(RP)
		別配達

爲替 (振出郵便番號)

郵便局 (名宛局名)

(拂渡通知書要スル)

何誰若クハ 差出人姓名及拂渡國ノ貨幣
何誰婦若クハヨリニ換算シ數字ト文字トヲ以
何誰娘 テ記シタル爲替金額

但シ通知券面ニ記載ノ事項ハ爲替ノ模寫トシテ之ヲ正寫スルニ及ハス

第七條

一 左ニ記載スル事故ニ因リ拂渡ヲ爲スコト能ハサル郵便爲替券ハ振出郵政廳ニ於テ訂正スヘシ

第一 受取人ノ氏名若クハ住所ノ記載方誤謬、不完全或ハ曖昧ナルモノ

第二 氏名若クハ金額ノ符合セサルモノ或ハ其脱落セシモノ

第三 爲替券面ノ文字ヲ塗抹シ或ハ重書スルモノ

第四 印章、記名其他事務用記事ノ脱漏セルモノ

第五 拂渡國ノ貨幣ニ非サル他ノ貨幣又時宜ニ依リ關係郵政廳ノ間ニ取極メタルモノニ非サル他ノ貨幣ヲ以テ拂渡金額ヲ記載セシモノ

第六 成規ニ戻リタル式ヲ使用セシモノ

第七 電信爲替ハ本細目規則第三條ニ據リ定ムル方式ヲ履行セサルモノ

該爲替券ハ成ル可ク速ニ拂渡郵便局ヨリ振出郵便局ヘ書留ニテ返付スヘシ關係兩國ノ郵政廳ハ互ニ其返付及訂正ノ義ヲ通知スヘシ

三 例規ニ戻リタル通常爲替又ハ電信爲替ノ受取人其拂渡上支障アル廉キ電信ニ依リ訂正セラレンコトヲ請求シタル場合ニ於テ一切ノ費用ヲ負擔スルトキハ之カ訂正ヲ受クルコトヲ得

四 電信爲替ニシテ其振出報知書ノミ到達シ電報未達ノ場合ニ於テハ唯報知書ノ一見ヲ以テ其仕拂ヲ爲スヘカラス必ス先ツ電報ヲ要求スヘシ

五 訂正電報ニシテ其起因全ク局員ノ過失ニ出タルコト明亮ナル場合ニ於テハ權利者ヘ其電報料ヲ返付スヘシ

第八條

一 爲替ハ其振出シタル月ノ翌月一日ヨリ起算シ二箇月間効力ヲ有スルモノトス尤モ歐洲内諸國ト歐洲外諸國若クハ歐洲外諸國相互ノ關係ニ於テハ此期限ヲ六箇月トス但シ特別ノ約束アルモノハ此限ニアラス

二 此期限經過ノ後ハ拂渡郵便局ヲ管理スル郵政廳ノ請求ニ依リ振出郵政廳ニ於テ日附ノ書換ヲ爲シタル後ニ非サレハ爲替ノ拂渡ヲ爲サ、ルヘシ

三 日附ノ書換ハ爲替券ニ爲スヘシ然ルトキ該爲替券ハ本條第一項ニ規定セル期限ニ均シキ期限間更ニ効力ヲ有スルモノトス

四 適當ノ期限内ニ拂渡ヲ請求セサル爲替ハ効力期限満期ノ後直チニ拂渡郵政廳ヨリ振出郵政廳ヘ之ヲ返付スヘシ

第九條

一 名宛人ニ拂渡サ、ル爲替ハ振出郵政廳ヘ返付ノ上直チニ差出人ヘ之ヲ返付スヘシ

二 不達、紛失若クハ破損セル爲替券ハ差出人又ハ受取人ノ請求ニ依リ振出、拂渡兩郵政廳協議ノ上未タ拂戻若クハ拂渡ヲ爲サ、ル旨ヲ證明シタル後振出郵政

應ヨリ其代トシテ拂渡認可書ヲ交付ス

拂渡認可書ニ付テハ別段手数料ヲ徴収セス

- 三 差出人不達、紛失若クハ破損セル爲替券面金額ノ拂戻ヲ請求スルハ受取人ニ於テ該爲替券ノ讓渡ヲ爲サ、リシ事或ハ不達ノ事又ハ到達ノ後紛失或ハ破損セシ事ヲ證明セル書類ト共ニ爲替金領収證、預證又ハ拂込證ヲ添ヘ差出スヘシ

振出國郵政廳ハ拂渡郵政廳ニ於テ未タ其爲替ヲ拂渡サス且ツ將來拂渡サ、ル旨ノ確報ヲ得タル上拂戻ヲ許スヘシ

第十條

- 一 爲替金ノ拂渡ハ拂渡郵政廳ニ於テ内地現行規則ニ據リ取扱フヘシ詐欺ノ受取書ニ對シ拂渡ヲ爲シタルトキハ同廳其責ニ任スヘシ

- 二 拂渡郵政廳ハ拂渡爲替ニ關シ下記ノ二件ヲ證明スルニ非サレハ其實ヲ免レサルモノトス第一其廳ノ規則ハ受取人ノ身元ヲ證明スル爲メ必要ナル手續ノ規定シアル事第二同規則ヲ以テ定メタル手續ニ從ヒ拂渡ヲ爲シタル事

第十一條

- 一 通常爲替ノ差出人其拂渡通知書ヲ請求スルトキ振出局ハ爲替券面ヘ其手数料ニ相當セル郵便切手ヲ貼付シ之ニ「拂渡通知書」ノ文字ヲ明亮ニ記載スヘシ

電信爲替ニ付テハ拂渡通知書ノ請求ニ關シ要スル手数料ヲ發表スル郵便切手

ヲ電信爲替ノ附書即チ振出報知書ニ貼付スヘシ

- 三 爲替拂渡局ハ本細目規則附錄丁號離形ニ適合又ハ類似スル拂渡通知書ヲ調製シ其差出人ニ交付方ヲ取扱ヘル振出局ヘ宛テ拂渡ノ當日送付スヘシ

第十二條

- 一 各郵政廳ハ毎月末他各郵政廳ノ爲メ本細目規則附錄戊號離形ニ準シ明細計算書ヲ一通調製シ前月中自國郵便局ニ於テ關係郵政廳ニ代リ拂渡シタル爲替金額ヲ成ル可ク振出郵便局名ABCノ順次ニ從ヒ集記スヘシ

- 二 又各郵政廳ハ約定第三條第二項ニ基キ自國ノ郵便局ニ於テ拂渡シタル爲替ニ付收入スヘキ手数料ヲ右計算書ニ記載スヘシ

- 三 明細計算書ハ領收ノ旨ヲ記載シタル拂渡濟ノ爲替券ヲ添ヘ關係郵政廳ヘ遲滯ナク送付スヘシ

- 四 拂渡濟ノ爲替ナキ時ハ明細計算書ニ「ナシ」ト記載シ關係郵政廳ヘ送付スヘシ

第十三條

- 一 相互ノ明細計算書ヲ審査承認シタル後遅クモ十五日以内ニ貸越郵政廳ニ於テ總計算書ヲ調製シ差引殘額ヲ記載スヘシ（關係郵政廳ノ間ニ特別ノ約束アルモノハ此限ニアラス）但シ貨幣換算ノ必要アルトキハ約定第六條第二項ニ準據スヘシ

- 二 總計算書ハ其關係ヲ有スル月ヲ經過シタル後二箇月以内ニ審定スヘシ尤モ歐

洲内諸國ト歐洲外諸國若クハ歐洲外諸國相互ノ關係ニ於テハ此期限ヲ四箇月トス

三 差引殘額ハ別段ノ約束アルニ非サレハ貸越國ノ都府若クハ貿易地ニ宛テタル一覽拂若クハ短期拂ノ銀行爲替ヲ以テ該國ノ正貨ニテ仕拂フヘシ但シ此仕拂ニ關スル費用ハ損失ヲ與ヘサル様一切借越郵政廳ノ負擔ニ屬スルモノトス此銀行爲替ハ借越郵政廳カ割引費用ヲ負擔スルニ於テハ他國ヘ宛テ特例トシテ振出スコトヲ得

四 差引殘額ハ遲クモ總計算書審定ノ日ヨリ十五日以内ニ仕拂フヘシ尤モ計算閉鎖ノ前ト雖モ五萬「フランク」以上ノ金額ヲ貸越シタル郵政廳ハ貸越高ノ四分ノ三ニ迄ル金額ノ假拂ヲ請求スルノ權利ヲ有スルモノトス借越郵政廳ハ其請求ヲ受ケタルトキハ八日以内ニ仕拂フヘシ

第十四條

一 締盟各國郵政廳ハ遲クモ約定實施三箇月前萬國郵便聯合總管理局ヲ經テ相互ニ左ノ件々ヲ報知スヘシ

第一 爲替料並ニ場合ニ依リ約定第二條ニ施行スルニ當リ適用スル貨幣換算ノ割合若クハ相場額

第二 萬國郵便爲替ノ受拂業務ヲ取扱フ郵便局名若クハ各郵便局ニ於テ此業務ヲ取扱フヘキ旨

第三 使用スル爲替券ノ雛形一箇

第四 爲替券ニ國語ヲ以テ文字ニテ記載スヘキ一ヨリ五百ニ迄ル員數ノ綴方

第五 權利者ヨリ拂渡ヲ請求セサル爲替金額政府ノ所得ニ歸スヘキ法律上ノ期限

第六 電信爲替ノ交換ニ加盟セルトキハ加盟ノ件

第七 郵便爲替交換國名

二 前記七項中ノ件ニ付將來變更アルトキハ同様ノ手續ヲ以テ遲滞ナク報知スヘシ

第十五條

一 締盟各國郵政廳ハ郵便本條約第二十五條ニ記載スル會議ノ時期ニ至ラサルモ萬國郵便聯合總管理局ヲ經由シ其他應ニ對シ本細目規則ノ條款ニ關スル發議ヲ提出スルノ權利ヲ有ス

二 凡テ發議ハ郵便本條約實施細目規則第三十九條ニ定ムル方法ニ準據スヘシ

三 發議ハ左記ノ同意ヲ得サレハ實施スルヲ得ス
第一 本細目規則ニ新條ヲ追加シ又ハ本條及第二條第十條並ニ第十六條ヲ變更セント欲スルトキハ締盟諸國全體ノ同意

第二 第一條第三條第四條第五條第六條第九條及第十一條ヲ變更セント欲スルトキハ締盟諸國三分ノ二以上ノ同意

第三 前記ノ諸條款ヲ除キ其他ノ條款ヲ變更シ若クハ本規則ノ解釋ニ關スルトキハ單ニ過半數ノ同意但シ郵便本條約第二十三條ニ記載スル意見ヲ生スル場合ハ此限ニアラス

四 有効ノ決議ハ單ニ萬國郵便聯合總理局ヨリ聯合各郵政廳ヘノ通知書ヲ以テ確認スヘシ

五 凡テ可決セシ決議又ハ修正ハ通知ノ後少クモ二箇月ヲ經過セサレハ之ヲ實施セス

第十六條

一 本細目規則ハ約定實施ノ日ヨリ實施スヘシ

二 本細目規則ハ締盟各國ノ協議ヲ以テ改正スルニ非サレハ約定ト同一ノ効力期限ヲ有スヘシ

千八百九十一年七月四日維也納ニ於テ調製ス

- 日耳曼
- 亞然的音共和國
- 墺地利
- ドクトル、ベ、スフアン
- ザクセ
- フリッシユ
- カルロス、カルポー
- オーベントラウト
- ドクトル、ホフマン
- ドクトル、リリエナウ
- ハッベルゲル

- 洪曷利
- 白耳義
- 伯西兒
- 勃爾瓦利
- 智利
- 古西多利加共和國
- 丁抹及其殖民地
- 埃及
- 佛蘭西
- 佛蘭西殖民地
- 伊太利
- 日本
- リベリア共和國
- エス、シユリンブ
- リヒタルフエルド
- リユイズ、ペタン、バエス、レーム
- ベ、エム、マテーフ
- ロンド
- イグレック、サバー
- モンマラン
- ヂー、ド、ゼルブ
- アンソール
- セイ、ガブリエー
- エミヂオ、シヤラヂア
- フヘリース、サリベト
- 因藤成光
- 藤田四郎
- ペー、エヌ、ド、スタイン
- ズーブルベ、ユエンツェル
- セ、ゴエデルト

- 歴山堡
 - 挪威
 - 和蘭
 - 和蘭殖民地
 - 葡萄牙及其殖民地
 - 羅馬尼
 - 薩瓦多
 - 暹羅王國
 - 瑞典
 - 瑞西
 - 突尼斯攝政國
 - 土耳其
 - ウルゲー
-
- モンゼナスト
 - デアニユベ、ハイエルザール
 - ホフステード
 - パロン、バンテル、フヘルツ
 - ワヨス、シー、ベルク
 - グレルミノ、オーギユスト、ド、バロス
 - 大佐ア、ゴルチアン
 - エス、デミトレスク
 - ルイー、ケルマン
 - リュアング、シユリア、ニウバトル
 - アシユ、グーシユニユース
 - エ、ボン、クリユサンストゼルナ
 - エド、ヘエーン
 - セ、デレセル
 - モンマラン
 - エ、ベタシー
 - ア、フアリー
 - フヘデリコー、シユスピエラ、ガルク
 - ジヨス、ゼー、ピユスト

(附録) 甲號 (表面)

通知券(受取人ニ於テ此券ヲ取放スルヲ得)	爲替金額(數字ヲ以テ記スヘシ)	差出人氏名住所	〃、〃、郵政廳 萬國郵便爲替 金額 〃以テ記スヘシ (亞拉比亞數字) (羅馬字ヲ以テ記スヘシ) 〃、〃、〃、氏拂 拂渡地名 受取人住所 拂渡國名
			振出局印

第拾壹卷 外國郵便電信及爲替 第三編 外國郵便爲替 萬國郵便爲替條約細目規則 二百二十九

郵便局 振出番號	本文金額
ニテ記ス 振出月日	即チ
ヘキ事項 振出局名	(振出國貨幣)
年月日 爲替券ヲ調製セシ吏員ノ氏名	

讓渡裏書ノ場所

受取證

表面ノ金額正ニ落手候也

何地

年月日

受取人記名

到著登簿 第、號

拂渡局印



乙號

〃〃、郵政廳

爲替振出報知書

〃年、月、日、〃〃〃〃局ヨリ、〃〃〃〃國、〃〃〃〃局へ宛振出シタル

電信爲替ノ證書

差出人名	爲替番號	受取人氏名	爲替金額
		身分及住所	

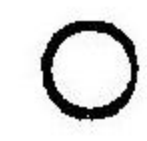
何地

年月日

郵便局員姓名

振出局印

拂渡局印



丙號

郵便事務

萬國郵便爲替(一)

郵便局宛

振出局印

右括弧内へ拂渡國名ヲ記載スヘシ

()

(一)實施細目規則第四條參照

此封皮ハ電信爲替不達要求ノ際亦之ヲ使用スルコトヲ得
(實施細目規則第七條第四項參照)

丁號

郵便局宛

書留番號



爲替拂渡通知書

、、、、氏發、、、、氏宛ノ爲替金額正ニ拂渡候也

郵便局員姓名

拂渡局印



戊號

、、、、郵政廳

千八百九十、年
、、、、月

前記ノ月、、、、郵便局ヨリ振出シ、、、、郵便局ニ於テ拂渡シタル

二十六年三月勅令
ヲ以テ規約第十項
修正ヲ公布セラレ
依テ本文ノ如クテ
正セシメ付テ修正
規約ハ茲ニ編入セ
ス

- 六 各局トモ各自其爲替料ヲ定ムヘシ
 - 七 爲替ヲ振出スルハ速ニ其報知書ヲ差立ツヘシ
 - 八 爲替ハ總テ其爲替面ノ金額通り拂ヒ渡スヘシ報知書到着前ニ爲替ヲ拂渡シ損失アルキハ其拂渡國之ヲ負擔スヘシ
 - 九 三ヶ月毎ニ貸越局ニ於テ其三ヶ月間ノ兩國ニ於テ振出シタル爲替ヲ明細ニ列記シ其差引貸越額ヲ示シタル計算書ヲ製シ借越局ヘ送ルヘシ然シテ差引借越額ハ通常爲替ヲ以テ貸越局ヘ送付スヘシ
 - 十 振出ノ日ヨリ十二箇月間ニ請求ナキ爲替ハ其効用ヲ失ヒ其金額ハ振出郵政廳ニ屬シ其處分ニ任スヘシ
 - 十一 前記各條ハ双方同意ノ上時々變換スルヲ得ヘシ
 - 十二 此爲替方法ハ千八百八十四年七月一ヨリ實施スヘシ
- 千八百八十四年四月十八日東京ニ於テ二通記名ス
- 驛遞總官 野 村 靖
- 又千八百八十四年三月十五日香港ニ於テ記名ス
- 驛遞總長 アルフレットリスタル

追加

十三 日本振出局ヨリ「フーチヨオ」(福州)以北ノ清國諸港ニ宛テ振出シタル爲替ノ報知書ハ上海ヘ差立ツヘク其他ハ香港ヘ差立ツヘシ

十四 香港及上海ヨリ振出シタル爲替ノ報知書ハ其拂渡局ヘ差立ツヘシ

香港ハ英國及米國ヲ除キ其他ノ諸國ト香港トノ間ニ結ヒタル郵便爲替條約ヲ日本ヲシテ利用セシムヘシ且條約ノ改正又ハ新條約ヲ結フ毎ニ東京局ヘ通知スヘシ

第四類 佛蘭西國ト郵便爲替條約

○第五號布告 明治十八年二月二十五日

佛蘭西國政府ト郵便爲替條約別冊ノ通取結ヒ明治十七年十二月九日佛蘭西國巴里府ニ於テ兩國ノ批准ヲ交換シ本年三月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

日本佛蘭西間郵便爲替條約

日本皇帝陛下及ヒ佛蘭西大統領ハ郵便爲替ノ方法ヲ以テ佛蘭西日本間ニ金員ノ送付ヲ便ナラシメンコトヲ希望シ之カ爲ニ條約ヲ締結センコトヲ決定シ各其全權委員トシテ左記ノ者ヲ任命セリ乃チ

日本皇帝陛下ハ

巴里駐劄特命全權公使峰須賀茂韶

佛蘭西大統領ハ

代議士内閣長兼外務卿ジュール、フェリー

右全權委員ハ雙方互ニ其委任狀ヲ示シ其實良ニシテ適當ナルヲ認メ以テ左ノ條々ヲ協議同意セリ

第一條

佛蘭西及ヒ「アルヂエリー」ヨリ日本へ又日本ヨリ佛蘭西及「アルヂエリー」へ郵便爲替ヲ以テ金員ヲ送附スルヲ得

爲替券一枚ノ金額ハ貳百五拾「フランク」ニ超過セサルヘシ
兩驛遞局必要ト認ムルトキハ此制限ヲ改ムルコトアルヘシ

第二條

前條ニ據リ爲替金ヲ送付スルトキハ振出國ノ驛遞局ニ於テ定ムル所ノ手数料ヲ其都度差出人ヨリ徵收スヘシ
右手數料ハ平均稅率各項ノ滿數金額百分一ヲ超過スヘカラス

第三條

爲替ヲ振出ス驛遞局ハ其仕拂ヲ爲ス驛遞局へ振出高ノ二百分ノ一ヲ歩合金トシテ拂渡スヘシ

第四條

爲替金ハ差出人ヨリ拂込ミ并ニ請取人へ拂渡シトモ金貨又ハ金貨ト同様ノ價アル

他ノ通貨タルヘシ

若シ兩國ノ一ニ於テ正金ヨリ低價ナル紙幣ヲ通貨トシテ使用スルキハ該國ノ驛遞局ハ其紙幣ヲ以テ人民ト爲替ノ受拂ヲ爲スコトヲ得但相場ノ差違ニ隨テ計算ヲ爲スヘシ

第五條

日本ヨリ爲替ヲ振出ストキハ振出國ノ貨幣ヲ佛貨ニ引直シノ基礎ト日本ニ於テ爲替ヲ拂渡ストキハ佛貨ヲ振宛國ノ貨幣ニ引直シノ基礎トハ日本驛遞局ニ於テ定ムヘシ但實際引直セル割合ハ佛蘭西驛遞局へ通知スヘシ

第六條

此條約ニ據リ佛蘭西若クハ日本郵便局ヨリ爲替振出及ヒ拂渡ニ關シ如何ナル名義又ハ口實ヲ設クルトモ第二條ニ據リ定メタル手数料ノ外税金又ハ手数料ヲ徵收スヘカラス

第七條

兩國ノ驛遞局ハ其協議ヲ以テ定ムル所ノ計算期限ニ於テ其相互ニ仕拂フヘキ金額ノ計算書ヲ製スヘシ而シテ之ヲ互ニ決定シタル後借越トナリタル驛遞局ハ雙方ノ協議ヲ以テ定ムル所ノ仕拂期限内ニ貸越トナリタル驛遞局へ其借越高ヲ仕拂フヘシ

貸借差引ノ殘額ヲ仕拂期限内ニ仕拂ハサルトキハ其期限ヲ經過シタル日ヨリ仕拂

金ヲ送發スル日マテ、利息ヲ收ムヘシ此利息ハ一ケ年ニ五銖ノ割合ト定メ仕拂方
ヲ延滞シタル驛遞局ノ借高トシテ次回ノ計算書ヘ記入スヘシ

第八條

振出國ノ驛遞局ニ於テ爲替ヲ振出ス爲メ領收シタル金額ハ其國ノ法律及ヒ規則ヲ
以テ定メタル期限内ニ之ヲ受取ルヘキ權理アル者ヨリ請求セサルトキハ該驛遞局
ノ所得ニ歸スヘシ

第九條

兩國驛遞局ハ此條約ニ據リ爲替ノ振出及ヒ仕拂ヲ爲スヘキ郵便局ノ名ヲ相互ニ指
定シ又右ノ爲替證書ノ式紙及ヒ遞送ノ方法并ニ第七條ニ記載シタル計算書ノ式紙
及ヒ此條約ノ條款ヲ確實ニ施行スル爲メ必要ナル一切ノ細目ヲ協議ノ上取極ムヘ
シ

兩國驛遞局ニ於テ必要ト認ムルトキハ協議ノ上右細目ヲ變更スルコトヲ得ヘシ

第十條

一國ノ驛遞局ニ於テ兩國間ノ爲替事務ヲ停止セサルヲ得サル非常ノ事故アルトキ
ハ一時其停止ヲ爲スコトヲ得但此場合ニ於テハ他ノ一國ノ驛遞局ヘ直ニ通知スヘ
シ若シ至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テ報知スヘシ

第十一條

此條約ハ可成速ニ批准ヲ受ケ兩國驛遞局協議ノ上取定ムヘキ日ヨリ實施スヘシ而

シテ締盟兩國ノ内一國ノ驛遞局ヨリ之ヲ廢止スヘキ趣ヲ他ノ一國ノ驛遞局ヘ報知
スル迄ハ年々保續遵守スルモノトス但其廢約ノ趣ハ一ケ年前ニ報知スヘシ
此條約ハ廢約ノ報知ヲ爲ストモ其後一ケ年間ハ全ク實施ノ効力ヲ有スルモノトス
但右ノ一ケ年ヲ經過シタル後タリトモ計算ノ完結及ヒ其仕拂ヲ爲スハ妨ケナシ
此條約ノ確證トシテ千八百八十四年六月三十日巴里ニ於テ本書ニ通ヲ製シ兩國全
權委員之ニ記名調印スルモノナリ

蜂 須 賀(手署)
ジニール、フエリー(手署)

○第貳號農商務省告示 明治十八年二月二十六日

本年二月第五號ヲ以テ布告相成候本邦佛蘭西兩國間郵便爲替細目規則左之通候條此
旨告示候事

日本及佛蘭西兩國間ノ郵便爲替ニ關スル千八百八十四年六月三十日ノ條
實約施ノ爲メ兩國驛遞局ニ於テ結約セル細目規則

冊後ニ記名セルモノハ各其政府ノ命ニ依リ日本及ヒ佛蘭西兩國間ノ郵便爲替ニ關
スル千八百八十四年六月三十日ノ條約第七條第九條ノ趣旨ニ隨ヒ其施行ノ方法ヲ
確實ナラシムル爲メ各驛遞局ノ名ヲ以テ左ノ條々ヲ結約スルモノナリ

第一條

兩國驛遞局ハ千八百八十四年六月三十日ノ條約第二條ニ據リ爲替振出ノ爲メ收徵

スヘキ爲替手数料ノ割合ヲ相互ニ通知スヘシ且以後手数料ノ割合ヲ變更セル片ハ同様通知スヘシ
日本驛遞局ハ同條約第五條實施ノ爲メ佛蘭西ヘ宛振出し又同國ヨリ振込ミタル佛貨(フランク)日本貨幣ニ引直割合ヲ毎月通知スヘシ

第二條

兩國驛遞局ハ左ニ記載ノ條款中千八百八十四年六月三十日ノ條約及此規則ニ明文ナキ事ハ各其現行內國規則ニ據テ處分スヘシ

一 振宛國ヘ郵便ヲ以テ金員ヲ送付スル爲メ振出局ニ於テ爲替振出方法及ヒ規則
一 振出國ヨリ郵便ヲ以テ送付スル金員振宛局ニ於テ拂渡シ方法及ヒ規則

第三條

兩國驛遞局ハ各其交換局ヲ設ケ之ヲシテ振出局ニ於テ差出人ヨリ請取タル金員ヲ振宛國ニ於テ請取人ヘ拂渡スヘキ爲メ且ツ場合ニ依リ差出人ヨリ請取タル金員ノ請取人ヘ拂渡シ難キ片ハ差出人ヘ返還スヘキ爲メ必要ナル報告ヲ取集メ并ニ之ヲ送付スルノ事務ヲ取扱ハシムヘシ此後更ニ取極ムル迄ハ日本ニ於テハ東京驛遞局萬國郵便課佛蘭西ニ於テハ「グレ子ール」街第百參番巴里第四拾四番郵便局ヲ以テ交換局トス

前記兩交換局ハ兩國中ノ一國ニ於テ他ノ一國ヘ振出す郵便爲替事務ニ關シ佛國郵船又ハ英國郵船ヲ以テ相互ニ每週通信スヘシ

第四條

兩國ノ交換局ハ振宛國ノ爲替ニ引直スヘキモノトシテ振出國ニ於テ振出シタル爲替ノ目錄ヲ附録甲號紙式雛形ニ據リ調製シ每便相互ニ送付スヘシ
前記目錄ノ第一表ニ左ノ如ク爲替ニ關スル細目ヲ記載スヘシ

- 一 目錄ヘ記入ノ番號
- 二 爲替ノ番號
- 三 振出ノ日附
- 四 振出局名
- 五 差出人ノ氏名住所(名ハ少クトモ其頭字ヲ記スヘシ)
- 六 請取人ノ氏名(名ハ少クトモ其頭字ヲ記スヘシ)或ハ社名等
請取人ノ住所
但省略ナク充分ニ認ムヘシ
- 八 佛貨(「フランク」及「サンチーム」)ヲ以テ記載セル爲替ノ金額
但分數ハ五「サンチーム」迄トス

第五條

振出國ノ交換局ニ於テ爲替目錄差立日ト定メタル日ニ於テ一モ通知スヘキ爲替ナキトキハ甲號式紙ヘ單ニ爲替無之旨ヲ記載シテ送付スヘシ

第六條

交換局ヨリ差立ツル目錄ノ番號ハ毎年改メテ番號ヨリ初ムヘシ且ツ目錄ニハ差立ノ日附ヲ記シ交換局長記名ヲ爲スヘシ

第七條

爲替目錄ヘハ必ス附録乙號式紙雛形ニ據リ目錄ト同一ノ番號及ヒ日附アル送付書ヲ添ヘテ差立ツヘシ

第八條

爲替目錄定期ノ期限ニ於テ到着セサル旨振宛交換局ヨリ通知アルトキハ振出交換局ニ於テ直ニ原書ト同様ナル目錄ヲ製シ副書ト肩書キシテ送付スヘシ

第九條

振宛交換局ニ於テ爲替目錄ヲ査閲シ誤謬ヲ見出シ其誤謬甚タ重大ノモノニアラサルトキハ該局ニ於テ訂正スヘシ但次便ニ於テ振出交換局ヘ送付スル目錄受取書ヘ附箋ヲ爲シ右訂正ノ旨ヲ通知スヘシ

若シ右誤謬重大ニシテ振出交換局ノ説明ヲ要スヘキモノナルトキハ前記ノ如ク目錄受取書ヘ附箋ヲ添ヘ振出交換局ヘ照會シ其回答ナキ間ハ誤謬又ハ不充分ナル記載アル爲替ノ拂渡ヲ猶豫スヘシ

第十條

振宛國交換局ヨリ各地ヘ差立タル爲替ハ其爲替金拂入ノ日ヨリ起算シ十二箇月間

ハ其効力ヲ有スヘシ

此期限ヲ經過セシキハ振宛國ノ驛遞局ヨリ振出國ノ驛遞局ヘ仕拂未済ノ爲替ヲ返戻スヘシ振出國驛遞局ハ千八百八十四年六月三十日ノ條約第八條ニ據リ其國現行法律又ハ規則ニ從テ處分スヘシ

第拾壹條

振出國ヨリ差立テ既ニ振宛國驛遞局ヘ通知セル爲替金返戻ヲ其差出人ヨリ請求スルキハ各其交換局ヲ經テ之ヲ通知スヘシ

振宛國驛遞局ニ於テ未タ其爲替金ヲ拂渡サル前右請求到着スルキハ拂渡ヲ止メ次便ヲ以テ振出國ノ驛遞局ヘ其返戻ヲ請求セル金額ノ爲替ヲ還附スヘシ

第拾貳條

拂渡期限經過スルカ差出人ヨリ返戻ヲ請求スルカ又ハ他ノ原因ニ由リ振出國驛遞局ヘ返還スヘキ爲替ハ振替ハ振宛國交換局ニ於テ附録式紙雛形甲號目錄第二表ニ據リ左ノ細目ヲ記載シ振出國驛遞局ヘ送付スヘシ

- 一 返戻ノ主意(期限ヲ過キタルモノ拂戻スヘキモノ等)
- 二 振出局ヨリ其爲替通知ノ爲メ送付セル甲號目錄ノ番號
- 三 同上目錄差立日附
- 四 同上目錄ヘ登記ノ番號
- 五 同上目錄ニ記載セルモノト同一ナル差出人ノ氏名及ヒ住所

六 佛貨「フランク」及「サンチーム」ヲ以テ記載セル爲替金額
但分數ハ五「サンチーム」迄トス

第拾三條

佛國ヨリ日本へ宛振出タル爲替同ク日本ヨリ佛國へ宛テ振出シタル爲替ノ總計算ハ三箇月毎ニ佛國驛遞局ニ於テ此細目規則附録丙號式紙離形ニ據リ調製スヘシ
右ニ依リ佛國驛遞局ハ前三箇月間東京驛遞局萬國郵便課ヨリ送付セル目錄及ヒ同課へ佛國ヨリ送付セル目錄ノ請取書悉ク同局へ到着次第丙號式紙へ左ノ諸件ヲ登記スヘシ

一 此三箇月間ニ兩國驛遞局ヨリ差立テ爲替目錄ヲ以テ通知セル爲替金ノ總計但計算書調製前拂渡ヲ差止タル爲替金ヲ除ク

二 歩合金トシテ前記總計ノ貳百分ノ壹

三 此三箇月間振宛國ニ於テ拂渡サヌ振出國驛遞局へ返戻セル爲替金額ノ總計丙號計算書中前期計算殊ニ拂渡ヲ差止メタル爲替ニ關スル正誤及其他特別計算ハ特別計算ト記セル行中ニ記入スヘシ此特別計算ニ付明細書ヲ要用ト認ムルハ丙號總計算書ニ屬スル書類ト共ニ送付スヘシ

第拾四條

佛國驛遞局ニ於テ調製セル丙號計算書ニ通之レニ屬スル目錄及其他ノ書類ト共ニ東京交換局ニ送付スヘシ同交換局ニ於テ若シ意見アルトキハ意見書ヲ添へ計算書

ニ通然ラサレハ承諾書ヲ添へ計算書一通佛國驛遞電信省へ(會計局へ宛)返還スヘシ

兩國驛遞局ニ於テ右總計算書ヲ相互ニ正確ノモノト爲スルハ借越驛遞局ヨリ直ニ貸越驛遞局へ左ノ手續ヲ以テ其借越高ヲ仕拂フヘシ

日本ノ貸越ナルトキハ日本驛遞總官へ宛横濱ニ於テ拂ハルヘキ日本通貨ノ銀行爲替

佛國ノ貸越ナルトキハ佛國驛遞電信卿へ宛巴里ニ於テ拂ハルヘキ佛貨銀行爲替佛國ヨリ日本へ仕拂ノ場合ニ於テハ借越金額ヲ爲替券買入日ノ相場ヲ以テ佛貨ヨリ日本貨幣ニ引直シタル金額ヲ爲替券ニ記載スヘシ

第拾五條

毎三箇月計算期限前兩國驛遞局ノ内何レノ一局ニテモ貳万五千「フランク」以上ノ貸高ニ上ルトキハ借越驛遞局ハ成ルヘク速ニ其借越高ニ近キ金額ヲ貸越驛遞局へ仕拂フヘシ

第拾六條

兩國ノ交換局へ爲替目錄ノ調製送付訂正及差出人又ハ受取人ヨリ爲替拂戻或ハ目錄ヲ以テ通知セル姓名住所金額正誤ノ請求ニ付相互ニ往復スヘシ

第拾七條

總計算書ノ調製及差引殘高ノ仕拂ニ關スル書翰ハ日本驛遞局(萬國郵便課)ト佛國驛遞電信省(會計局)トノ間ニ往復スヘシ本條約及細目規則中ノ條款改正又ハ説明或ハ其主義ノ疑點解釋ニ關スル書翰ハ日本驛遞總官ト佛國驛遞電信卿トノ間ニ往復スヘシ

第拾八條

千八百八十四年六月三十日ノ條約及同條約實施ノ爲メニ設ケタル此細目規則ハ千八百八十五年三月一日ヨリ與ニ實施シ同年月間効力ヲ有スヘシ
本書ニ通テ調製シ千八百八十四年十二月一日東京ニ於テ并ニ千八百八十四年八月一日巴里府ニ於テ調印スルモノナリ

日本驛遞總官

品川彌二郎 印

佛蘭西驛遞電信卿

コシエロ 印

甲號

千八百八十年ノ、ノ、ノ、月ノ、ノ、日差立

佛國ヨリ
日本

佛國驛遞局ヨリ
日本

振出シタル爲替及ヒ

返戻シタル爲替目錄第

號

日本
佛國

日本驛遞局
佛國

乙號

貴局ニ於テ拂ハルヘキ^{日本}佛蘭西郵便爲替ニ關スル事項ヲ記載セル、
 附第、
 スヘキ爲替ノ明細書ヲ及御送付候條御落手有之度候當局、
 御尋問相成候件ニ對スル御回答別紙封入差進候條是又御落手有之度候
 先便差立後貴局、
 外正確ノモノト認メ候

別紙附箋ニ記載ノ件ニ付御回答有之候迄該爲替金拂渡方猶豫可致ニ付御意見
 可成速ニ御通報有之度右申進候敬具

千八百八十、

殿

丙號

佛蘭西日本間郵便爲替總計算書
 千八百、年、期

佛蘭西 西 國 貨 高		日 本 國 貨 高	
此一期間日本ヨリ送附セル目錄ニ記載セル爲替ニ由リ日本借高		此一期間佛蘭西ヨリ送附セル目錄ニ記載セル爲替ニ由リ佛蘭西借高	
目 錄	目 錄	目 錄	目 錄
番 號	日 附	番 號	日 附
此計算書ニ算入セル爲替(目錄ヲ記載セル)ノ番號	各目錄ニ記載セル爲替金合計	此計算書ニ算入セル爲替(目錄ヲ記載セル)ノ番號	各目錄ニ記載セル爲替金合計
フランクサンチム	フランクサンチム	フランクサンチム	フランクサンチム
振出シタル爲替金合計歩合金(爲替金合計貳百分ノ壹)日本ニ於テ拂渡サス左ノ目錄ヲ以テ返戻セル爲替金額 <small>附錄說明書ニ依レル特別計算 第號 目錄</small> 佛蘭西貸高總計 日本貸高總計 差引殘高		振出シタル爲替金合計歩合金(爲替金合計貳百分ノ壹)佛蘭西ニ於テ拂渡サス左ノ目錄ヲ以テ返戻セル爲替金額 <small>附錄說明書ニ依レル特別計算 第號 目錄</small> 佛蘭西貸高總計 日本貸高總計 差引殘高	

第五類 北米合衆國ト郵便爲替條約

○第三拾號布告 明治十八年九月十六日

北米合衆國驛遞院ト郵便爲替定約別冊ノ通取結ヒ本年十月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

日本帝國驛遞局ト北米合衆國驛遞院トノ間ニ取結ヒタル郵便爲替定約

第一條 日本帝國ト北米合衆國トノ間ニ郵便ヲ以テ爲替ヲ執行スヘシ

第二條 爲替金ハ雙方共米國貨幣ヲ以テ記載スヘシ但兩國ノ間貨幣ノ相場ニ時々昇降アルカ爲ニ日本驛遞局ハ適當ノ割合ヲ以テ爲替金ヲ引直スヘキコトヲ茲ニ約束ス即チ米國ヘ爲替ヲ取組ム爲メ日本驛遞局ニ於テ受領シタル金額ハ爲替ヲ振出スルノ相場ヲ以テ米國貨幣ニ引直シ又日本ニテ拂渡ス爲メ米國ヨリ振出シタル爲替ノ金額ハ日本驛遞局ニ於テ爲替目録ノ到達シタル日ノ相場ヲ以テ日本貨幣ニ引直スヘシ

第三條 爲替一口ノ金額ハ雙方共百弗ヲ超過スヘカラス

第四條 壹仙未滿ノ端數金額ハ爲替トナスヘカラス

廿二年六月勅令ヲ以テ追加定約ヲ公布セラルル依テ第三條本文ノ如ク訂正セシメ付該追加定約書ハ之ヲ編入セ

第五條 爲替金額ハ差出人ヨリ拂込ミ並ニ受取人ヘ拂渡シ共金貨又ハ金貨ト同様ノ價アル他ノ通貨タルヘシ

若シ兩國ノ一ニ於テ金貨ヨリ低價ナル紙幣ヲ通貨トシテ使用スルトキハ該國ノ驛遞局ハ其紙幣ヲ以テ人民ト爲替ノ受拂チナスコトヲ得但相場ノ差異ニ隨テ計算ヲナスヘシ

廿一年九月勅令ヲ以テ第六條中修正ノ追加定約ヲ公布セラルル依テ本文ノ如ク訂正セシメ付該追加定約書ハ之ヲ編入セ

第六條 日本驛遞局並ニ米國驛遞院ハ雙方共其振出ス爲替手数料ノ割合ヲ時々更定スルノ權ヲ有ス此手数料ハ振出局ノ收入トス但日本驛遞局ハ日本ヨリ振出し米國ニ於テ拂渡スヘキ爲替金總額ノ千分ノ五ノ歩合金ヲ米國驛遞院ヘ拂ヒ米國驛遞院ハ米國ヨリ振出シ日本ニ於テ拂渡スヘキ爲替金總額ヨリ前同様ノ歩合金ヲ日本驛遞局ヘ拂フヘシ

第七條 爲替ハ差出人及ヒ受取人ノ氏名住所又差出人若クハ受取人會社組合ナレハ其名號及ヒ住所ヲ差出人ヨリ申立ルニ非レハ之ヲ振出サ、ルヘシ但差出人若クハ受取人ノ名稱ヲ差出人ヨリ一層詳細ニ陳述セル場合ニ於テハ其陳述スル通リヲ爲替目録ニ記載スヘシ

第八條 兩國間郵便爲替ノ事務ハ總テ交換局ヲ經テ之ヲ取扱フヘシ日本ニ於テハ東京ヲ以テ交換局ト定メ米國ニ於テハ「カリホルニヤ」州「サンフランシスコ」ヲ以テ交換局ト定ムヘシ

第九條 米國ヨリ日本ヘ振出シタル爲替ノ要件ハ「サンフランシスコ」交換局ニ於テ附録甲號離形ニ因テ調製セシ目録ニ記入シ且ツ其金額ハ一々米國貨幣ニテ之ヲ登記シ「サンフランシスコ」ノ日附印ヲ押シ東京驛遞局ヘ遞送スヘシ該局ハ之

ニ日附印ヲ押シ拂渡ノ手續ヲナスヘシ

日本ヨリ米國へ振出シタル爲替ノ要件モ亦同様ノ手續ヲ以テ東京驛遞局ニ於テ附録乙號雛形ニ因テ調製シタル目錄へ記入シ且ツ其金額ハ一々兩國ノ貨幣ニテ之ヲ登記シ其局ノ日附印ヲ押シ「サンフランシスコ」交換局へ遞送スヘシ該局ハ之ニ日附印ヲ押シ拂渡ノ手續ヲナスヘシ

目錄及ヒ目錄中記載ノ件々ハ差立ノ順序ニ從ヒ番號ヲ付シ且ツ甲國ノ目錄乙國ニ達スルトキハ乙國ハ其後初メテ遞送スヘキ目錄中ニ甲國ノ目錄領收ノ旨ヲ記載スヘシ

前記目錄ハ兩國互ニ每便送付スヘシ且ツ目錄ノ紛失等ヨリ不都合ノ生セサル爲メ兩國互ニ次便ヲ以テ前便遞送セシ目錄ノ副書ヲ送致スヘシ

目錄差立ノ日ニ當リ假令報知スヘキ爲替ノ振出ナシト雖トモ目錄ハ「爲替振出無之」ノ文字ヲ記シ必ス之ヲ遞送スヘシ

毎年六月三十日ニ終ル一期間一期間トハ一年ヲ三箇月ツ、四期ニ分チタル其一ヲ指ス以下同之米國ニ於テ振出シ六月三十日後ニ至リ「サンフランシスコ」交換局へ到達セル爲替ハ六月中最後ニ遞送

ノ目錄補欠ノ目錄ニ記入スヘシ又同期間日本ニ於テ振出シ六月三十日後ニ至リ東京交換局ニ到達セル爲替モ同様六月中最後ニ遞送ノ目錄補欠ノ目錄ニ記入スヘシ

第十條 差立局ノ目錄受取交換局へ到達次第該局ニ於テ目錄ニ照シ受取人へ宛内

國爲替ヲ振出シ内國爲替規則ニ隨ヒ之ヲ無税ニテ受取人或ハ拂渡局へ配達スヘシ

目錄中受取交換局ニ於テ改正シ難キ誤謬アルトキハ差立局へ照會シ其説明ヲ請フヘシ差立局ハ可成丈々速ニ之ニ應スヘシ尤モ右誤謬アル爲替ハ其照會中内國拂渡爲替ノ振出ヲ停止スヘシ

爲替目錄ハ壹通ツ、受取交換局ヨリ差立交換局へ返還スヘシ尤モ其返還前受取交換局ニ於テ目錄ニ記載ノ爲替拂渡局ノ名ヲ記入スヘシ且ツ日本ヨリ返還スル米國目錄へハ日本驛遞局ニ於テ引直シタル割合ニ依リ日本貨幣ヲ以テ爲替金額ヲ一々記入スヘシ

第十一條 甲國ヨリ乙國ニ向ケ振出シタル爲替ノ拂渡方ハ都テ拂渡國ノ内國爲替規則ニ隨ヒ取扱フヘシ

拂渡證書ハ雙方共其金額ヲ拂渡シタル國ニ保存スヘシ

第十二條 爲替受取人若クハ差出人ノ氏名ニ誤謬アリテ其改正ヲ要シ或ハ差出人ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請願セントスルトキハ差出人ヨリ其爲替ヲ振出セシ國ノ驛遞局へ申立ツヘシ

再度ノ爲替ハ初度ノ爲替振宛局ノ驛遞局ニ限り之ヲ振出シ其手續ハ都テ其國ニ於テ既ニ制定シ又ハ新ニ制定スヘキ規則ニ隨フヘシ

第十三條 爲替ハ初度ノ振出シト再度ノ振出シトヲ論セス拂渡國ニ於テ未タ其爲

替金ヲ拂渡サス且ツ拂渡サ、ル旨ヲ拂渡國ノ驛遞局ヨリ通知アリテ其旨ヲ証明シタル後ニ非レハ振出國ニ於テ之ヲ差出人ニ拂戻サ、ルヘシ

第十四條 爲替ハ振出シタル月ヨリ十二箇月間ニ受取ラサレハ其効用ヲ失ヒ其金額ハ振出國ニ屬シ其處分ニ任スヘシ故ニ日本驛遞局ハ米國ヨリ受取リタル目錄中ノ爲替ニテ右ニ定メタル期限中拂渡サ、ルモノハ米國ノ貸金トシテ每一期間ノ計算書中ニ記入スヘシ又米國驛遞院ハ日本驛遞局每一期間計算書ニ記載ノ爲メ該局ヨリ到達セル目錄中爲替金ノ本條ニ因リ効用ヲ失ヒタルモノヲ記載シタル明細書ヲ每月末遞送スヘシ

第十五條 每一期間ノ末ニ於テ東京驛遞局ハ該期中兩國ヨリ振出シタル爲替ノ詳細ヲ記スル各目録ノ總額及ヒ右ヨリ生スル差引殘額ヲ示ス所ノ計算書ヲ調製スヘシ

右計算書三通ヲ在華盛頓府米國驛遞院へ送達シ其差引殘額ハ證明ノ上日本驛遞局借方トナルトキハ計算書ヲ送付スルト同時ニ「ニウヨルク」へ宛米國貨幣ヲ以テ仕拂ヲナシ又米國驛遞院借方トナルトキハ計算書ノ寫ヲ返付スルト同時ニ米國貨幣ヲ以テ當時ノ相場ニ依リ買得ヘキ丈ノ日本通貨ヲ買入レ橫濱宛銀行爲替券ヲ以テ仕拂フヘシ

此ノ每一期間計算書用紙ハ附録丙丁及戊號ノ雛形ニ依ルヘシ
計算決定前日本驛遞局及米國驛遞院ノ中一方ヨリ他方へ對シ五千弗餘ノ殘額ヲ

生スルトキハ速ニ右殘額ノ見積高ヲ拂フヘシ

第十六條 兩國ノ驛遞總官ハ前定約ノ旨趣ニ牴觸スルニ非サレハ詐僞ヲ防キ或ハ一般ニ爲替ノ事業ヲ改良スヘキ目的ヲ以テ新ニ條目ヲ増設スルノ權アルヘシ但甲國ニテ増加セシ條目ハ之ヲ乙國驛遞總官へ通知スヘシ

第十七條 日本若クハ米國商人ノ此爲替ヲ以テ金員ヲ遞送スル者夥多ニシテ隨テ其金員巨額ニ至ルトキハ日本驛遞局若クハ米國驛遞院ハ適宜ニ其手数料ヲ増加シ若クハ一時全ク其振出ヲ停止スルノ權アルヘシ

第十八條 此定約ハ千八百八十五年十月一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國へ廢止ノ報知ヲナシタル日ヨリ十二箇月間効力ヲ有スヘシ

此定約ハ二通ヲ製シ一通ハ明治十八年五月二十三日東京ニ於テ記名調印シ又一通ハ千八百八十五年四月十八日華盛頓ニ於テ記名調印スルモノナリ

日本驛遞總官代理

日 下 義 雄 印

北米合衆國驛遞總官

ダブルユ、エフ、ヴ井ヲス 印

丁 號
受 取 人 ナ ク シ テ 振 出 局
へ 返 附 ス へ キ 爲 替

日本ニ於テ振出シタル爲替				米國ニ於テ振出シタル爲替			
目録番號	目録月日	外國ノ番號爲替	爲替金額	目録番號	目録月日	外國ノ番號爲替	爲替金額
			弗 仙				弗 仙
		總計				總計	

戊 號
千 八 百 八 十 年 第 期
日 本 ト 米 國 ト ノ 間 ニ 交 換 シ タ ル 爲 替 總 計 表

日本ノ貸高			金額	米國ノ貸高			金額
米國ヨリ振出シ日本ニ於テ任拂フヘキ爲替			弗 仙	日本ヨリ振出シ米國ニ於テ任拂フヘキ爲替			弗 仙
目録第	號	弗 仙		目録第	號	弗 仙	
ク	ク			ク	ク		
ク	ク			ク	ク		
ク	ク			ク	ク		
ク	ク			ク	ク		
ク	ク			ク	ク		
步合金千分ノ五 拂戻爲替				步合金千分ノ五 拂戻爲替			
受取人ナキ爲替				受取人ナキ爲替			
日本ノ貸高總計				米國ノ貸高總計			
差引米國ヨリ受取ルヘキ高				差引日本ヨリ受取ルヘキ高			

戊號表中步合金ノ項ハ明治二十一年(千八百八十八年)五月ノ追加約定ヲ以テ本文ノ如ク改正

第六類 伊太利國ト郵便爲替條約

○告示第八十八號遞信省 明治十九年九月二十二日

聯合郵便爲替條約ニ據リ來ル十月一日ヨリ伊太利國ト郵便爲替ヲ施行シ東京京都大坂橫濱神戸長崎函館郵便局ニ於テ其事務ヲ取扱フ

千八百七十八年六月四日締結巴里約定第六條ニ據リ伊太利王國ト日本帝國ノ間ニ郵便爲替事務實施ノ爲メ兩國驛遞局協議ノ上左ノ條々ヲ結約ス
ルモノナリ

第一條 伊太利ヨリ日本へ又日本ヨリ伊太利へ郵便爲替ヲ以テ金員ヲ送付スルヲ得

此交換法ハ左ノ條々ニ抵觸セサル以上ハ都テ千八百七十八年六月四日締結巴里約定ノ條款ニ據ルヘシ

第二條 伊太利及日本ニ於テハ各爲替振出ノ爲ニ其一口ノ手数料トシテ二十五佛(五圓)若クハ其端數毎ニ二十五山(五錢)ヲ徵收スヘシ但五拾佛(拾圓)以下ノ金額ハ爲替一口毎ニ五拾山(拾錢)ノ最少額ヲ課ス

第三條 此事務ハ兩交換局ヲ經テ取扱フヘシ

此交換局ハ伊太利ニ於テハ羅馬(驛遞局)トシ日本ニ於テハ東京(驛遞局)トス
第四條 甲國ヨリ乙國へ振出ノ爲替ハ振出國驛遞局ニ留置キ交換局ヲ經テ附録甲

號雜形ノ目錄ヲ以テ拂渡國驛遞局へ振出ノ旨ヲ通知スヘシ

第五條 此目錄第一表へハ正確ニ左ノ件々ヲ記入スヘシ

甲 各爲替振出局名振出番號月日及差出人姓名

乙 受取人姓名宿所

丙 爲替金額

第六條 各爲替金額ハ振出局ニ於テ佛山ヲ以テ目錄ニ記入スヘシ

日本ヨリ伊太利へ宛タル金額ハ日本驛遞局ニ於テ爲替振出當日ノ相場ニ據リ佛山ニ引直スヘシ

伊太利ヨリ日本へ宛タル爲替金額ハ同シク日本驛遞局ニ於テ拂渡ノ爲メ東京へ目錄到着ノ當日其日ノ相場ニ據リ日本貨幣ニ引直スヘシ

第七條 各目錄ニハ番號ヲ付スヘシ但此番號ハ毎年改メテ壹號ヨリ始ムヘシ

爲替券ニモ亦同様番號ヲ付スヘシ但此番號ハ目錄毎ニ改テ壹號ヨリ始ムヘシ

第八條 各目錄ハ甲ノ交換局ヨリ乙ノ交換局へ向ケ附録乙號雜形ノ書翰ヲ添へ送付スヘシ

此書翰ヲ以テ互ニ目錄ノ領收ヲ報知シ且目錄ニ付注意ノ廉アルトキハ之ニ記載スヘシ

兩局ハ差立タル目錄ノ寫一枚ヲ保存スヘシ

第九條 拂渡交換局ハ受取タル目錄ヲ調査ノ上目錄ニ記載ノ爲替ヲ内國現行ノ方

本約定書ハ告示第
八十八號ノ約定書
ナレハ告示第
定書云々ノ明文ナ
キヲ以テ愛ニ附記
ス
千八百七十八年六
月四日締結巴里約
定ハ爾後改正宜ク
萬國郵便爲替約定
ノ部ヲ參看スヘシ

第四條中ノ甲號雜

形ハ佛國トノ爲替
條約書細目規則中
ニ添付ノ甲號表ト
全一ニ付茲ニ省略
ス依テ佛國トノ條
約書細目規則添付
表(本編第四類ニ
編入)參看スヘシ

第八條中乙號雜形
ニ對スル備考ハ第
四條冒頭附記同斷

法ニ據リ振出シ受取人へ拂渡方ヲ取計フヘシ

東京交換局ニ於テ伊太利爲替ニ代ヘ調製スヘキ爲替券ニハ第六條ニ據リ伊太利貨幣ヲ日本貨幣ニ引直シタル後其金額ヲ記載スヘシ

第十條 如何ナル爲替ト雖モ拂渡局ニ於テ未タ其拂渡ヲナサス且將來拂渡ヲナサハル様相當ノ手續ヲナシタル旨通知アルニ非レハ振出國ニ於テハ之カ拂戻ヲ爲スヲ得ス

第十一條 目錄ニ記入シタル月ヲ除キ十二ヶ月内ニ拂渡サ、ル爲替金額ハ振出國驛遞局ノ所得ニ歸ス而レトモ該局ハ其金額ヲ差出人へ拂戻スモ妨ケナシトス

第十二條 第十條ニ記載スル爲替ニシテ拂渡國驛遞局ニ於テ差出人ニ拂戻方承諾セルモノハ該局ノ目錄第二表ヘ記入スヘシ

同表ヘハ第十一條ニ記載セル爲替ニシテ該條ニ定メタル期限内ニ拂渡サ、ルモノモ亦之ヲ記入スヘシ

前記ノ目錄ニハ必要ナルトキハ第八條ニ記載スル通常書翰ノ外説明書ヲ添付スヘシ

第十三條 伊太利驛遞局ニ於テハ三ヶ月毎ニ前三ヶ月間ニ交換セル爲替ノ總計算書ヲ調製スヘシ

此計算書ハ附録丙號雖形ニ據リ調製シ兩局ノ貸越高ヲ記入スヘシ
甲 互ニ受取タル目錄第一表ニ記載セル爲替金額ヲ佛山ニテ記入ス事

第十三條中丙號雖形ニ對スル備考ハ第四條附録丙號同

但第十條十一條及十二條ニ據リ計算ニ關係アル三ヶ月中差出人ニ拂戻シタル爲替金額若シハ期限經過ノ爲替金額ハ之ヲ除ク

乙 前項記載ノ金額ヨリ引去ルヘキ二百分ノ一ノ歩合金ヲ記載スル事
第十四條 前條記載ノ總計算書ハ二通ヲ製シ日本驛遞局へ送付シ該局ニ於テハ調査ノ上修正ヲ加ヘ或ハ加ヘスシテ伊太利局へ承認ノ旨ヲ通知シ且其計算書一通ヲ返却スヘシ

第十五條 總計算書上殘金トナリタル佛山ノ差額ハ千八百七十八年六月四日締結巴里約定及其細目規則ノ條款ニ據リ借越驛遞局ヨリ貸越驛遞局へ可成速ニ仕拂フヘシ而シテ此仕拂ハ貸越驛遞局ノ費用ヲ要セス即時拂若シクハ短期拂ノ通常爲替ヲ以テ金貨ニテ執行スヘシ

第十六條 殘金仕拂ニ用フル通常爲替ハ巴里若クハ龍動宛タルヘシ
龍動宛通常爲替ハ壹磅(五圓)ニ付廿五佛廿山(五圓四錢)ノ割合ヲ以テ計算スヘシ

第十七條 此約定ハ千八百八十六年十月一日ヨリ實施シ甲驛遞局ヨリ乙驛遞局ヘ之ヲ廢止スヘキ趣ヲ一ヶ年前通知スル迄ハ年々保續スヘキモノトス

然レトモ非常ノ場合ニ於テハ各驛遞局ニ於テ暫時爲替事務ヲ停止スルノ權アルヘシ但右ニ付テハ甲局ヨリ乙局へ其旨ヲ必要ナルトキハ電信ヲ以テ通知スヘシ

本書二通ヲ製シ一ハ明治十九年九月廿五日東京ニ於テ記名シ一ハ千八百八十六

年七月廿一日羅馬ニ於テ記名スルモノナリ

日本驛遞局長

林

董印

伊太利驛遞局長

シエーモーレ印

第七類 加那太國ト郵便爲替條約

○勅令 明治二十二年九月二十八日

朕帝國遞信省ト加那太郵政廳トノ間ニ郵便爲替規約ヲ締結セシメタルニ依リ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第一條 日本帝國遞信省ト加那太國郵政廳トノ間ニ取結ヒタル郵便爲替規約

第二條 爲替金ハ雙方共加那太貨幣ヲ以テ記載スヘシ但兩國ノ間貨幣ノ相場ニ時々昇降アルカ爲メニ日本遞信省ハ適當ノ割合ヲ以テ爲替金ヲ引直スヘキコトヲ

玆ニ約束ス即チ加那太ヘ爲替ヲ取組ム爲メ日本遞信省ニ於テ受領シタル金額ハ爲替ヲ振出ス時ノ相場ヲ以テ加那太貨幣ニ引直シ又日本ニテ拂渡ス爲メ加那太ヨリ振出シタル爲替ノ金額ハ日本遞信省ニ於テ爲替目録ノ到達シタル日ノ相場ヲ以テ日本貨幣ニ引直スヘシ

第三條 爲替一口ノ金額ハ雙方共五拾弗ヲ超過スヘカラス

第四條 壹仙未滿ノ端數金額ハ爲替トナスヘカラス

第五條 爲替金額ハ差出人ヨリ拂込ミ並ニ受取人ヘ拂渡シ共金貨又ハ金貨ト同様ノ價アル通貨タルヘシ

若シ兩國ノ一ニ於テ金貨ヨリ低價ナル紙幣ヲ通貨トシテ使用スルトキハ該國ノ郵政廳ハ其紙幣ヲ以テ人民ト爲替ノ受拂ヲナスコトヲ得但相場ノ差異ニ隨テ計算ヲナスヘシ

第六條 日本遞信省並ニ加那太郵政廳ハ雙方共其振出ス爲替手数料ノ割合ヲ時々更正スルノ權ヲ有ス此手数料ハ振出局ノ收入トス但日本遞信省ハ日本ヨリ振出し加那太ニ於テ拂渡スヘキ爲替金總額ノ千分ノ五ノ歩合金ヲ加那太郵政廳ヘ拂ヒ加那太郵政廳ハ加那太ヨリ振出し日本ニ於テ拂渡スヘキ爲替金總額ヨリ前同様ノ歩合金ヲ日本遞信省ヘ拂フヘシ

第七條 爲替ハ差出人及ヒ受取人ノ氏名住所又差出人若クハ受取人會社組合ナレハ其名號及ヒ住所ヲ差出人ヨリ申出ツルニ非レハ之ヲ振出サ、ルヘシ但差出人若クハ受取人ノ名稱ヲ差出人ヨリ一層詳細ニ陳述セル場合ニ於テハ其陳述スル通リヲ爲替目録ニ記載スヘシ

第八條 兩國間郵便爲替ノ事務ハ總テ交換局ヲ經テ之ヲ取扱フヘシ日本ニ於テハ

東京ヲ以テ交換局ト定メ加那太ニ於テハ英領「コロンビア」州「ヴヰクトリア」ヲ以テ交換局ト定ムヘシ

第九條 加那太ヨリ日本へ振出シタル爲替ノ要件ハ「ヴヰクトリア」交換局ニ於テ附録甲號雛形ニ因テ調製セシ目錄ニ記入シ且ツ其金額ハ一々加那太貨幣ニテ之ヲ登記シ「ヴヰクトリア」ノ日付印ヲ押シ東京遞信省(外信局)へ遞送スヘシ該局ハ之ニ日付印ヲ押シ拂渡ノ手續ヲナスヘシ

日本ヨリ加那太へ振出シタル爲替ノ要件モ前同様ノ手續ヲ以テ東京遞信省(外信局)ニ於テ附録乙號雛形ニ因テ調製シタル目錄へ記入シ且ツ其金額ハ一々兩國ノ貨幣ニテ之ヲ登記シ其局ノ日付印ヲ押シ「ヴヰクトリア」交換局へ遞送スヘシ該局ハ之ニ日付印ヲ押シ拂渡ノ手續ヲナスヘシ

目錄及ヒ目錄中記載ノ件々ハ差立ノ順序ニ從ヒ永久番號ヲ付シ且ツ甲國ノ目錄乙國ニ達スルトキハ乙國ハ其後初メテ遞送スヘキ目錄中ニ甲國ノ目錄領收ノ旨ヲ記載スヘシ

前記目錄ハ兩國互ニ報知スヘキ爲替アル時ノミニ限り送付スヘシ且ツ目錄ノ紛失等ヨリ不都合ノ生セサル爲メ兩國互ニ次便ヲ以テ前便遞送セシ目錄ノ副書ヲ送致スヘシ

每年六月三十日ニ終ル一期間 一期間トハ一年ヲ三箇月ツ、四期ニ分タル其一ヲ指ス以下同之 加那太ニ於テ振出シ六月三十日後ニ至リ「ヴヰクトリア」交換局へ到達セル爲替ハ六月中最後ニ遞送スヘキ

キ目錄ノ補缺目錄ニ記入スヘシ又同期間日本ニ於テ振出シ六月三十日後ニ至リ東京交換局ニ到達セル爲替モ同様六月中最後ニ遞送スヘキ目錄ノ補缺目錄ニ記入スヘシ

第十條 差立局ノ目錄受取交換局へ到達次第該局ニ於テ目錄ニ照シ受取人へ宛内國爲替ヲ振出シ内國爲替規則ニ隨ヒ之ヲ無税ニテ受取人或ハ拂渡局へ配達スヘシ目錄中受取交換局ニ於テ改正シ難キ誤謬アルトキハ差立局へ照會シ其説明ヲ請フヘシ差立局ハ可成丈ク速ニ之ニ應スヘシ尤モ右誤謬アル爲替ハ其照會中内國拂渡爲替ノ排出ヲ停止スヘシ

爲替目錄ハ一通ツ、受取交換局ヨリ差立交換局へ返還スヘシ尤モ其返還前受取交換局ニ於テ目錄ニ記載ノ爲替拂渡局ノ名ヲ記入スヘシ且ツ日本ヨリ返還スル加那太目錄へハ日本遞信省ニ於テ引直シタル割合ニ依リ日本貨幣ヲ以テ爲替金額ヲ一々記入スヘシ

第十一條 甲國ヨリ乙國ニ向ケ振出シタル爲替ノ拂渡方ハ都テ拂渡國ノ内國爲替規則ニ隨ヒ取扱フヘシ

拂濟證書ハ雙方共其金額ヲ拂渡シタル國ニ保存スヘシ

第十二條 爲替受取人若クハ差出人ノ氏名ニ誤謬アリテ其改正ヲ要シ或ハ差出人ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請願セントスルトキハ差出人ヨリ其爲替ヲ振出セシ國ノ郵政廳へ申立ツヘシ

再度ノ爲替ハ初度ノ爲替振宛局ノ郵政廳ニ限り之ヲ振出シ其手續ハ都テ其國ニ於テ既ニ制定シ又ハ新ニ制定スヘキ規則ニ隨フヘシ

第十三條 爲替ハ初度ノ振出シト再度ノ振出シトヲ論セス拂渡國ニ於テ未タ其爲替金ヲ拂渡サス且ツ拂渡サ、ル旨ヲ拂渡國ノ郵政廳ヨリ通知アリテ其旨ヲ證明シタル後ニ非レハ振出國ニ於テ之ヲ差出人ニ拂戻サ、ルヘシ

第十四條 爲替ハ振出シタル月ヨリ十二箇月間ニ受取ラサレハ其効用ヲ失ヒ其金額ハ振出國ニ屬シ其處分ニ任スヘシ故ニ日本遞信省ハ加那太ヨリ受取タル目錄中ノ爲替ニテ右ニ定メタル期限中拂渡サ、ルモノハ加那太ノ貸金トシテ每一期間ノ計算書中ニ記入スヘシ

又加那太郵政廳ハ日本遞信省每一期間計算書ニ記載ノ爲メ該局ヨリ列達セル目錄中爲替金ノ本條ニ因リ効用ヲ失ヒタルモノヲ記載シタル明細書ヲ每月末遞送スヘシ

第十五條 每一期間ノ末ニ於テ日本遞信省ハ該期中兩國ヨリ振出シタル爲替ノ詳細ヲ記スル各目錄ノ總額及ヒ右ヨリ生スル差引殘額ヲ示ス所ノ計算書ヲ調製スヘシ

右計算書二通ヲ在「オツタワ」府加那太郵政廳ヘ送達シ其差引殘額ハ證明ノ上日本遞信省借方トナルトキハ計算書ヲ送付スルト同時ニ「ニウヨルク」ヘ宛加那太貨幣ヲ以テ仕拂ヲナシ又加那太郵政廳借方トナルトキハ計算書ノ寫ヲ返付スル

ト同時ニ加那太貨幣ヲ以テ當時ノ相場ニ依リ買得ヘキ文ケノ日本通貨ヲ買入レ横濱宛銀行爲替券ヲ以テ仕拂フヘシ

此每一期間計算書用紙ハ附録丙丁及ヒ戊號ノ雛形ニ依ルヘシ計算決定前日本遞信省及ヒ加那太郵政廳ノ中一方ヨリ他方ヘ對シ五千弗餘ノ殘額ヲ生スルトキハ速ニ右殘額ノ見積高ヲ拂フヘシ

第十六條 日本遞信大臣及ヒ加那太郵政長官ハ前規約ノ旨趣ニ抵觸スルニ非サレハ詐僞ヲ防キ或ハ一般ニ爲替ノ事業ヲ改良スヘキ目的ヲ以テ新ニ條目ヲ増設スルノ權アルヘシ但甲國ニテ増加セシ條目ハ之ヲ乙國郵政廳ヘ通知スヘシ

第十七條 日本若クハ加那太商人ノ此爲替ヲ以テ金員ヲ遞送スルモノ夥多ニシテ隨テ其金員巨額ニ至ルトキハ日本遞信省若クハ加那太郵政廳ニ適宜ニ其手数料ヲ増加シ若クハ一時全ク其振出ヲ停止スルノ權アルヘシ

第十八條 此規約ハ明治二十二年十月一日即チ千八百八十九年十月一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國ヘ廢止ノ報知ヲナシタル日ヨリ十二箇月間効力ヲ有スヘシ此規約ハ二通ヲ製シ一通ハ明治二十二年五月十六日東京ニ於テ記名調印シ又一通ハ一千八百八十九年六月二十七日「オツタワ」ニ於テ記名調印スルモノナリ

日本帝國遞信大臣

後 藤 象 二 郎

加那大郵政長官

シヨン、ハッカード

甲號

日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ仕拂フヘキ爲替目錄第 號御差越相成正ニ領收
 致候當局ヨリ最後ノ目錄第 號差進候後加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フ
 ヘキ爲替ノ爲メ當局ニ於テ領收致候金額ノ明細計算書今便差進候條御查收有
 之度候也

ヴキントリア

千八百八十年

郵便爲替交換局長

東京

遞信省

外信局長殿

追テ本文目錄御領收ノ旨御回答有之度候也

局印

田錄第 號 甲 號
 加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フヘキ爲替目錄

此欄ハ東京局ニ於テ使用ス		仕局 替ノ番號	日本貨幣 金額	加那太貨幣 金額	受取人住所	受取人氏名	差出人住所	差出人氏名	振出局名	外國爲替ノ番號	內國爲替ノ番號	月 日
附 註	東京局振 出ノ番號	日本貨幣 金額	加那太貨幣 金額	受取人住所	受取人氏名	差出人住所	差出人氏名	振出局名	外國爲替ノ番號	內國爲替ノ番號	月 日	

乙號

此ノ目錄ニ記載セル日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ仕拂フヘキ金額總計 弗ニ
 相成候爲替第 號ヨリ第 號迄調査候處左記ノ件々ヲ除クノ外ハ都テ正當ノ
 モノト見認候也

ヅ井クトリア郵便爲替交換局長

千八百八十年

東京

遞信省

外信局長殿

丙 號
 千八百八十年第 期

第 期中振出國ニ於テ差出入ヘ拂戻シタル爲替目錄

日本ヨリ振出シタル爲替				加那太ヨリ振出シタル爲替			
目錄番號	目錄月日	外國爲替番號	爲替金額	目錄番號	目錄月日	外國爲替番號	爲替金額
			弗 仙				弗 仙
		總計				總計	

戊 號
千八百八十年第 期
日本ト加那太トノ間ニ交換シタル爲替總計表

日本ノ貸高			金額	加那太ノ貸高			金額
加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フヘキ爲替			弗 仙	日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ仕拂フヘキ爲替			弗 仙
目錄第	號	弗 仙		目錄第	號	弗 仙	
ク	ク			ク	ク		
ク	ク			ク	ク		
ク	ク			ク	ク		
ク	ク			ク	ク		
ク	ク			ク	ク		
歩合金千分ノ五 拂戻爲替				歩合金千分ノ五 拂戻爲替			
受取人ナキ爲替				受取人ナキ爲替			
日本ノ貸高總計				加那太ノ貸高總計			
差引加那太ヨリ受取ルヘキ高				差引日本ヨリ受取ルヘキ高			

丁 號
受取人ナクシテ振出局
ヘ返附スヘキ爲替

日本ニ於テ振出シタル爲替				加那太ニ於テ振出シタル爲替			
目錄番號	目錄月日	外國爲替番號	爲替金額	目錄番號	目錄月日	外國爲替番號	爲替金額
			弗 仙				弗 仙
			總計				總計

第八類 英國ト郵便爲替條約

○勅令 明治二十三年六月三十日

朕帝國遞信省ト親列頭郵政院トノ間ニ郵便爲替改正定約ヲ締結セシメタルニ依リ
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大日本帝國遞信省ト大親列頭郵政院トノ間ニ締結セル改正郵便爲替定約

大日本帝國遞信省及大親列頭郵政院ハ兩國間ノ現行爲替法ヲ改正センコトヲ希望
シ末尾ニ記名セルモノハ各其政府ノ命令ニ依リ左ノ條々ヲ締結セリ

第一條 大日本帝國及大親列頭トノ間ニ每週郵便爲替ノ交換ヲ執行スヘシ

第二條 此締盟兩國間ノ爲替事務ハ總テ交換局ヲ經テ之ヲ取扱フヘシ日本ニ於テ
ハ東京ヲ以テ交換局ト定メ英國ニ於テハ倫敦ヲ以テ交換局ト定ムヘシ

第三條 凡ソ爲替金額ハ雙方トモ英貨(ステルリング)ヲ以テ記載スヘシ而シテ此
兩國間ノ貨幣相場ニ時々昇降アルカ爲メ日本遞信省ハ適當ノ割合ヲ以テ爲替
金額ヲ引直シ得ルコトヲ約ス即チ英國ハ爲替ヲ振出ス爲メ日本遞信省ニ於テ受
領シタル金額ハ時ノ貨幣相場ヲ以テ英貨ニ引直シ又英國ヨリ振出シタル爲替ノ
金額ハ日本遞信省ニ於テ之ヲ拂渡ス前日本貨幣ニ引直スヘシ

第四條 兩國間ニ振出シ得ル爲替金額ハ一口十「ポンド」ヲ超過スヘカラス
「ペンニト」以下ノ端數ハ爲替トナスヲ得ヌ

第五條 公衆ニ爲替ヲ拂渡スニ方リ銀貨相場ノ昇降ヨリ拂高ニ異同ヲ生セサラシ
メンカ爲メ爲替金ハ總テ金貨若クハ金貨ニ最近ノ價格ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ

第六條 日本遞信省及英國郵政院ハ雙方共其振出ス爲替料ノ割合ヲ時々更定スル
ヲ得ヘシ

其爲替料ハ總テ振出局ノ收入ニ歸スルモノトス但日本遞信省ハ日本ヨリ振出し
英國ニ於テ拂渡シタル爲替金總額ノ千分ノ五ノ歩合金ヲ英國ノ郵政院ニ支拂フ
ヘシ又英國郵政院ハ英國ヨリ振出し日本ニ於テ拂渡シタル爲替金總額ノ前同様
ノ歩合金ヲ日本遞信省ニ支拂フヘシ

第七條 爲替ハ其請求者ヨリ差出人ノ氏名及受取人ノ宿所氏名又會社組合差出人
ナレハ其名號受取人ナレハ其名號所在ヲ詳述スルニ非レハ之ヲ振出サハルヘシ
但其請求者ヨリ差出人及受取人ノ名稱ヲ一層詳細ニ陳述セルトキハ其陳述スル
通り通知スヘシ

第八條 爲替證書ノ不達紛失或ハ破損シタル場合ニ於テ其受取人ヨリ緊要ナル條
件ヲ書面ニ認メ爲替拂渡國ノ爲替本局ニ再度ノ爲替證書ヲ請求スルトキハ之ヲ
交付スヘシ此場合ニ於テ該局ハ再度ノ爲替料ヲ要求スルヲ得但郵便遞送中ニ證
書ヲ紛失シタルトキハ此限ニアラス

第九條 受取人ヨリ緊要ノ條件ヲ認メ爲替拂渡ノ停止ヲ請求スルトキハ其拂渡ヲ停止スヘシ

第十條 爲替受取人若クハ差出人ノ氏名ニ誤謬アリテ其改正ヲ要シ或ハ差出人ニ於テ爲替金額ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ差出人ヨリ其爲替振出國ノ爲替本局ヘ申立ツヘシ此場合ニ於テハ該局ハ再度ノ手数料ヲ要求スルヲ得但爲替取扱吏員ノ過誤ニ起因スルモノハ此限ニアラス

第十一條 爲替金ハ初度ノ振出ト再度ノ振出トヲ論セス拂渡國ノ爲替本局ニ於テ未タ之ヲ拂戻サルコトヲ證明シタル後ニアラサレハ振出國ニ於テ之ヲ差出人ニ拂渡サルヘシ

第十二條 爲替ハ雙方振出シタル月ノ翌月ヨリ十二ヶ月間其効力ヲ有スルモノトス

右期限經過前ニ拂渡サル爲替金ハ總テ其振出國ノ所得ニ歸スヘシ

第十三條 爲替交換局ハ各自ノ國ニ於テ先方ヘ拂渡ノ爲ノ受取リタル爲替金額ヲ每週ノ郵便ヲ以テ互ニ通知スヘシ但此場合ニハ目錄甲號雛形ヲ用フヘシ

通知スヘキ爲替ノ振出ナキ場合ニ於テハ每便空白ノ目錄ヲ送付スヘシ

目錄本書ノ紛失ヨリ不都合ヲ生セサラシメンカ爲メ兩局互ニ次便ヲ以テ前便ニ遞送シタル目錄ノ副本ヲ送付スヘシ

第十四條 目錄ニ記入スル爲替ニハ外國爲替番號ト稱スル特殊ノ番號ヲ附シ毎月

第一號ヨリ始ムヘシ

目錄ハ其差立ノ順序ニ從ヒ第一第二第三等ノ番號ヲ附シ毎年第一號ヨリ始ムヘシ

第十五條 爲替目錄領收ノ旨ハ雙方共領收後始メテ遞送スヘキ目錄中ニ記入スヘシ而シテ受取交換局ニ目錄達セサルトキハ直ニ其差立局ニ請求スヘシ此ノ如キ場合ニ於テハ差立交換局ハ遲滞ナク目錄副本ヲ新製シテ其正當ノモノタルコトヲ證明シ之ヲ受取交換局ヘ送付スヘシ

第十六條 爲替目錄ハ其受取交換局ニ於テ丁寧ニ之ヲ査閲シ其誤謬ノ明白ナルモノハ之ヲ訂正スヘシ而シテ其校正ノ點ハ校正セシ目錄受領書ニ記載シテ之ヲ差立交換局ニ通知スヘシ

其他目錄中不正ノ記入アルトキハ受取交換局ハ差立交換局ニ對シ説明ヲ求ムヘシ而シテ差立局ハ可成速ニ之ニ應スヘシ尤モ右誤謬アル爲替ハ其照會中内國拂渡爲替ノ拂出ヲ停止スヘシ

第十七條 爲替目錄ノ受取交換局ニ到達次第該局ニ於テ目錄ニ照シ受取人ヘ宛拂渡國ノ貨幣ニテ相當ノ金額ニ對スル内國爲替ヲ發行シ兩國共ニ現行内國爲替拂渡規則ニ從ヒ受取人若クハ拂渡局ヘ送付スヘシ

第十八條 日本ヨリ一个月分ノ目錄ヲ差立次第日本遞信省ハ附錄乙丙及丁號表ニ從テ月次總計表ヲ調製シ而シテ丁號表ノ半面ニハ同月間日本ヨリ發セシ各目錄

ノ總金額ト此定約第六條ニ定メタル千分ノ五ノ歩合金並ニ同月間英國ニテ拂戻スヘキ爲替金額及沒收(第十二條)ノ爲替金額トテ以テ英國ノ貸高トシテ之ヲ記入スヘシ

又他ノ半面ニハ同月間英國ヨリ受取リタル各目録ノ總金額ト此定約第六條ニ定メタル千分ノ五ノ歩合金並ニ同月間日本ニテ拂戻スヘキ爲替金額及沒收(第十二條)ノ爲替金額トテ以テ日本ノ貸高トシテ之ヲ記入スヘシ

右ノ對算ヨリ生スル差引殘額ハ總計表差引項目部中ニ記載スヘシ
此手續ハ毎年一月ヨリ十一月迄ノ間之ヲ履行シ十二月分ノ月次總計表ニハ其年一月ヨリ十二月三十一日迄ニ日本ヨリ英國ヘ振出シタル爲替總額ト英國ヨリ日本ヘ振出シタル爲替總額トヲ合記スヘシ

此月次總計表ハ二通ヲ調製シ日本遞信省ヨリ英國郵政院ニ送付スヘシ但其一通ハ承諾ノ上日本遞信省ニ返付スヘシ

第十九條 日本遞信省ヨリ總計算ノ差引殘額ヲ支拂フトキハ總計表ト同時ニ之ヲ遞送スヘシ又英國郵政院ヨリ差引殘額ヲ支拂フトキハ總計表ノ一通ヲ返付スルト同時ニ之ヲ遞送スヘシ

此差引殘額日本ノ貸高トナリタルトキハ東京若クハ橫濱ヘ宛又英國ノ貸高トナリタルトキハ倫敦ヘ宛支拂フヘシ但此支拂ハ之ヲ受取ル國ノ貨幣ヲ用フヘキモノトス

第二十條 日本遞信大臣及英國郵政院長ハ此定約ニ牴觸セサル限リハ詐偽防禦ノ爲若クハ爲替事業改良ノ爲附加條目ヲ設ケルヲ得ヘシ

但甲國ニ於テ此附加條目ヲ設ケタルトキハ之ヲ乙國ノ郵政廳ニ通知セサルヘカラス

第二十一條 日本若クハ英國ノ商人ノ此爲替ヲ以テ金員ヲ遞送スルモノ夥多ニシテ隨テ其金員巨額ニ至ルトキハ兩國ノ郵政廳ニ於テ其爲替料ヲ増加シ若クハ一時全ク其振出ヲ停止スルヲ得ヘシ

第二十二條 此定約ハ兩國間ノ爲替交換ニ關スル從前ノ諸定約ニ代ヘ千八百九十年七月一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國ヘ廢止ノ報知ヲ爲シタル日ヨリ十二ヶ月間効力ヲ有スヘシ

此定約ハ二通ヲ調製シ一通ハ明治二十三年五月二十日東京ニ於テ記名調印シ一通ハ千八百九十年三月二十一日倫敦ニ於テ記名調印スルモノナリ

大日本帝國遞信大臣 後 藤 象 二郎

大貌列顛郵政院長 ヘンリー、セシル、レーキス

形 雛 丁 號

千八百 年 第 月
日本帝國ト大英國トノ間ニ交換シタル爲替ノ總計表

日本國ノ貸高		金額	英國ノ貸高		金額
英國ヨリ振出シ日本ニ於テ	磅志片		日本ヨリ振出シ英國ニ於テ	磅志片	
仕拂フヘキ爲替金額	磅志片		仕拂フヘキ爲替金額	磅志片	
目錄第 號			目錄第 號		
ク ク			ク ク		
ク ク			ク ク		
ク ク			ク ク		
ク ク			ク ク		
歩合金千分ノ五……………			歩合金千分ノ五……………		
拂戻爲替ノ金額……………			拂戻爲替ノ金額……………		
効力ヲ失ヒタル爲替ノ金額			効力ヲ失ヒタル爲替ノ金額		
日本ノ貸高 總計			英國ノ貸高 總計		
差引英國へ支拂フヘキ高			差引日本へ支拂フヘキ高		

東京千八百九十 年 日本遞信省

第九類 各國ト郵便爲替交換

萬國郵便聯合
約定ニ依ル
郵便爲替交換

○第貳拾號遞信省告示 明治十九年四月十三日
 聯合郵便爲替條約ニ據リ日耳曼澳地利洪曷利及瑞西國ト郵便爲替ヲ施行シ本邦ハ
 驛遞局并ニ京都大坂橫濱神戸長崎函館郵便局日耳曼澳地利洪曷利及瑞西ハ該國內
 總テノ郵便局ニ於テ其事務ヲ取扱フ
 日耳曼トハ電信爲替ヲモ施行シ本邦ハ驛遞局并ニ橫濱郵便局日耳曼ハ該國內總テ
 ノ郵便局ニ於テ其事務ヲ取扱フ
 右告示ス

○第貳拾四號遞信省告示 明治十九年四月二十六日
 聯合郵便爲替約定ニ據リ來ル六月一日ヨリ羅馬尼亞國ト郵便爲替ヲ施行シ本邦ハ
 驛遞局并ニ京都大坂神戸長崎函館郵便局羅馬尼亞ハ左記ノ郵便局ニ於テ其事務ヲ
 取扱フ

- ハカウ
- Bakuh
- ベルラッド
- Berlad
- ボトサニ
- シアツシー
- Jassy
- ピアトラ
- ピテヌチ

Botosani	Pitesti
Braïla	ブロヂヌチ
ブトカノフ	リトコターサラット
Bucuresci	Rimnicu-Sărat
ブトクナ	リムニクーヴイルシア
Buzeu	Rimnicu-Vlcea
カチノシ	ローマン
Călărași	Roman
カトクナ	モナイア
Câmpina	Sinaia
カトクノシ	メラチナ
Cămpulung	Slatina
カシカ	シユリナ
Caracul	Sulina
コンスタツツ	チンシエー
Constantza	Teoceni
クライオヴァ	チルゴヴイスト

Craiova	チルゴヴィステ
ホロイ	チルゴヴィエー
Dorohoiu	チルグジュ
ドホイ	タルミア
Focsani	Tulcea
フォルチセ	タルヌーマギウレール
Holțiceni	Turnu-Măgurele
ガチ	タルヌーセヴエリン
Gași	Turnu-Severin
ギニルギエー	ヴァスリエー
Giurgiu	Vaslui
グイー	
Husi	

右告示ス

○第三拾五號遞信省告示 明治十九年五月十一日
 聯合郵便爲替約定ニ據リ 歴山堡國ト郵便及電信爲替ヲ施行シ本邦ニ於テハ郵便爲替ハ驛遞局並ニ京都大坂横濱神戸長崎函館郵便局又タ電信爲替ハ驛遞局並ニ横濱郵便局歴山堡ニ於テハ郵便及電信爲替共左記ノ郵便局ニ於テ其事務ヲ取扱フ

ベテムブール	Betembourg	ルクセンブール	Luxembourg-ville
ブーライド	Boulaide	メルシ	Mersch
クレーヴァウ	Clervaux	モンセル	Mondorf-les-Bains
ディキル	Diekirch	ペタン	Petange
ディラン	Differdange	レダン	Redange
ドメルダン	Dommelange	レニ	Remich
ドゥラン	Dudelange	ロー	Rodange
エヒターナ	Echternach	ロッド	Roodt
エッシュ	Esch-sur-l'Azette	ルン	Rumelange

エッシュ	Esch-sur-Sure	スタイン	Steinfort
エッテル	Ettelpruck	トリス	Troisvierges
グロヴ	Grovenmacher	ヴァン	Vanden
グロブ	Grosbous	ワッセル	Wasserbillig
ホー	Hosingen	ウェ	Wecker
カ	Kap	ヴァン	Waiswampach
ラ	Larochette	ワイル	Wiltz
ルク	Luxembourg-gare	ウォ	Wormeldange

右告示

○第五拾貳號遞信省告示 明治十九年二月二十八日

聯合郵便爲替條約ニ據リ「バルガリア」國ト郵便爲替ヲ施行シ驛遞局并ニ京都大坂
橫濱神戸長崎函館郵便局ニ於テ其事務ヲ取扱フ
右告示ス

○告示第百五十六號遞信省 明治二十五年七月二日
從來內國郵便爲替事務ヲ取扱フ各局へ（支局及在朝鮮國郵便電
信局、郵便局ヲ除ク）外國郵便爲替ヲ開設シ
來ル七月十日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

但嶼地利、洪島利、瑞西、歷山堡、勃爾瓦利、羅馬尼ノ各國郵便爲替ハ從前ノ通り
東京、京都、大坂、橫濱、神戸、長崎、函館ノ各郵便電信局ニ限リ其事務ヲ取扱ハシ
ム

○告示第百三十號遞信省 明治二十五年十月一日

今般維也納締結郵便爲替事務約定ノ條款ニ準據シ白耳義國ト郵便爲替ヲ開設シ本
日ヨリ東京京都大坂橫濱神戸長崎函館ノ各郵便電信局ニ於テ其事務ヲ施行ス

香港媒介郵便
爲替交換

○驛遞局公告 明治十五年十二月

一來ル明治十六年一月一日ヨリ香港驛遞局ノ媒介ヲ以テ本邦ト英領「シロロン」及
ヒ濠洲「ゲキクトリヤ」兩地トノ間ニ郵便爲替取扱候事

一右爲替手数料並ニ其他ノ方法ハ都テ香港トノ爲替同様タルヘキ事
右公告候事

○告示第百六拾貳號驛遞局告示 明治十八年九月十四日

本月一日ヨリ香港驛遞局ノ媒介ヲ以テ本邦ト北「ホルニオ」ノ間ニ郵便爲替ヲ開ケ
リ
右告示候事

○告示第百九拾七號遞信省 明治十九年十一月四日

來ル明治二十年一月一日ヨリ香港驛遞局ノ媒介ヲ以テ施行スル郵便爲替取扱方左
ノ通變更ス

一濠洲及印度等へ振出ノ爲替ハ香港驛遞局ニ於テ媒介手数料トシテ爲替一口毎

ニ其金額貳百分ノ壹ヲ引去ルヘシ

一海峽殖民地へ振出ノ爲替ハ左ノ割合ヲ以テ爲替料徴收ス

爲替金額貳拾五圓迄 三拾五錢

同貳拾五圓以上五拾圓迄 七拾錢

○告示第百九拾五號遞信省 明治二十一年五月二十一日

自今香港郵政廳ノ媒介ニ依リ暹羅國盤谷ト郵便爲替ヲ交換ス

○告示第百十六號遞信省 明治二十五年五月十九日

自今香港郵政廳ヲ經テ「ニューシークランド」ト郵便爲替ノ交換ヲ開ケ

○告示第百八十四號遞信省 明治二十六年七月八日

香港郵政廳媒介英領印度宛郵便爲替ノ振出ヲ停止スル旨通知アリタリ

○發萬十八號驛遞局達 明治十八年一月十四日

英國媒介郵便

爲替交換

本達及別紙公告中
爾後變更セシ廉ア
リ宜ク外國郵便爲
替事務順序(本編
第貳類ニ編入)參
照スヘシ但シ別紙
公告中白耳義、日
耳曼、瑞西、萬國
郵便爲替約定ニ依
リ又以太利、北米
合衆國、加那、北
特別郵便爲替約定
ニ依リ又タスマニ
ア、ニウヰランド、
北ボルネオ、ハ香
港、郵政廳ノ媒介
ヲ以テ爲替ヲ交換
スルコト、ナレリ

今般英國驛遞院ノ媒介ヲ以テ本邦ト別紙公告ニ記載ノ歐米諸國及ヒ英領殖民地ト爲替開設シ來ル二月一日ヨリ實施候條是迄日耳曼爲替同様ノ振合ヲ以テ取扱可申別紙公告寫ヲ添ヘ此旨相達候事

但爲替手数料ハ爲替金額五「ポンド」迄三拾五錢拾「ポンド」迄七拾錢ノ割合ヲ以テ可取立事

(別紙)

公 告

一 來ル二月一日ヨリ英國驛遞院ノ媒介ヲ以テ本邦ト左記ノ各國及殖民地トノ間ニ郵便爲替取扱候事

白耳義、典鳥加、日耳曼、和蘭、以太利、ノルウエー、葡萄牙、瑞典、瑞西、北米合衆國、埃及、典鳥加領西印度、蘭領東印度アキスランド、タスマニア、ニウヰランド、加那太、ニウフアウンドランド、ベルミューダ、フオークランド、アキランド、喜望峯、ガムビア、ゴールドコトスト、ラゴス、モリシユース、ナタル、セントヘレナ、シーシエルス、シーラリオン、アンテゴア、バハマス、バルヘドース、英領ガイアナ、ドミニカ、グレナダ英領ホンデゴラス、ジアメーカ、モンセラット、子ヴキス、セントキッツ、セントルシア、セントハヴキンセント、トバゴ、トリニダット、ブルクスアキランド、サキアラス、北ボルネオ

一本邦ニ於テ右爲替取扱局及手数料ハ英國トノ爲替同様タルヘキ事
一英國驛遞院ニ於テハ爲替金額ヨリ左ノ割合ヲ以テ媒介手数料引去ルヘキ事

貳磅(拾圓)迄

三片(六錢貳厘四毛九九九九)

貳磅(拾圓)以上五磅迄(貳拾五圓)迄

六片(拾貳錢四厘九毛九九九九)

五磅(貳拾五圓)以上七磅迄(三拾五圓)迄

九片(拾八錢貳厘六毛九九九九)

七磅(三拾五圓)以上拾磅迄(五拾五圓)迄

壹志(貳拾五錢)

右公告候事

明治十八年一月

驛遞總官 野 村 靖

○ 告第百拾九號遞驛局告示 明治十九年三月二十九日

來ル四月一日ヨリ英國ノ媒介ヲ以テ本邦ト「ツアラタル」トノ間ニ郵便爲替ヲ開ク

○ 告示第八拾貳號遞信省 明治二十一年四月二十八日

自今英國ノ媒介ニ依リ「モロッコ」國「ダンヂール」ト郵便爲替ヲ交換ス

○ 告示第二百四十九號遞信省 明治二十五年十月二十四日

伊國郵政廳ハ本邦ト地中海「マルタ」島トノ郵便爲替交換ヲ媒介スル旨通知アリタ

伊國媒介郵便
爲替交換

第拾類 各國ト電信爲替交換

○ 第貳拾號遞信省告示 明治十九年四月十三日

一日耳曼外三ヶ國ト郵便爲替ヲ又日耳曼ト電信爲替施行ノ件〔本編第九類ニ編入〕

○第貳拾九號遞信省告示 明治十九年五月三日

聯合郵便爲替約定ニ據リスイツランド瑞西國ト電信爲替ヲ施行シ本邦ハ驛遞局及橫濱郵便局瑞西國ハ其國內總テノ郵便局ニ於テ其事務ヲ取扱フ右告示ス

○第三拾五號遞信省告示 明治十九年五月十一日

一 歷山堡國ト郵便及電信爲替施行ノ件〔本編第九類ニ編入〕

○第四拾六號遞信省告示 明治十九年五月二十日

聯合郵便爲替約定ニ據リ來ル七月一日ヨリオーストリア澳地利ハンガリー洪葛利國ト電信爲替ヲ施行シ驛遞局及橫濱郵便局ニ於テ其事務ヲ取扱フ右告示ス

第拾壹類 郵便爲替金特別配達

○告示第二百四十三號遞信省 明治二十五年十月十四日

郵便爲替事務約定第三條第六項ニ據リ郵便爲替金ノ特別配達ヲ施行スル國名左ノ如シ

日爾曼 奧太利（維也納及ヒ其他大都會ノ地ヲ除ク） 瑞西 白耳義

○告示第二百四十四號遞信省 明治二十五年十月十四日

郵便爲替事務約定第三條第七項ニ據リ郵便爲替金若クハ郵便爲替到着報知書ノ特別配達ヲ施行スル國名左ノ如シ
洪葛利 歷山堡 奧太利（維也納及ヒ其他大都會ノ地ヲ除ク）

第拾貳類 外國郵便爲替事務順序

○公達第二百六十七號遞信省 明治二十五年六月二十八日

一、二、三等局爲替ヲ取扱ハサル局及在朝鮮國郵便電信局郵便局ヲ除ク

外國郵便爲替事務順序別冊ノ通改正シ來ル七月一日ヨリ施行ス

（別冊ハ別ニ頒ツ）

但シ本達ニ抵觸スル從前ノ達ハ廢止ス

（別冊）

外國郵便爲替事務順序

目次

- 第一款 一般の心得 三百八丁
- 第二款 爲替振出 三百十三丁
- 第三款 爲替拂渡 三百十八丁
- 第四款 失効用爲替券 拂渡認可書 第二爲替券 三百二十二丁

第五款 爲替金拂展

外國郵便爲替事務順序

第一款 一般の心得

廿五年十月公達第
三百五十二號ヲ以
テ第一條羅馬尼ノ
次へ白耳義ヲ追加

第一條 萬國郵便爲替約定に依り郵便爲替を交換する國々は左の如し

日爾曼 奧地利 洪葛利 瑞 西 歷山堡 勃爾瓦利 羅馬尼 白耳義

第二條 特別郵便爲替約定に依り郵便爲替を交換する國々及び其領地は左の如し

大不列顛(下に英國) 佛蘭西 伊太利 亞米利加合衆國(下に米國) 加那太 香港

但香港爲替は英國郵便局所在地なる海口、廣東、仙頭、厦門、福洲、寧波、上海、

漢江の清國各所に及ぶものとす

第三條 特別郵便爲替約定に依り英國郵政廳の媒介を以て郵便爲替を交換する國

々及各殖民地は左の如し

白耳義 和蘭 丁抹 瑞典 那威 葡萄牙 埃及

英領

西印度の部

アンチグワ バハマ バルバドウス ギニア
ドミニカ グレナダ ホンジラス シヤメイカ
モントセラット 子グキス セント、キッツ
セント、ビンセント トバゴ トリニダット トルクス島

西南亞非利加の部

ケエーゴロニー ガムピヤ ゴールド、コウスト ラゴス
モーリシユス ナタール セント、ヘレナ セイシエルス
シーラレオン

各殖民地の部

サイプラス ペルミュダス フォルクランド島 ニューファウンドラント

丁抹領

西印度 アイスランド

和蘭領

東印度 モロッコ領

ダンゼル

第四條 特別郵便爲替約定に依り香港郵政廳の媒介を以て郵便爲替を交換する地
方は左の如し

英領

印度 錫蘭 海峽殖民地 北ホル子イ 南濠太刺利
西濠太刺利 ニュサウヌウエールス ク井ンスラント ヴ非クトリア

廿六年七月告示第
百八十四號ニテ英
領印度宛郵便爲替
ノ振出ヲ停止ス

第拾壹卷

外國郵便電信及爲替 第三編

外國郵便爲替 第拾貳類

外國郵便爲替事務順序

タスマニア ポートガルウヰン ニュージールランド

葡領

澳門

暹羅

盤谷

第五條 萬國郵便爲替約定に依り電信爲替を交換する國々は左の如し

日爾曼 奧地利 洪葛利 瑞西 歷山堡

第六條 爲替一口の金額制限は左の如し

萬國郵便爲替

英國及其媒介爲替

佛國爲替

伊國及其媒介爲替

米國爲替

加那太爲替

香港及其媒介爲替

第七條 爲替料の割合は左の如し

萬國郵便爲替

貳拾五法毎に

六 錢

佛貨五百法

英貨拾磅

佛貨貳百五拾法

佛貨五百法

米貨百弗

同五拾弗

墨銀五拾弗

廿五年十月公達第
三百七十九號ヲ以
テ第六條伊國ノ下
ヘ及其媒介ノ四字
追加

英國及其媒介爲替

五 磅 迄

貳拾五 錢

國爲替

百貳拾五法迄
貳百五拾法迄

五 拾 錢
貳拾五 錢

伊國及其媒介爲替

五 拾 法 迄
以上貳拾五法毎に

六 拾 貳 錢
貳拾五 錢

米國爲替

貳拾五弗迄
五 拾 弗 迄
七 拾 五 弗 迄
百 弗 迄

貳拾五 錢
五 拾 錢
七 拾 五 錢
壹 圓

加那太爲替

貳拾五弗迄
五 拾 弗 迄

貳拾五 錢
五 拾 錢

香港及其媒介爲替

海峽殖民地
及上海爲替

貳拾五弗迄
五 拾 弗 迄

貳拾五 錢
五 拾 錢

香港媒介海峽殖民地爲替

貳拾五弗迄
五 拾 弗 迄

參拾五 錢
七 拾 錢

上海爲替

貳拾五弗迄
五 拾 弗 迄

壹 圓
貳 圓

第八條 萬國郵便爲替にして拂渡通知を要するものは爲替一口に付別に拂渡通知料金五錢を徴収するものとす

又其爲替金、爲替券若くは爲替到着報知書の別配達を要するものは其配達料金六錢を徴収するものとす

又其電信に依ることを要するものは別に相當の電報料を徴収するものとす

第九條 電信爲替は通常電報に於ける如く且之と均しき取扱を以て至急、返信料濟、照校、受信報知、郵便配達若くは別配達の手數を経ることを得べく又前條第一項と均しく拂渡通知の手數を経ることを得べし

第十條 各爲替取扱方及び其取扱局の區別は左の如し

一 萬國郵便爲替は左に掲ぐる七局以下之を特定局と稱すに於て外國各局に對し直接に其振出及拂渡を取扱ふものとす

東京 京都

大坂

横濱

神戸

長崎

函館

其電信爲替は東京、横濱の二局に限り取扱ふものとす

二 特別約定爲替は一般内國郵便爲替取扱局各支局、在清國上海局及在朝鮮各局を除くに於て郵便爲替貯金管理所を經由して其受拂を取扱ふものとす

三 萬國郵便爲替中日爾曼爲替は第一項の特例として特定局外の各局各支局、在清國上海局及在朝鮮各局を除くに於て第二項に掲ぐる經由の法に依り其受拂を取扱ふものとす

四 特別約定爲替中香港及其媒介爲替は第二項の特例として特定局に於ては第一

項に掲ぐる直接の法に依り其振出及び拂渡を取扱ふものとす

五 在清國上海局に於ては特に米國爲替のみの受拂を取扱ふものとす

第十一條 外國爲替金の受拂には外國貨幣相場に従ひ本邦通貨を用ふるものとす但錢位未滿の端金は四捨五入とす

貨幣相場は特定局に於ては其地の相場に據り其相場なき地の局は最近の「ジャパンメール」新聞掲載のものに據り其他の各局に於ては最近の遞信公報掲載のものに據るものとす但墨西哥銀は本邦貿易銀と同價とす

第十二條 爲替券の有効期限左の如し

萬國郵便爲替 爲替を振出したる月の翌月一日より六箇月

英國及其媒介爲替

伊國及其媒介爲替 爲替を振出したる月の翌月より十二箇月

香港及其媒介爲替

佛國爲替 爲替を振出したる日より十二箇月

米國爲替

加那太爲替 爲替を振出したる月より十二箇月

第二款 爲替振出

第十三條 外國爲替の振出方を申出る者あるときは先づ左の手續を爲すべし

一 外國爲替願書の式紙「一」を與へて爲替金額第六條に示す外國貨幣額及差出人受取人の居所氏

二十五年十月公達
第三百七十九號ヲ
以テ第十二條伊國
ノ下へ及其媒介ノ
四字追加

名成る可く略字を用ひず詳細に記載すへし但伊國に振出す等（一）を式の如く認め調印（二）外國人なればへき爲替の受取人氏名は略字を許さざるものを知るへし

一 爲替願書を受取りたるときは其適否を調査し第十一條第二項の規定に従ひ爲替金額を本邦通貨額に換算し願書相當の位置に其換算金額、相場額等を記入し且主務者記名調印し之を差出人に示すへし

二次に「拂込金受領證書」（三）を式の如く調製し之を爲替願書に照し相違なきを認め主務者記名調印し爲替金と引換に之を差出人に交付すへし但特定局に於て取扱ふ香港及其媒介爲替には本項の手續を要せず

四次に爲替願書に依り特定局に於ては「外國爲替振出簿」（四）に其他の各局に於ては「爲替資金内譯帳」（五）に爲替金額、換算額、爲替番號、差出人受取人の居所氏名、拂渡國名等を記載し双方讀合すへし但「拂渡通知」「別配達」等の手續を経へき爲替又は電信に依るへき爲替には各其旨を付記し置くへし

五 郵便爲替貯金管理所經由の法に依るへき爲替願書は前各項の手續を了りたるとき直に又直接の法に依るへき爲替願書は尙次の條に掲ぐる手續を了りたる後直に之を郵便爲替貯金管理所に廻送すへし

第十四條 次に直接の法に依るへき爲替は左の手續を爲すへし（特定局に限る）

一 萬國郵便爲替は爲替願書に依り爲替券（一）を式の如く調製し爲替券と續合せ若し差出人に於て受取人に宛つる通信文を記載せんことを望むときは爲替券の通知券の部に記入せしめたる上成規の封皮に容れ拂渡國別に區分結束し最近の便船を以て發送すへし其換地利洪葛利に發送する爲替に限り書留郵便と爲し換國「トリエヌト」郵便局に宛て差立つへし

二 香港爲替は爲替願書に依り爲替券及報知書（二）を式の如く調製し爲替金と引換に之を差出人に交付し且自費にて之を受取人に送達すへきことを示し報知書は最近の便船を以て福州及其以南に宛つるものは香港郵政廳に又福州以北のものは在上海英國郵便局に差立つへし
福州南北の別左の如し
（南）廈門 仙頭 廣東 海口
（北）寧波 漢江

三 香港媒介爲替は前項の通り爲替券及報知書を調製（其所は特に詳細に記載すへし）し其爲替券に「爲替金額領收の證とするの外効用を有せざる旨」を記載したる附屬用紙（六）の一半を貼付し爲替金と引換に之を差出人に交付し又報知書は其上部に二線

Through Order
を劃し其中間に媒介爲替の文字を朱書し其裏面に右附屬用紙の一半を貼付し之を香港郵政廳に差立つへし

第十五條 萬國郵便爲替の差出人「拂渡通知」又は「別配達」等の手數を経ることを望むときは爲替願書に其旨を付記せしめ左項の別に依り取扱ふへし但爲替金爲替券若くは爲替到着報知書の別配達を取扱ふ國の別は別に定むる所に依るへし一特定局に於ては爲替券を調製したる後之に拂渡通知料又は別配達料相當の郵

Avis de paiement Expres.

便切手を貼付せしめ「拂渡通知」又は「別配達」の印を以て之を消印し且同時に其爲替願書の餘白に其印を押捺すへし

二特定局外の各局に於ては前項の料金を爲替金と共に現金にて納付せしめ
替に爲替願書の餘白に「拂渡通知」又は「別配達」の文字を朱書し其現金は爲替
限る 金に併算して整理すへし

第十六條 東京局又は横濱局に於て電信爲替の申込を受けたるときは爲替願書に通常事項の外「電信爲替」の文字を付記せしめ且爲替料の外相當の電報料を現金にて納付せしめ然らば爲替願書に依り爲替電報紙(七) 賴信紙に代を調製し電報發送の手續を爲すへし

電報紙には左の如く記載すへし

臨時符號

文字又は電信事務 至 急 (D) 返信料 濟 (CRRP)
に使用する略語を 照 校 (TC) 受信報知 (CRRP)
用て記すへし 書留郵便 (PR) 別配達料前納 (XP) 別配達

爲 替

(振出郵便爲替番號)

郵便局

(拂渡局名)

(拂渡通知書 要する)

何誰 若くは

差出人の姓名及數字と文字とに於ける爲替

何誰婦若くは

金額

何誰娘

何誰 若くは

受取人の姓名、現住居及可成は本籍の所在地を

何誰婦若くは

明瞭に記すへし

何誰娘

爲替電報を發送したるときは電信爲替振出報知書(八) 號を調製し之を封皮に容れ

最近の便を以て振宛局に廻送し電信爲替振出の旨を確證すへし

電信爲替差出人受取人に宛つる通信文を爲替電報に加へんことを望むときは適宜の料紙に通信文を記載せしめ之を爲替願書に綴付け置き其文言を電報紙に書加ふへし

又拂渡通知の手數を経ることを望むときは電信爲替振出報知書に料金相當の郵

便切手を貼付せしめ「拂渡通知」の印を以て之を消印し且同時に爲替願書に其印を押捺したる上該報知書を發送すへし

電報料は爲替通知の語數と差出人通信の語數とを通算して徴收すへし

電報料金は金庫派出員に就き預り切符に交換し之を電報紙に添へ電信受付主任に交付すへし

電信爲替の取扱を爲したる後振宛局より其電報不達の旨照會ありたるときは速に其事故を取調へ電信送達の手續を盡すへし

第十七條 拂渡通知の手續を経たる爲替に對し振宛局より「拂渡通知書」到着したるときは「外國爲替振出簿」又は「爲替資金内譯帳」の其爲替記載の欄に該通知書到着の旨を書加へ後直に之を差出人に書留として送達すへし

第十八條 萬國郵便爲替振出の後爲替券違式の旨を以て拂渡局より其返還を受けたるときは「外國爲替振出簿」に照し尙必要の場合に於ては差出人に乘問し訂正を加ふべき事實を悉くしたる書面を添へ其爲替券を郵便爲替貯金管理所に送付すへし特定局に限る

又香港及其媒介爲替振出の後拂渡局より報知書違式又は不達の旨照會を受けたるときは前項の通り調査の上第二報知書を調製し之を拂渡局に發送し其旨を郵便爲替貯金管理所に報告すへし

第三款 爲替拂渡

第十九條 萬國郵便爲替到達したるときは左項に依り取扱ふへし特定局に限る

一先づ第十一條に掲ぐる定めに従ひ通常爲替は其券面電信爲替は其送達紙面の金額仰貨即ち法を本邦通貨額に換算し爲替券面又は送達紙面の餘白に其金額を記載すへし

二次に其爲替は「拂渡通知」「別配達」又は「返信料濟」「別配達料前納」「書留郵便」「別配達」以上四種は電信規定に係るの手續を経たるものなるや否を認むへし

三次は「外國爲替到達簿」十爲替金額及換算金額、差出人受取人居所氏名、爲替番號電信爲替なるときは電信の文字を加ふ到達番號等を式の如く記載し且拂渡通知、別配達其他の手續を経たるものなるときは其旨を付記し爲替券又は送達紙に到達番號を轉記し送達紙には尙受取人に對する注意として「電信爲替」の文字を朱記すへし

四次に爲替券又は送達紙に依り「通知目録書」九を式の如く調製し而る後先づ爲替券又は送達紙は封裝の上送達票を添へ書留郵便の手續を経るものは之を要せず第二項に示す「別配達」其他の指定あるものは其指定に従ひ夫々の規定に據り之を受取人に送達し送達票に受領證印を徴すへし但電信爲替にして返信料證書あるものは送達紙と共に之を封裝し受取人に送達すへし次に「通知目録書」は之を郵便爲替貯金管理所に廻送すへし

五若し爲替受取人他の特定局所在地に移轉したるときは「外國爲替到達簿」に受取人移轉に由り爲替移送の旨を詳記し之を其地の特定局に移送し其旨を郵便

爲替貯金管理所に報告すへし

又爲替受取人特定局所在地外若しくは他の各國に移轉の場合に於ては前段の通り「外國爲替到達簿」に詳記し爲替券を郵便爲替貯金管理所に廻送すへし

第二十條 郵便爲替貯金管理所經由に係る爲替の報知書又は香港及其媒介爲替の報知書到達したるときは左の區別に依り取扱ふへし

一經由の法に依れる爲替の報知書は換算金額の記載明瞭なる哉又は其他の書式相違なき哉否を點檢し然る後前條第三項の例に依り「外國爲替到達簿」に記載し且其到着當日の日付印を押捺すへし

二香港及其媒介に係る爲替の報知書は先づ書式相違なきや否を點檢し次に其爲替金額を第十一條に掲ぐる定めに従ひ本邦通貨額に換算し貿易銀に對し通貨の同額を要し其餘白之を記載し前項の通り「外國爲替到達簿」に記載し且其到着當日の日付印を押捺し然る後其報知書に依り「通知目錄書」を式の如く調製し報知書は之を保管し目錄書は郵便爲替貯金管理所に廻送すへし特定局に限り

第二十一條 受取人爲替券電信爲替にありては送達紙以下同を持參し爲替金の拂渡方を申出てたるときは左の區別に依り取扱ふへし

一萬國郵便爲替特定局に限りは先づ爲替券を差出さしめ次に「外國爲替到達簿」に照し其換算金額、到達番號其他を突合せ相違なきときは「外國爲替拂渡簿」十一に式の如く記載し且「外國爲替到達簿」に拂濟月日を記入し然る後爲替券に記載

調印外國人には押印せしめ爲替金を拂渡すへし若し「拂渡通知」の手續を経たるものなるときは「拂渡通知書」十二を式の如く調製し主務者記名羅馬字にて調印の上之を振出局に送付すへし

二經由の法に依れる爲替及特定局に振込みたる香港及其媒介爲替は爲替報知書に照し受取人に尋問し人違にあらざることを認めたるときは其爲替金額等を特定局に於ては「外國爲替拂渡簿」に其他の各局に於ては「爲替資金内譯帳」ケに記載し且「外國爲替到達簿」に拂濟月日を記入し然る後前項の通り記名調印せしめ爲替金を拂渡すへし若し特定外の各局に於て拂渡したる日爾曼爲替にして「拂渡通知」を要するものあるときは適宜の料紙に爲替金額、爲替番號等を記載し拂渡の旨を證し書留として別便を以て速に之を郵便爲替貯金管理所に廻送すへし

三受取人代人なるときは尙左の如く委任の證明を爲さしめ第一項又は第二項に依り爲替金を拂渡し拂渡帳簿には其代人の居所氏名をも記載すへし

經由の法に依れる爲替金及特定局に於て取扱ふ香港及其媒介爲替金に係る領收の委任は内國爲替事務順序に定むる所に依るものとす

萬國郵便爲替金領收の委任には特に代人届書若しくは請求人隨意の場合に於ては正當委任狀を差出さしむるものとす

四爲替金を拂渡したるときは爲替券相當の位置に日付印を押捺し其拂濟を證す

へし

第二十二條 自局に到達したる爲替券又は爲替報知書違式若くは不達等の事故あ

るときは左の區別に依り照會を逐けたる後爲替金拂渡の手續を爲すへし

一直接の法に依れる爲替の事故は其訂正方等を振出局に照會し同時に其旨を郵

便爲替貯金管理所に報告すへし但萬國郵便爲替は其爲替券を照會書に添へ特

に書留郵便を以て返還すへし

二經由の法に依れる爲替の事故は郵便爲替貯金管理所に照會すへし

三電信爲替報知書のみ到達し其電報の到達せざるものは先づ振宛局に電報を要

求し其電報到達したる後爲替金拂渡の手續を爲すへし

第四款 失効用爲替券、拂渡認可書 第二爲替券

第二十三條 第十二條に掲ぐる期限内に拂渡の請求あらざる爲替は其期限後直に

其爲替金額、爲替番號、差出人受取人居所氏名等を記載し且將來其拂渡を爲さ

る旨を證明したる書面を以て爲替報知書あるものは之を添へ郵便爲替貯金管理

所に報告し「外國爲替到達簿」に其旨を附記し置くへし

第二十四條 爲替券の不達、紛失若くは破損等に依り「拂渡認可書」又は「第二爲替

券」の交付を請求するものあるときは左の通り取扱ふへし

一萬國郵便爲替にして其受取人より「拂渡認可書」の請求ある場合に於ては請求

書を出さしめ一度到着したる爲替なるときは「外國爲替到達簿」に照し未拂なる

や否やを検査の上該「到達簿」に將來拂渡さるる旨を記入し然る後將來拂渡さ

ることを保證したる書面を添へ之を郵便爲替貯金管理所に廻送すへし

又其差出人より其爲替金の拂戻を受け度旨の請求ありたる場合に於ては受取

人に於て爲替券の讓渡を爲さるること又は不達のこと或は紛失、破損等のこ

とを證明したる書面及「拂込金受領證書」を請求書に添へて差出さしむへし

二經由の法に依れば爲替及特定局に拂込みたる香港及其媒介爲替にして「第二

爲替券」の請求ある場合に於ては其請求書を差出さしめ前項前段の通り手數

の上其爲替報知書を添へ之を郵便爲替貯金管理所に廻送すへし

第五款 爲替金拂戻

第二十五條 特別約定に係る爲替金の拂戻を請求する者あるときは左の區別に依

り取扱ふへし

一先づ爲替券又は拂込金受領證書を差出さしめ特定局に於ては之を「外國爲替

振出簿」に其他の各局に於ては之を「爲替資金内譯帳」に照し検査の上之に對

し預書^{料紙}を交付し拂戻請求の旨を記載したる書面を添へ之を郵便爲替貯金

管理所に廻送し請求人には拂戻爲替券の到達すへき豫定時日を示し置くへし

二次より前項拂戻に係る爲替報知書の送付を受けたるときは自局に振込みたる爲

替同様の手續を爲し然る後請求人が爲替券持參し爲替金の拂渡方を申出たる

ときは曩に交付したる預り書を返納せしめ一般拂渡金同様の手續に依り其爲替

金を拂渡すへし

特定局に於て取扱ひたる香港及其媒介爲替にして其報知書を香港局又は上海局に又其他の特別約定爲替にして其爲替願書を郵便爲替貯金管理所に差出さるる以前に於て拂戻の請求ありたるときは振出局に於て直に其拂渡を取扱ふへし但此場合に於ては特定局に於て取扱ひたる香港及其媒介爲替を除き他の特別約定爲替は「拂込金受領證書」を爲替券に代用し其裏面に受領證印せしむへし

第二十六條 萬國郵便爲替の爲替金拂戻に就ては事實發生の時々郵便爲替貯金管理理所より照會する所に據り取扱ふへし

第二十七條 特別約定各國より振込の爲替に就き郵便爲替貯金管理理所より其拂戻方の照會を受けたるときは第二十三條の通り取扱ふへし

(號一第外)

<p>外國爲替願書</p> <p>第 號</p>	
<p>差出人 氏名所</p>	<p>受取人 氏名所</p>
<p>右金額前記氏名ノ郵便爲替ヲ以テ御差立相成度</p> <p>此段相願候也</p> <p>差出人 年 月 日 局 御 中</p>	
<p>此換算金</p> <p>爲替金額 (相場)</p>	<p>主任</p>

FOREIGN MONEY,	JAPANESE MONEY,		RATE OF EXCHANGE
	Yen,	Sen.	

No.

..... Issuing Officer.

APPLICATION FOR A MONEY ORDRE.

.....189.....

To.....

Sir:

Please issue the following described Money Order.

Name of Tayee.....

Full address of Tayee.....

Name of Remitter.....

Full address of Remitter.....

Amonnt.....

Signature of }
pplicant'

(號二第外)

(證領受金込拂替爲國外)

一 貨 此換算金









明治 年 月 日

右ノ郵便爲替金トシテ預收候也

號 番	名所人差 氏宿出	名所人受 氏宿取
-----	-------------	-------------

名國宛振	額 金	號 番
		日 月 出 振

(號四第外)

<p>通知券 Coupon 受取人ニ於テ此券ヲ取 放テ所持スルヲ得ヘシ peut être détaché par le destinataire.</p>	<p>日本帝國遞信省 Administration des Postes de l'Empire japonais. 萬國郵便爲替 Mandat de Poste International</p>	<p>爲替料 Indication de la taxe Percue.</p>
<p>爲替金額 數字ヲ以テ記スヘシ Montant du mandat en chiffres.</p>	<p>金額 Fr. Ctm. de la somme de   數字ヲ以テ記スヘシ en chiffres arabes.</p>	<p>Fr. Ctm.</p>
<p>差出人住所氏名 Désignation de l'expéditeur</p>	<p>羅馬字ヲ以テ記スヘシ en toutes lettres et en caractères romains. 受取人 Payable à M</p>	<p>振出局印 Timbre du bureau d'origine.</p>
<p>年 月 日 Le 18</p>	<p>拂渡地名 Lieu de destination: 受取人住所 Adresse du destinataire 拂渡國名 Pays de destination:</p>	<p>Fr. ctm. yen. son. 又ハ soit  </p>
<p>年 月 日 Le 18</p>	<p>振出番號 Numéro d'émission: 正當金額 Bon pour   又ハ soit   振出月日 Date d'émission: 差立局名 Bureau expéditeur:</p>	<p>爲替取扱主務者 Signature de l'agent qui a dressé le mandat.</p>

讓渡裏書ノ場所
Cadre réservé aux endossements, s' il y a lieu.

受取證
Quittance du destinataire.


表面ノ金額正ニ落手候也
Recu la somme indiquée, d'autre part.

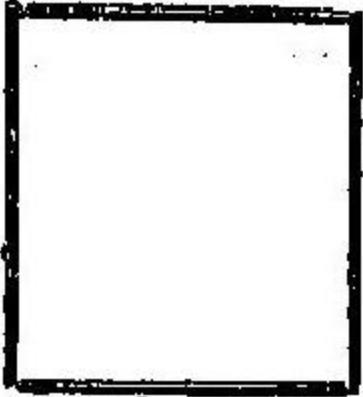
記名
Lieu le 年 月 日 18

受取人記名
Signature du destinataire:

到着
番號
Registre
d'arrivée
No

拂渡局印
Timbre du bureau payeur,

Imperia Japanese  Post Office, Stamp of Issuing Office.

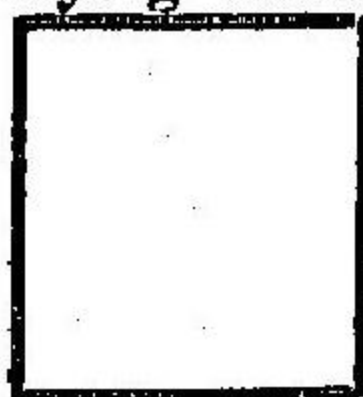
No. \$ 

Advice of Money Order drawn by the above Office upon the Office at for \$ and cents.

The Payee, viz., the Person to whom the order is payable.	CHRISTIAN NAME.	SURNAME.
	CHRISTIAN NAME.	SURNAME.
The Remitter, viz., the person who paid the money and ob- tained the Order.	CHRISTIAN NAME.	SURNAME.
	CHRISTIAN NAME.	SURNAME.

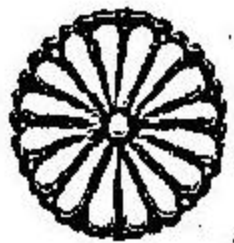
.semaN. eaneihC	附	姓	Remitter	收	姓	Payee
	主	名		主	名	

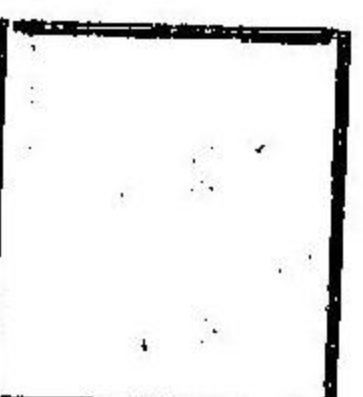
Issuing Officer.

This advice must be stamped and signed by the Stamp of Paying Office.
Postmaster who draws the Order, and should be stamped by the Postmaster upon whom it is drawn. 

N.B.—Aseparate Advice must invariably be sent for each Order.

*To be filled in, if Possible, by the Remitter or a friend who can write Chinese

Stamp of Issuing Office Imperial Japanese  Post Office

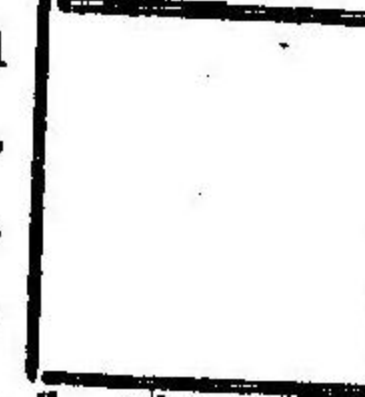
No. \$ 

Pay the person named in my letter of Advice \$ and cents.

To
The Post Office at

Issuing Officer.

The person to whom this order is made Payable must sign here his or her Christian and Surname at full length, except in the case of Firms, whose usual signature will suffice. Received the above, { Signature of Payee

N.B.—Payment of this Order must be obtained within six months, otherwise a second Commission will be charged: and if the Order be not Paid within twelve months, all claim to the Money will be forfeited. After once paying a Money Order by whomsoever presented the Office will not be liable to any further claim. If this form be clipped or mutilated, there may be difficulty as to paying it.  Stamp of Paying Office.

凡收者限此六日內收
單到月則收
要此期又收
收若過月則
費將個其外
則公歸銀十
充有入單庫
凡一匯人
此得再
不匯次
銀署一
有單
難收
宜謹
自慎

(SEE BACK.)

(號五第外)

(號六第外)

THIS PORTION OF THE FORM
To be AFFIXED to the FACE of the ORDER.

IMPORTANT TO THE PUBLIC

This Order is of no value except as a Receipt for the amount paid in, and should therefore be retained by the Remitter.

The Payee will receive a proper Form of Money Order from the Chief Money Order Office of the country where the Order is Payable.

THIS PORTION OF THE FORM
To be AFFIXED to the BACK of the ADVICE of Money Order drawn upon one of the following places:—

- Antigua, Bahamas, Barbadoes, British Guiana, British Honduras, Bermuda, Belgium, Canada, Cape Colony, Cyprus, Denmark, Danish West Indies, Dutch East Indies, Dominica, Egypt, Falkland Islands, Gambia, Gold Coast, Grenada, Holland, Iceland, India, Jamaica, Lagos, Montserrat, Mauritius, Norway, New Zealand, Newfoundland, Natal, New South Wales, Nevis, North Borneo, Portugal, Port Darwin, Queensland, Sweden, Seychelles, Sierra Leone, St. Helena, St. Kitts, St. Lucia, St. Vincent, Straits Settlements, South Australia, Tobago, Trinidad, Turks Islands, Tasmania, Victoria, Western Australia, Bangkok, Tangier (Morocco).

A gummed Label was affixed to the Order.

Initials of }
Issuing Officer }

CAUTION TO THE REMITTER.

You had much better send this ORDER in a REGISTERED LETTER.

COMMISSION:

On Orders not exceeding \$25	25Cents.
" " above \$25	50
No Order is granted for more than \$50.		

(號七第外)

FORM OF TELEGRAPHIC MONEY ORDER.

POST OFFICE OF PAYMENT.....

MONEY ORDER No.

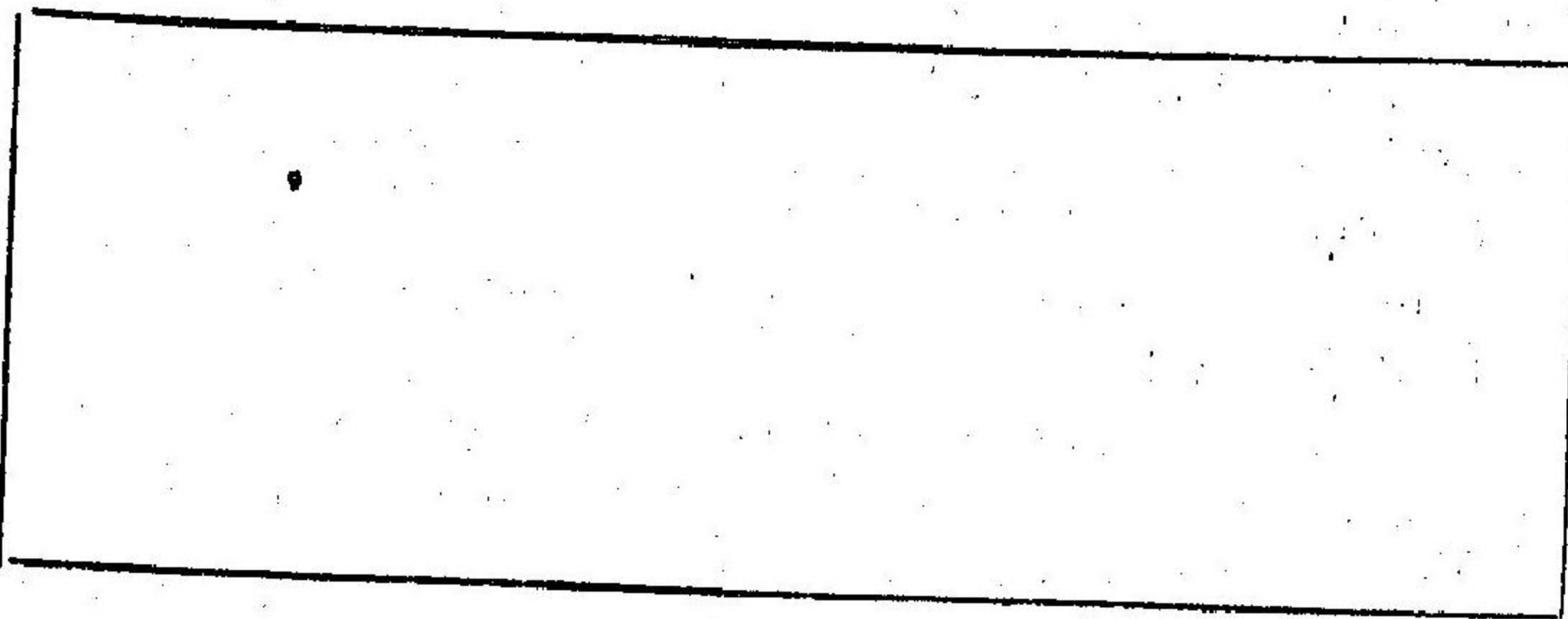
Mr.....
Mrs.....
Miss.....

PAYS.....FRANCS.....CENTIMES
(Fr.....C.....)

TO { Mr.....
Mrs.....
Miss.....

AT.....

(COMMUNICATION)



POSTMASTER

JAPAN.

(號八第外)
Avis.

ADMINISTRATION DES POSTES DU JAPON.
AVIS D'EMISSION.
Advice of Issue.

Copie d'un Mandat télégraphique déposé au bureau d
Copy of a telegraphic Money Order remitted at the office of
le
Pour le directeur
on the.....for the office of.....

(Pays.)
(Country.)

Nom de l'envoyeur Name of remitter.	Numéro du Mandat, Number of Money Order	Nom et qualité du destinataire. Name and rank of payee.	Montant du Mandat. Amount of Money Order.

A at.....le.....on the.....18

Postmaster.

Timbre du bureau d'origine.
Stamp of the office of origin.

Timbre du bureau de destination.
Stamp of the office of destination.

Bis.

ADMINISTRATION DES POSTES
DU JAPON.

Avis de payement d'un Mandat de poste.
Notice of Payment of a Money Order.
Le Mandat délivré au bureau
The Money Order issued at the Post Office

d
 at
 le
 on the
 No.
 de
 of
 au profit de M
 in favour of
 a été payé le
 has been Paid on the
 Timbre à date.
 Date stamp.

Recommandation Expresse. Cet avis
doit être transmis au bureau dui a émis le mandat, le
jour même du payement.
B.N.— This notice must be transmitted to the po-
st office which has issued the money order. on the
day of payment.

Postmaster.

(號參拾第外)

票達送券替爲便郵合聯國萬

印證領受人取受	番到爲 號到着替	印附日替爲
名氏所居人取受	印任主	爲替取扱主任
		郵便取扱主任
		集配人

第拾三類 外國郵便爲替金受拂

○外國爲替證書振出枚數制限ノ件

函館郵便局伺 明治十八年六月二十六日

外國爲替證書振出枚數制限ノ義ニ付外國郵便爲替條約書中何レモ明文無之様相見
ヘ單ニ「ポスタル、モチー、ワルドル、セルピース、ウイス、ホルレイン、カウントリ
」廣告中第四項ニ明文アルノミニ付凡テノ爲替ハ右ニ準シ取扱可然哉
(驛遞局)指令 明治十八年七月十三日
伺ノ趣ハ制限無之義ト可相心得事

但香港外五港媒介地ヘノ爲替ハ日本香港間爲替定約書第五條ノ通心得ヘシ

○告示第百七拾三號遞信省 明治二十年十月四日

自今上海ニ於テ米國爲替受拂ニ墨西哥弗ヲ使用ス

○公達第百五十六號遞信省 明治二十五年四月十二日

郵便電信局 東京、京都、大阪、横濱、神戸、長崎、函館、上海、其他外國爲替ヲ取扱ハサル局ヲ除ク

郵便局上

自今外國爲替金ハ最近ノ遞信公報ニ掲載スル外國貨幣換算相場表ニ依リテ換算ス
ヘシ

第十四類 外國郵便爲替料

○告示第九十七號遞信省 明治十九年十一月四日

一香港驛遞局ノ媒介郵便爲替「海峽殖民地爲替料」取扱方ノ件〔本編第九類ニ編入〕

○告示第七拾壹號遞信省 明治二十年四月二十一日

本邦ト香港トノ郵便爲替定約ニ據リ取扱フ爲替ノ内本邦ヨリ上海ヘ振出ノ爲替手
數料ハ左ノ通り改定ス

貳拾五圓迄

壹圓

五拾圓迄

貳圓

○告示第百九拾號遞信省 明治二十二年十月一日

加那太郵政廳トノ間ニ締結シタル郵便爲替規約ニ依リ取扱フ郵便爲替料割合左ノ
通之ヲ定ム

米貨貳拾五弗迄

爲替料貳拾五錢

同五拾弗迄

同五拾錢

○告示第四拾壹號遞信省 明治二十三年三月八日

一内外郵便爲替料ハ郵便切手ヲ以テ納ムルノ件〔第六卷第三編第壹類ニ編入〕

○告示第百三十號遞信省 明治二十三年七月二日

本邦及英國間ノ郵便爲替改正定約公布相成タルニ付テハ其爲替料ノ割合左ノ通相
定メ東京大阪京都横濱神戸長崎函館ノ各郵便電信局及二十一年本省告示第二百十
二號ニ掲クル各省ニ於テ之ヲ取扱ハシム

爲替金五磅迄
同 拾磅迄

爲替料貳拾五錢
同 五拾錢

○告示第百五十七號遞信省 明治二十五年七月二日
郵便爲替事務約定第三條第一項ニ掲クル爲替料佛貨二十五「サンチーム」ニ對スル
相當額ハ金六錢ト定ム

○告示第百五十八號遞信省 明治二十五年七月二日
北米合衆國へ振出ヌヘキ郵便爲替料左ノ通改正ス

爲替金米貨貳拾五弗迄 二十五錢
爲替金米貨五十弗迄 五十錢
爲替金米貨七十五弗迄 七十五錢
爲替金米貨百弗迄 壹圓

行現 郵便電信法例全書第拾壹卷上編終

明治二十六年 九月十九日印刷
明治二十六年 十二月十二日發行

定價金參拾五錢

編纂者

神 津 貞 造
橫濱市戸部町六丁目
百八十一番地

發行者

丸 山 寬 一 郎
東京市京橋區三十間堀
壹丁目六番地

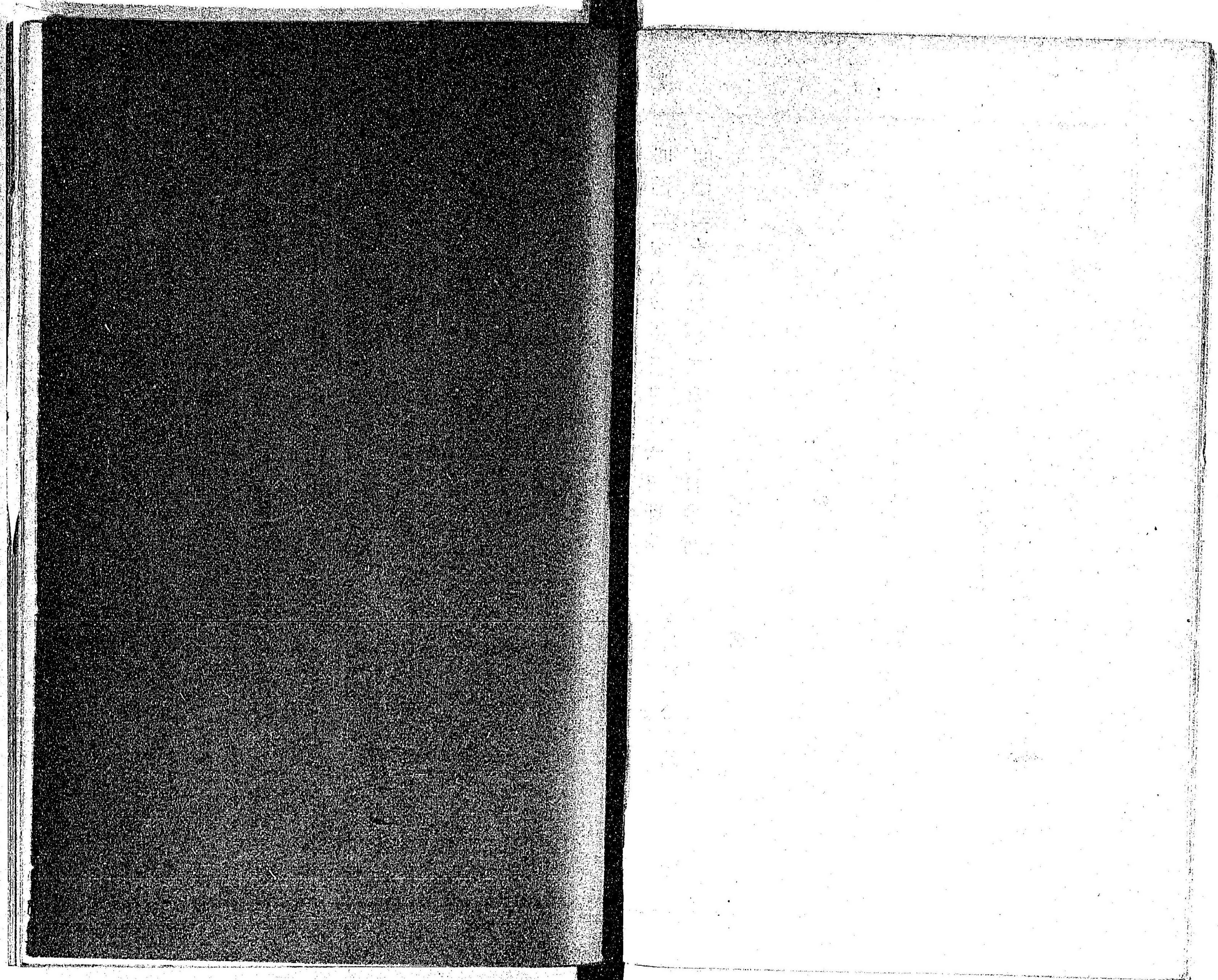
印刷者

堀 内 誠 次 郎
東京市芝區南佐久間町
二丁目十番地

發行所
大賣捌所

東京市京橋區三十間堀一丁目六番地
同市神田區裏神保町七番地

交通學館
明法堂



現行郵便電信法例全書第拾壹卷下編目次

第四編 外國電信

第壹類 萬國電信條約

第貳類 萬國電信條約細目規則

第參類 各國隨意規定

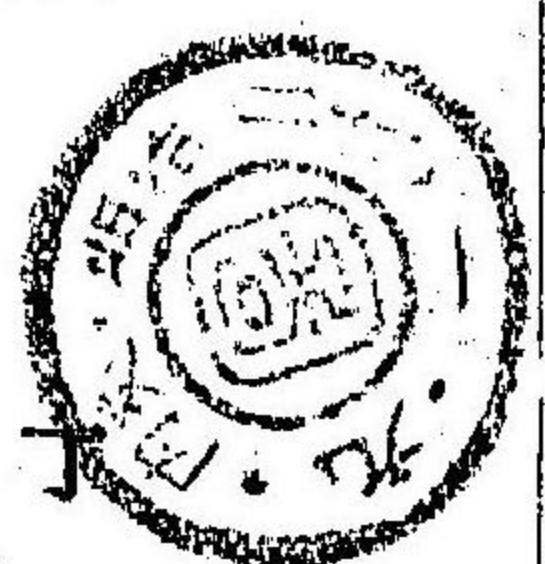
第肆類 無責任條件

第伍類 海外電報取扱

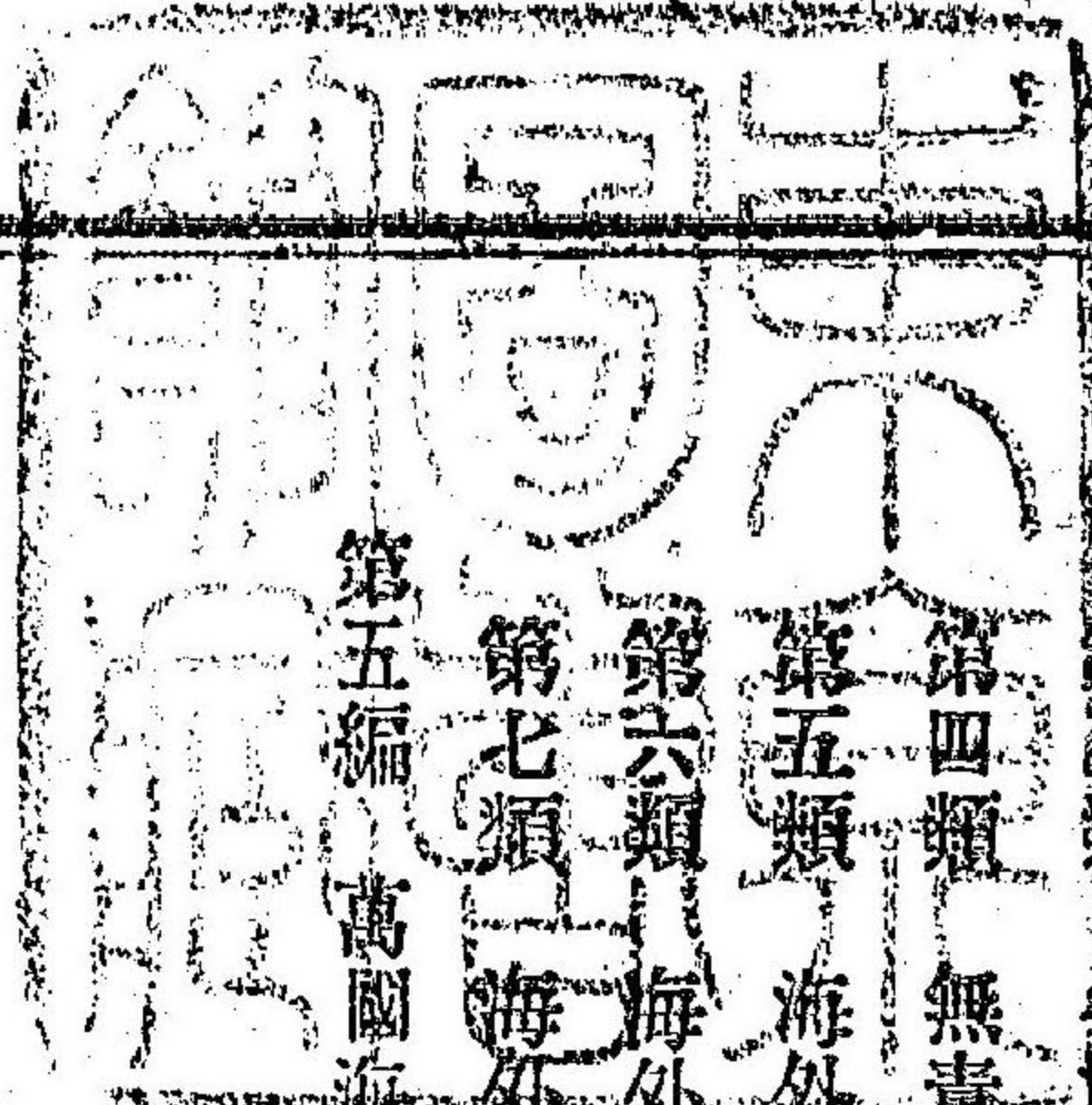
第陸類 海外電報料金

第柒類 海外電報書類

第五編 萬國海底電信線保護條約



一	丁
八	丁
百七十一	丁
二百八	丁
二百九	丁
二百十五	丁
二百八十一	丁
二百八十二	丁



行現郵便電信法例全書第拾壹卷下編索引

第四編 外國電信

內國電信外國電信何レニモ通シ用ユヘキ事項ハ內國電信ノ部第八卷ニ編入シ在ルヲ以テ宜ク發看スヘシ

第壹類 萬國電信條約

十二年十月 第四拾五號 布告

露國聖比特保府締結萬國電信條約

一丁

第貳類 萬國電信條約細目規則

廿四年六月 告示第百四十二號 遞信省

萬國電信條約書附屬細目規則

八丁

同 同 告示 知同

萬國電信條約書附屬細目規則中注意スヘキノ件

百六十三丁

第三類 各國隨意規定

廿四年七月 告示第百六十一號 遞信省

萬國電信條約書附屬細目規則中各國適宜規定スルヲ得ル事項

百七十一丁

同 九月 告示第百九十七號 同

萬國電信條約書附屬細目規則中各國適宜規定スルヲ得ル事項

百七十一丁

第四類 無責任條件

廿五年三月 告示第五十六號 遞信省

墨西哥及南米ニ到ル電報料金還付ノ責ニ任セサルノ件

二百八丁

廿五年六月 告示第四百十五號

遞信省

中央亞米利加「サルウエード」國ニ宛タル電報遲達又ハ不達ノ責ニ任セサルノ件

二百九丁

第五類 海外電報取扱

十八年五月 第九號

太政官

朝鮮國發着電報取扱並ニ海外電報國內傳送料ノ件

二百九丁

廿一年五月 公達第九十三號

遞信省

朝鮮國絕影島海軍省石炭倉庫行郵便及電報配達方ノ件

二百九丁

同 十月 外乙第一四八四號

外信局

仁川宛電報着地名記載方ノ件

二百十丁

廿三年二月 長崎郵便電信局照會

工務局

萬國電信條約書ニ依リ取扱ノ電報郵送方ノ件

二百十丁

同 四月 小倉電信局伺

遞信省

海外電報料受取證交付方ノ件

二百十丁

廿四年三月 釜山郵便電信局照會

電務局

和文暗號ヲ以テ羅馬字書載方ノ件

二百十丁

同 十一月 電通乙發第三三三四號

電務局

海外私報電報ニ秘密文字ヲ使用スヘカヲサルノ件

二百十一丁

廿五年一月 告知

遞信省

内地ヨリ外國へ郵送電報取扱及其料金徴収方等注意ノ件

二百十一丁

同 五月 釜山郵便電信局照會

電務局

電報取扱方ノ件

二百十二丁

同 十二月 大阪郵便電信局照會

同

朝鮮國發着和文電報名所記載方ノ件

二百十三丁

廿六年八月 釜山郵便電信局照會

電務局

和文暗號ヲ羅馬字ニ綴書シタル電報取扱方ノ件

二百十四丁

第六類 海外電報料金

十八年五月 第九號

太政官

朝鮮國發着電報取扱並ニ海外電報內國傳送料ノ件

二百十五丁

廿三年三月 省令第五號

遞信省

朝鮮京城ヨリ釜山ヲ經テ外國ニ至ル電報料ノ件

二百十六丁

廿四年六月 告示第四百四十二號

同

萬國電信條約附屬細目規則附錄稅表

二百十六丁

同 同 省令第五號

同

本邦ト露西亞國西伯利亞間電報料ノ件

二百十六丁

廿六年二月 告示第四十四號

同

海外電報料金及諸手數料金表

二百十七丁

十八年十月 釜山電信分局伺

電信局

海外同文電報贈寫料計算方ノ件

二百十七丁

同 十一月 赤間關電信分局照會

電信局

釜山等へ同文贈寫料取扱方ノ件

二百十七丁

十九年四月 乙第一七八〇號

電信局

返信料證券ヲ以テ發スル海外電報件名簿記載方等ノ件

二百十八丁

廿一年五月 公達第九十三號

遞信省

朝鮮國絕影島ニ在ル石炭倉庫行郵便及電報配達料ノ件

二百十九丁

廿三年三月 名古屋郵便電信局照會

內信局

外國電報受信ニ係ル郵便書留料支出方ノ件

二百七十丁

廿三年三月	省令第壹號	遞信省	萬國電信條約書ニ據ル電報ニ切手貼付方ノ件	二百七十丁
同 同	公達第四拾貳號	同	海外電報料金取扱方ノ件	二百七十丁
同 四月	小倉電信局伺	指遞信省令	海外電報料受取證交付ノ件	二百七十一丁
同 九月	東京郵便電信局照會	回電務局	海外電報返還ニ係ル料金還付ノ件	二百七十二丁
同 同	鳥取郵便電信局照會	遞信省官房第五課	海外電報料金領収證ノ件	二百七十二丁
同 十一月	公達第四百四十號	遞信省	外國電報ノ返還手數料換算方ノ件	二百七十三丁
廿四年六月	大分郵便電信局照會	回電務局	外國電報書留郵便料支辦方ノ件	二百七十三丁
同 八月	函館郵便電信局照會	同	西伯里亞料金件名簿區分計算ノ件	二百七十三丁
同 十一月	仙臺郵便電信局照會	同	外國者電報ヲ更ニ外國へ郵送スル爲メ徵收スル郵稅ノ件	二百七十三丁
同 同	金澤郵便電信局照會	同	海外電報付帶ノ郵便稅記載計算方ノ件	二百七十四丁
同 同	鳥取郵便電信局照會	同	海外電報付帶ノ郵便稅ノ件	二百七十四丁
廿六年二月	久留米郵便電信局照會	遞信省官房第五課	和文海外電報料領收證書ノ件	二百七十五丁

廿六年四月	橫濱郵便電信局照會	回電務局	海外返信料金取立方ノ件	二百七十五丁
同 五月	公達第二百四十五號	遞信省	海外電報料金徵收方心得	二百七十六丁
同 同	告示第四百四十一號	同	海外電報料金錢位未滿ノ端數切上徵收方ノ件	二百八十丁

第七類 海外電報書類

廿三年四月	小倉電信局伺	指遞信省令	海外電報料受取證交付ノ件	二百八十二丁
同 九月	鳥取郵便電信局照會	遞信省官房第五課	海外電報料金領収證ノ件	二百八十二丁
廿六年二月	久留米郵便電信局照會	遞信省官房第五課	和文海外電報料領収證書ノ件	二百八十二丁

第五編 萬國海底電信線保護條約

十八年七月	第拾七號	布告	海底電信線保護萬國聯合條約書	二百八十二丁
同 同	第拾八號	同	海底電信線保護萬國聯合條約罰則	二百九十五丁
十九年十月	告示第九拾六號	遞信省	海底電信線保護條約ヲ公斯蘭ニ適用ノ件	二百九十七丁
二十年十二月	無號	勅令	海底電信線保護萬國聯合條約ノ說明書	二百九十七丁

廿一年十二月	告示第二百八號	通信省	海底電信線保護條約ヲ加奈太外七所ニ適施ノ件	二百九十九丁
廿二年十月	告示第二百十三號	同	海底電信線保護條約ニ突尼斯國加入ノ件	二百九十九丁
廿六年二月	告示第三十五號	同	海底電信線保護條約ヲ「ソンド」諸島外ニ所ニ適施ノ件	三百丁

現行郵便電信法例全書第拾壹卷下編

第四編 外國電信

内國電信外國電信何レニモ通シ用ユヘキ事項ハ内國電信ノ部「第八卷」ニ編入シ在ルヲ以テ宣ク來者スヘシ

第壹類 萬國電信條約

○第四十五號布告 明治十二年十月十三日

本年二月露西亞國聖彼得爾堡ニ於テ萬國電信盟約ニ加入シ別冊條約書調印交換相辦候條此旨布告候事

別冊

萬國電信條約

第一條

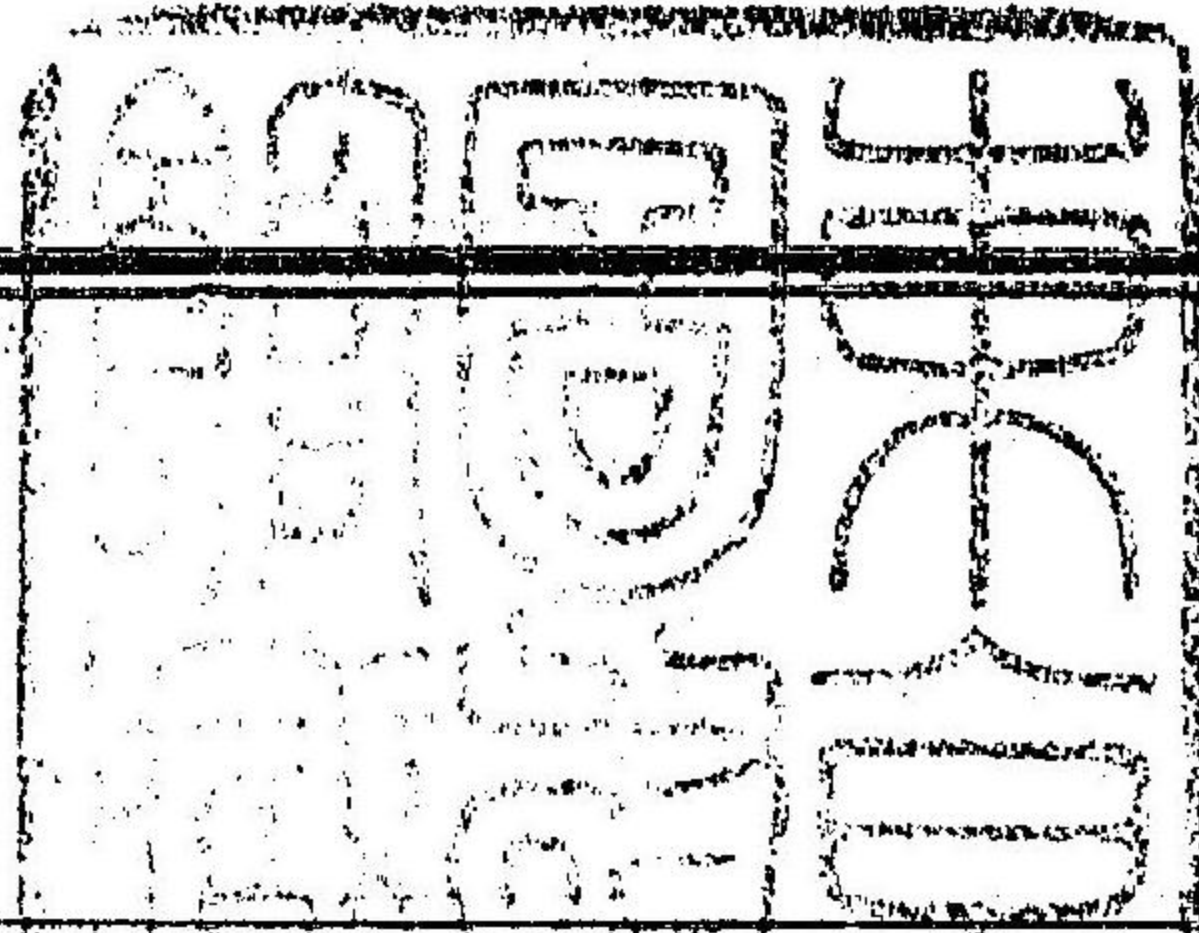
同盟各國ハ何人ヲ問ハス萬國聯合電信ノ方法ニ依テ通信スルノ權利アルコトヲ承認ス

第二條

同盟各國ハ通信ノ秘密且速達ヲ擔保スルカ爲メ必要ナル百般ノ處置ヲ爲スヘシ

第三條

然レトモ同盟各國ハ萬國電信取扱上ヨリ起ル一切ノ責ニ任セサルヘシ



第四條

同盟各國政府ハ通信ノ速達ヲ擔保スルニ十分ナル線數ヲ設備シ以テ特別ノ電線トナシ萬國電信ノ用ニ充ツヘシ

此特線ハ方今電機學經驗上ニ於テ發明セシ最良ノ方法ヲ以テ建設使用スヘシ

第五條

電信ヲ區分シテ三種トナス

第一 官報

即チ同盟國首長大臣陸海軍將帥公使又ハ領事ノ通信チ云フ

第二 局報

即チ同盟國各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國電信ノ處務ニ關シ或ハ各國協議ノ上國益トナルヘキ事件ニ關スル者チ云フ

第三 私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

第六條

官報并ニ局報ハ隨時ニ暗號ヲ用テ報スルコトヲ得ヘシ

私報ハ暗號ヲ以テ贈答スルコトヲ許シタル兩國政府ノ間ノミニ於テ之ヲ送受スルヲ得ヘシ暗號ヲ以テ書シタル通信ヲ認許セサル國ト雖モ第八條ニ云フ通信停止ノ時ヲ除クノ外其私報ヲ傳送スルコトハ許スヘキモノトス

第七條

同盟各國ハ其國ノ治安ニ害アリ其國ノ法律若クハ風儀ニ悖ルモノト看認ル私報ハ其傳送ヲ差留ルノ權アリ

第八條

各國政府ニ於テハ期限ヲ定メス一時萬國電信ノ使用ヲ停止スルヲ必要ナリト思考スルトキハ其趣ヲ同盟國各政府ヘ報知シ管下總體ノ電線或ハ一部ノ電線又ハ音信ノ種類ヲ限リ之ヲ停止スルノ權アリ

第九條

同盟各國ハ音信ノ傳送及ヒ配達ヲ一層保全且便捷ニスル爲メ同盟國電信各本局ニ於テ協議裁決シタル種々ノ方法ヲ以テ各出狀人ニ利益ヲ與ル事ヲ務ムヘシ
此各國中孰レニテモ音信ノ傳送及ヒ配達ニツキ別殊ノ方法ヲ用ルコトヲ定メ之ヲ報知スルトキハ其成法ヲ以テ亦各出狀人ニ利益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

第十條

同盟各國ニ於テ萬國稅則ヲ制定スルニハ左ノ諸件ヲ標準トスヘシ
同盟各國孰レノ兩國間ノ局ニテモ同線路ヲ以テ送受スル諸音信ノ稅額ハ此彼同一タルヘシ而シテ此法ヲ施行スルニ當リ歐羅巴ニ於テハ一國ヲ二大區ニ區分スルヲ得ヘシ
稅額ハ首尾ノ政府ト中間ノ政府ト協議ノ上各國順次之ヲ定ムヘシ

同盟各國ノ間ニ送受スル音信ニ適用スヘキ稅額ハ何時タリトモ協議ノ上之ヲ改革
増減スルコトヲ得ヘシ

萬國稅則ヲ制定スルニ方テハ「フラン」ヲ以テ貨幣ノ本位ト定ム

第十一條

同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅ニテ傳送スヘシ

第十二條

同盟各國ハ互ニ其收稅ノ計算ヲ爲スヘシ

第十三條

此條約書ハ細目規則ヲ合セテ全備スル者トス而シテ該規則ノ條件ハ同盟國各本局
協議ノ上何時タリトモ之ヲ改正スルヲ得ヘシ

第十四條

細目規則中ニ云フ同盟國中各一政府下ニ置ク萬國電信事務局ハ萬國電信ニ關スル
諸般ノ報告ヲ集メ之ヲ整理出版シ稅則并ニ細目規則ノ改正ヲ請求スル者アラハ其
書ヲ同盟國各本局ニ回達シ而シテ衆議一致シタル改正ノ件々ヲ廣告シ且萬國電信
ノ利益トナルヘキ諸項ヲ黽勉熟慮シテ之ヲ執行スル等ノ任ヲ受クルモノトス
此事務局ニ於テ庶務ヲ調理スル爲メ要スル費用ハ同盟國各本局ヨリ支給スヘシ

第十五條

第十條ニ云フ稅則及ヒ第十三條ニ云フ細目規則ハ此條約書ニ附屬シタル者ニテ條

約書ト同一ノ効ヲ有シ且同時ニ施行スヘキモノトス

右稅則及ヒ細目規則ハ會議ノ上更改スルヲ得ヘシ其際ニ於テハ從來參與セシ各國
皆之ニ會同スルヲ得ヘシ

此會議ハ定期毎ニ之ヲ開キ而シテ毎回其次會ノ期日并ニ場所ヲ定ムルモノトス

第十六條

此會議ハ同盟各國ノ諸本局ヨリ派出スル所ノ理事官ヲ以テ成立スヘキモノトス
會議ニ於テハ各本局ノ理事官數名アリトモ決議ノトキハ一人ヲ以テ算ス但一政府
下ノ諸局ヨリシテ各此會議ニ列セント欲スルトキハ外國交際上ノ手續ヲ經テ期日
前ニ其會議ヲ開クヘキ國ノ政府ヘ照會シ各別ノ理事官ヲ派出セシムルトキハ此限
ニアラス

右會議ニ於テ改正スル件々ト雖モ同盟國各政府ノ批准ヲ經タル後ニ非サレハ施行
スヘカラス

第十七條

同盟各國ハ萬國一般ニ關係セサル事務上ノ點ニ就テハ各國各自諸般ノ約定ヲ爲ス
ノ權ヲ有ス

第十八條

方今此條約ニ與テサル國ト雖モ其請求ニ依リテハ之ニ加入スルコトヲ許スヘシ
右加入ハ會同ヲ開キシ國ヘ外國交際上ノ手續ヲ經テ照會スヘシ然ルトキハ該國ヨ

リ其他諸國へ之ヲ報知スヘキモノトス

加入セシ上ハ當然ニ此條約ニテ定メタル諸件ヲ行ヒ且衆益ヲ共ニスヘキモノトス

第十九條

此條約ニ加入セサル國々或ハ私立會社トノ通信ハ此條約第十三條ニ云フ所ノ規則ニ基キ愈進歩ノ通信方法ヲ以テ衆利ヲ圖リ之ヲ取扱フヘシ

第二十條

此條約ハ歐曆一千八百七十六年一月一日ヨリ施行シ永久ニ遵守スヘキモノトス若シ之ヲ廢棄セント欲スト雖モ其日ヨリ後一ケ年ヲ過ルマテハ仍ホ遵守スヘシ何レノ國ニ於テ此條約ヲ廢棄スルトモ其國ヲ除クノ外他ノ同盟國ニ於テハ依然之ヲ遵守スヘシ

第二十一條

今般ノ條約ハ同盟國各政府ノ批准ヲ得テ確定スヘキモノトス因テ其定了シタル憑證ハ勉メテ速ニ比特堡府ニ於テ互ニ相交換スヘシ右條件信證ノ爲メニ各國全權公使各其名ヲ手署シ且印章ヲ鈐ス

- 日本國
- 日耳曼國
- 澳地利國
- 匈牙利國

- 白義國
- 丁抹國
- 埃及國
- 西班牙國
- 佛蘭西國
- 大不列顛國
- 英領印度國
- 印度并歐羅巴間管轄
- 希臘國
- 伊太利國
- 那威國
- 荷蘭國
- 波斯國
- 葡萄牙國
- 露西亞國
- 瑞典國
- 瑞西國
- 土耳其國

第貳類 萬國電信條約細目規則

○告示第四百二十二號遞信省 明治二十四年六月二十二日
明治十九年^六月遞信省告示第五十七號萬國電信條約書附屬ノ細目規則及稅表ハ昨明治二十三年佛蘭西國巴里府開設ノ萬國電信會議ニ於テ左ノ通り修正議定シタルニ付本年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
萬國電信條約書附屬細目規則

綱第十三條

此條約書ハ細目規則ヲ合セテ全備スル者トス而シテ該規則ノ條件ハ同盟各本局協議ノ上何時タリトモ之ヲ改正スルヲ得ヘシ

第一篇

萬國電線

綱第四條

同盟各國政府ハ通信ノ速達ヲ擔保スルニ十分ナル線數ヲ設備シ以テ特別ノ電線トナシ萬國電信ノ用ニ充ツヘシ

此特線ハ方今電機學經驗上ニ於テ發明セシ最良ノ方法ヲ以テ建設使用スヘシ

目第一條

第一節 電報送受ノ間斷ナキ又ハ甚々頻繁ナル各電信局間ハ可及的電線ヲ直接

ニ連續セシムヘシ此電線ハ「キロメートル」ニ付七「オーム」半ヲ超過セサル電氣抗力ヲ有シ且ツ線質堅牢ニシテ電電力十分ナルヲ要ス

右ノ諸線ハ中繼局ノ手數ヲ要セス專ラ首尾兩局間ノ用ニ充ツヘシ

第二節 右ノ電線ハ首尾兩局間ノ通信ノ需要ニ應スルニ足ルヘキ線數ヲ設クヘシ該通信ノ數一日一線ニ付五百通(大約七千語)ヲ超過スルトキハ關係兩電信主管局ニ於テ更ニ直通線ヲ増設スルカ又ハ露土機ヨリ一層迅速ナル機器ヲ用フヘシ

第三節 地方ノ諸線障礙アルトキハ右ノ特線ヲ以テ諸信ヲ傳送スルコトヲ得然レトモ其全通セシ時ハ速ニ復スヘシ

第四節 首尾兩局ノ間ニ直通スル能ハサルトキハ其電信主管局ニ於テ每線一箇又ハ數箇ノ中繼局ヲ撰定シ必ス電報ヲ取扱ハシムヘシ

目第二條

第一節 各電信主管局ハ各自主管ノ區内ニアル萬國海陸電線ノ保護ニ盡力シ而シテ各線ノ良効ヲ奏ス可キ方法ヲ設定スヘシ

第二節 首尾兩局ニ於テ萬國幹線ノ電電力及抗力ヲ測定スル爲メ毎日曜日午前ニ試驗ヲ舉行シ其成績ヲ特ニ設クル簿冊ニ記載スヘシ

第三節 萬國線ヲ使用スル各部ノ長ハ此試驗方法ヲ規定シ及ヒ試驗ヲ施行スル爲メ且ツ共通事務上ノ便益ヲ計リ商議シタル條項ヲ適用スル爲メ直接ニ協議

スヘシ

目第三條

萬國線ニ於テ業務繁劇ナラサル諸局間ハ莫爾斯機、通信殊ニ頻繁ナル線上ニ於テハ更ニ迅速ナル機械ヲ用テ其事務ヲ執行スヘシ

目第四條

第一節 同盟國中ノ盛大ナル都市間ニ在テハ晝夜間斷ナク開局勤務スルコトヲ勉ムヘシ

第二節 終日勤務スル通常ノ局ハ衆人ノ爲メ少ナクモ午前八時ヨリ午後九時ニ至ルマテ開局スヘシ

第三節 一日内ニ定時限アリテ勤務スル局ノ開局時間ハ同盟國ノ電信主管局ニ於テ各々之ヲ定ムヘシ

終日勤務スル局ト雖トモ日曜日ノミ別ニ時間ヲ定メ勤務ヲ爲スハ各國隨意タルヘシ但其旨趣ヲ萬國電信總理局ニ報知シ該局ヨリ之ヲ他ノ電信主管局ニ通知スヘシ

第四節 終日勤務セサル局ト雖トモ終日勤務スル局ヘ送ルヘキ萬國電報ヲ盡ク傳送シ終ラサレハ閉局スルコトヲ得ス

第五節 一ノ直通線ヲ以テ通信スル殊邦ノ兩局間ニ閉局時限ノ符號ヲ報スルニハ其首府ノ地位最モ西方ニ在ル國ノ所轄ノ局ヨリ之ヲ發スヘシ

第六節 前節ノ規定ハ晝夜勤務局ニ於テ交代ノ時限及日誌ノ摺筆ニモ之ヲ用フヘシ

第七節 一國中ノ諸局ハ總テ一齊ノ時刻ヲ用フヘシ但其國首府ノ時刻ヲ用フルヲ以テ常例トス

目第五條

左ノ記號ハ各種ノ電信局ヲ表スル爲メ萬國電信事務用ノ書類ニ用フルモノトス

N. 晝夜間斷ナク勤務スル局

N. 2. 夜半マテ晝勤ヲ展延スル局

C. 終日勤務スル局

L. 一日内ニ定時限アリテ勤務スル局 (終日勤務スル局ヨリハ開局ノ時限短少ナルモノヲ云フ)

F. 公衆ノ電報ヲ送受スル爲ニ開キタル鐵道電信取扱所

私立電信會社ノ局

S. 號標臺

K. 發信ハ其種類ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ受領スルモ着信ハ鐵道停車場構内ニ配達スルモノ若クハ留置電報ニ非サレハ受領セサル局

E. 帝王駐登ノ間ノミ開局スル局

此記號ハ前
數項ノ記號
ニ合加シテ
用フルコト
アルヘシ

B. 浴季ノミ開局スル局

H. 冬季ノミ開局スル局

L. BC.

浴季ハ終日勤務シ其餘ハ定時限アリテ開局スル局

L. HC.

冬季ハ終日勤務シ其餘ハ定時限アリテ開局スル局

* 目下通信ヲ實施セサル局

第二篇

通信總則

網第一條

同盟各國ハ何人ヲ問ハス萬國聯合電信ノ方法ニ依テ通信スルノ權利アルコトヲ承認ス

網第二條

同盟各國ハ通信ノ秘密且速達ヲ擔保スルカ爲メ必要ナル百般ノ處置ヲ爲スヘシ

網第三條

然レトモ同盟各國ハ萬國電信取扱上ヨリ起ル一切ノ責ニ任セサルヘシ

網第五條

電信ヲ區分シテ左ノ三種トナス

第一、官報

即チ同盟國ノ首長、大臣、陸海軍將帥、公使又ハ領事ノ通信ヲ云フ

第二、局報

即チ同盟國各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國電信ノ處務ニ關シ

或ハ各國協議ノ上國益トナルヘキ事件ニ關スル者ヲ云フ

第三、私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

網第七條

同盟各國ハ其國ノ治安ニ害アリ又ハ其國ノ法律若クハ風儀ニ悖ルモノト認ル私報ハ其傳送ヲ差留ルノ權アリ

網第八條

各國政府ニ於テハ期限ヲ定メス一時萬國電信ノ事務ヲ停止スルヲ必要ナリト思考スルトキハ其趣ヲ同盟國各政府ヘ報知シ管下總體ノ電線或ハ一部ノ電線又ハ音信ノ種類ヲ限リ之ヲ停止スルノ權アリ

第三篇

電報書法及受付

網第五條

電報ヲ區分シテ左ノ三種トナス

第一、官報

.....

第二、局報

同盟國各電信局ヨリ出セル報信.....

第三、私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

網第六條

官報並ニ局報ハ隨時ニ暗號ヲ用テ報スルコトヲ得ヘシ
私報ハ暗號ヲ以テ贈答スルコトヲ許シタル兩國政府ノ間ノミニ於テ之ヲ送受スル
ヲ得ヘシ

暗號ヲ以テ書シタル通信ヲ認許セサル國ト雖トモ第八條ニ云フ通信停止ノ時ヲ除
クノ外其私報ヲ傳送スルコトハ許スヘキモノトス

網第十一條

同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅ニテ傳送スヘ
シ

目第六條

第一節 電報ハ普通語或ハ暗號ヲ以テ書載スルヲ得但暗號ハ隱語、數字又ハ祕
密ノ意味アル文字ノ三種ニ區分ス

第二節 各電信主管局ニ於テ普通語ノ私報ハ總テ之ヲ受ク然レトモ祕密ノ意味
アル文字ヲ以テ全文若クハ一部分ヲ書載シタル私報ハ之ヲ拒絕スルモノトス
同盟各國ハ隱語若クハ數字ヲ以テ書載シタル私報ノ發着ヲ拒絕スルコトヲ得
然レトモ聖比得堡府決定電信條約第八條ニ掲ケタル通信停止ノ場合ヲ除クノ
外此類ノ電報ヲ傳送セシムヘシ

第三節 各電信主管局ハ祕密ノ意味アル文字ヲ以テ書載シタル官報及事務報ハ

總テ之ヲ受クルモノトス

目第七條

第一節 普通語電報トハ萬國電氣通信ニ用フルコトヲ許シタル國語ノ一ヲ以テ
書載シ其意味ノ曉解シ易キモノヲ云フ

第二節 各電信主管局ハ其國ノ管轄地内ニ通用スル國語ノ中ニテ萬國電氣通信
ニ用フヘキ普通語ヲ指定スヘシ
羅旬語モ亦之ヲ用フルコトヲ得

目第八條

第一節 隱語電報トハ每語固有ノ意味アリト雖トモ作文全體ニ於テハ電信局ニ
テ曉解シ難キモノヲ云フ

第二節 隱語ハ萬國通信上ニ使用スルコトヲ許シタル隱語集若クハ萬國電信總
理局編纂ノ隱語集ヨリ採擇スヘシ
萬國電信總理局編纂ノ隱語集ハ其刊行ノ日ヨリ起算シ三箇年ノ後ニ於テ必ス
之ヲ使用スヘシ

但歐羅巴外ノ方法ヲ用アル通信ニ關シテハ隨意タルヘシ

第三節 隱語ハ字數十字ヲ以テ一語ノ極ト定メ而シテ日耳曼、英吉利、西班牙、
佛蘭西、荷蘭、伊太利、葡萄牙、及羅旬ノ國語中一國語ヲ單用シ若クハ數國語
ヲ混用スヘシ

第四節 萬國電信總理局編纂ニ係ルモノ、外隱語集ニ固有名詞ヲ用フヘカヲサ
ルモノトス故ニ該局編纂外ノ隱語集ニ據ル隱語電報中ニ固有名詞ヲ記入スル
トキハ其本意ヲ用フルモノニ限ル

第五節 右ノ規定ヲ實踐セシヤ否ヤヲ查閱シ且其用語ノ確實ナルヤ否ヤヲ檢査
スル爲メニ發信局ニ於テハ隱語集ノ閱覽ヲ要ムルコトアルヘシ

目第九條

第一節 數字電報トハ秘密ノ意味アル數字ノ聯集若クハ聯續ヲ以テ本文ノ全部
若クハ一部分ヲ作リタルモノヲ云フ

第二節 私報ノ數字文ハ必ス亞刺比亞數字ヲ以テ作ルヘシ

目第十條

第一節 電報ハ萬國電信字號ニ翻書スヘキ文字ニシテ且發信國ニ通用スルモノ
ヲ以テ明瞭ニ書載スルヲ要ス

第二節 右ノ文字又ハ記號ハ左ノ如シ

- | | | |
|----|----|----|
| 1. | R. | A. |
| 2. | S. | C. |
| 3. | T. | D. |
| 4. | U. | E. |
| 5. | V. | F. |
| 6. | W. | G. |
| 7. | X. | H. |
| 8. | Y. | I. |
| 9. | Z. | J. |
| 0. | | K. |
| | | L. |
| | | M. |
| | | N. |
| | | O. |
| | | P. |
| | | Q. |

數字

文字

句讀點其他記號

- 終點
- 讀
- 小讀
- 重點
- 問標
- 感符
- 略符
- 連續點
- 括弧
- 轉倒句讀
- 分數母子間歸除線
- 字下線
- 局用符號
- 至急私報
- 課金事務報
- 返信料濟電報

RP. ST. D. [-] (/) ['] () [-] ['] (!) [?] [] [] [] []

至急返信料濟電報

照校電報

受信報知ヲ要スル電報

受信報知

追尾電報

郵稅前納

書留郵便

別使賃前納

騎使賃前納

無織配達電報

本人交付電報

其爾斯機ノミニ用ユル文字

Ä、Å又ハ、A、N、Ö、Ü、

器土機ノミニ用ユル記號

MP. RO. EP. XP. PR. PP. FS. CR. CR. TC. RPD.

十字符

二重連續點

第三節 電報ノ文言ヲ加削改正スルトキハ發信人若クハ其代人ニ於テ憑證ヲ爲スヘシ

目第十一條

電報ハ左ノ順序ニ依リ書載スヘシ

- 一、各種ノ指定
- 二、名處
- 三、本文
- 四、記名

目第十二條

第一節 發信人ハ住所配達、返信料濟、受信報知、至急電報、照校電報、追尾電報、無織配達電報、本人交付電報等ノ指定ヲ信紙中名處ノ前ニ記入スヘシ

第二節 連名電報ノ發信人ハ時宜ニ依リ各受信人名處ノ前ニ右ノ指定ヲ記載スヘシ然レトモ至急若クハ照校ノ連名電報ニ關シテハ唯第一名處ノ前ニ其指定ヲ記載スルヲ以テ足レリトス

第三節 右ノ指定ハ目第十條ニ定メタル略符號ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テハ必ス括弧ニテ之ヲ圍ミ一語トシテ計算スヘシ若シ普通語ヲ以テ